



東京あだちキャンパス建築風景

事業報告書 2019年度

2020年5月31日
学校法人 文教大学学園

学校法人の概要

建学の精神・理念	2
[1] 建学の精神・理念	2
[2] 学園の中長期計画	2
沿革	4
役員及び教職員に関する情報	5
[1] 役員の概要	5
[2] 理事・監事一覧	5
[3] 評議員一覧	5
[4] 教職員の概要	5
設置学校等	6

事業の概要

当該年度の主な事業の概要	7
[1] 主な事業の目的・計画	7
[2] 進捗状況	9
教育研究の概要	26
[1] 教育研究上の基本となる組織に関する情報	26
[2] 教員組織及び教員数並びに教員の保有学位、業績に関する情報	26
[3] 学生に関する情報	27
[4] 教育課程に関する情報	36
[5] 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関する情報	43
[6] 学習環境に関する情報	44
[7] 学生等納付金に関する情報	51
[8] 学生等支援と奨学金に関する情報	56
管理運営の概要	60
[1] 文教大学学園	60
[2] 文教大学・大学院	61

財務の概要

学校法人会計・勘定科目の概要	62
当該年度の財務状況	63
[1] 財産目録	63
[2] 収支計算書	64
・資金収支計算書	64
・活動区分資金収支計算書	65
・事業活動収支計算書	66
・貸借対照表	67
経年比較	68
[1] 収支計算書の推移	68
・資金収支計算書	68
・事業活動収支計算書(消費収支計算書)	69
・貸借対照表	70
[2] 財務比率の推移	71
・事業活動収支計算書(消費収支計算書)の比率	71
・貸借対照表の比率	72
経営状況の分析	73
監事の監査報告書	74

“教育力トップ”の 学園を目指して

文教大学学園 理事長 野島 正也



2019年度の学園の事業報告書を供覧いたします。本報告書は、文教大学学園が2019年度に実施した諸事業について関係各位に広くお知らせし、本学園についてのご理解を更に深めていただくための一助として作成するものです。

文教大学学園は1927年の創立以来、大学を中核として付属幼稚園から大学・大学院までを有する学習者総数約1万人の総合学園に発展し、2017年には創立90周年を迎えました。こうした学園の発展は社会全般からのご支援の賜物であり、改めて厚く御礼を申し上げます。

国内外の経済・政治・社会構造が目まぐるしく変化する中、来る100周年も含めた今後の学園の更なる発展のためには、一段の教育力向上や経営基盤強化が求められる状況となっております。

こうした課題意識のもと、学園は2009年から「教育リーディング・ユニバーシティ文教～教育力トップを目指す～」をビジョンフレーズとして、「学園経営戦略 第1次中期経営計画(2009-2012)」、「同 第2次中期経営計画(2013-2016)」を経営・教学の緊密な連携のもとで進めました。その成果として、当時最大の懸案であった附属学校校舎の耐震化については、2014年に附属小学校新校舎、2016年に附属中学校・高等学校の新校舎とグラウンド及び付属幼稚園の新園舎が完成いたしました。

今日、従来予想を上回る速度と規模で高度化・多様化・グローバル化が進行し、大学等教育機関に対する社会のニーズも急速に変化しております。学園は、現在進めている大学新キャンパス開設を契機として、附属学校も含めた学園全体における志願者獲得や教育力・進学

実績・就業力の向上、経営における財政基盤の安定等の各種課題に対して、教職員が一丸となって取り組むことが極めて重要と認識しています。

そうしたことを踏まえ、学園は2018年1月、学園のミッション「『人間愛』の教育」及びビジョン「～教育力トップを目指す～」を継承した新たな中期経営計画として「文教アクションプラン2021(2017-2020)」を策定し、現在実行している最中にあります。

「文教アクションプラン2021」では、各校の改革推進の実質化を図ることを主眼としており、各校の4年後の目標、達成目標及びアクションプランは主体たる各校が策定しています。現在は目標実現に向け、各校カテゴリー別に重点化したアクションプランを着実に実行しています。

また、学園は2021年、東京都足立区花畑に大学の新たなキャンパスである「東京あだちキャンパス」を開設し、現在湘南キャンパスに設置している国際学部と経営学部を移転いたします。東京あだちキャンパス開設計画に基づき、引き続き学長のもと、大学の検討体制を整備し、今後、学部等再編や教育力強化を具体的に進めてまいります。

これからも学園は建学の精神・理念である「人間愛」をベースとしつつ、「教育力トップ」の学園の実現を目指して、最大限の努力を傾注してまいります。皆様方の一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

[1] 建学の精神・理念

文教大学学園の建学の精神は「人間愛」です。「人間愛とは、人間性の絶対的尊厳と、その無限の発展性を確信し、すべての人間を信じ、尊重し、あたたかく慈しみ、優しく思いやり、育むこと」です。

学園は、1927年に「立正精神」を建学の精神・教育理念として設立され、今日では幼稚園、小学校、中学校、高等学校、外国人留学生別科、大学7学部、専攻科、大学院5研究科を擁する総合学園に発展しました。学園設立当初の教育理念「立正精神」は日蓮聖人によって体得せられた法華経の精神で、人間性の絶対的尊厳と、その無限の発展性を確信し、理想社会の実現を期するもので、現代においてこれは生命の尊厳を基盤とする「人間愛」という言葉で表わされています。

「人間愛」の精神は、なによりも「生命(いのち)を大切にすること」の上に成り立っています。私たち一人一人の生命(いのち)は、そ

れが誰の生命であっても、かけがえのないもので、何ものにも換え難く大切なものです。「人間愛」の精神は、人と人が認め合い、尊敬し合い、許し合い、思いやる、そういう社会が必ず実現することを望み確信する心です。

学園では、園児・児童・生徒・学生等の学習者が知識や技能・技術を学修するに当たって、「人間愛」の精神(こころ)を人格の中核として形成することを大切に考えています。本来、教育の本旨は人格の形成にあるからです。

「人間愛」の教育の実践は、「園児・児童・生徒・学生の喜ぶ顔が見たい。子どもたちに悲しい思いをさせない。悲しむ顔は見たくない。」と教職員一同が心から思うところにあります。現在、学園では、教職員と子ども、子どもと子ども、教職員と教職員などの間で「人間愛」の精神が醸成され、各学校の教育の柱として展開されています。

[2] 学園の中長期計画

文教大学学園は、学園が中長期的に抱える諸課題及び重点事業に対応するため、「教育リーディング・ユニバーシティ文教 ～教育カトップを目指す～」をビジョンフレーズとして、2009年度から「学園経営戦略 第1次中期経営計画(2009-2012)」(以下、「1次中計」)、2013年度から「第2次中期経営計画(2013-2016)」(以下、「2次中計」)を推進してまいりました。学園のハード(校舎リニューアル等)及びソフト(教育力強化、組織・制度改革等)両面に跨る包括的かつ大規模な計画として策定した「1次中計」から校舎の耐震化・リニューアルを継続しつつ、「2次中計」では「教育力」と「経営力」を抜本的に強化し、将来にわたって選ばれ続けるトップクラスの教育機関となるための基盤を早期に築いていくことを基本目的とした「アクションプラン」を策定し、経営と教学との緊密な連携のもと、実行してまいりました。

中期経営計画の策定・実行による効果は大きく、特に、現在進めている大学新キャンパス開設を契機として、附属学校も含めた学園全体における志願者獲得、教育力強化、進学・就職実績向上、学園財政基盤の安定化等の課題に対して、学園全体で取り組んでいくことが極めて重要と認識しています。そこで、これまでに実施してきた学園経営戦略の総括を踏まえ、学園のミッション「『人間愛』の教育」及びビジョン「～教育カトップを目指す～」を継承し、2018年1月に新中期経営計画「文教アクションプラン2021」を策定いたしました。

「文教アクションプラン2021」は、「改革推進の実質化」を図ることを主眼とし、2020年度までの具体的な目標や重点化したアクションプランを各校が「主体的に策定・実行していくこと」に特徴が

あります。学園の「4年後の目標」*のもと、学校改革の推進主体である各校は、それぞれの「4年後の目標」*と「達成目標」を設定し、その目標実現のための施策として策定した「アクションプラン」を着実に実行中です。

理事会は「経営・管理」部門のアクションプランの実行のほか、各校の進捗状況の報告(年1回)を受け、各アクションプランに設定している達成指標に照らして進捗度合いを測るとともに、アクションプランの評価・改善に関わることで、各校の計画推進の支援を担っています。併せて、専任教職員に対して進捗状況の情報公開及び意見募集を行うことで、PDCAの概念に沿ってアクションプランを滞りなく進め、かつその成果をあげていけるように努めてまいります。

* 学園及び各校の【4年後の目標】

学園：総合学園の維持・発展

大学：東京あだちキャンパス開設を契機とする大学の発展

附属中学校・高等学校：「慈愛の心」「輝く知性」「世界に飛翔する力」の育成

附属小学校：「ふるさとのような小学校」唯一無二の豊かな教育・選ばれる学校の確立

附属幼稚園：「選ばれ続ける幼稚園」の実現

BUNKYO ACTION PLAN 2021

文教大学学園経営戦略中期経営計画

ミッション 『人間愛』の教育 ビジョン ～教育カトップを目指す～

○ていねいに、たくましく育てる文教 ○地域・社会・世界につながる文教

4年後の目標

総合学園の維持・発展

- 「キャンパス新構想」の着実な実現へ
- 教育インフラの充実を図り、強い競争力を実現する
- 財政を強化し、学園の更なる発展のための基盤を整備する
- 社会のニーズに応えられる文教ブランドを確立する

目標達成

学習者1万人以上
学習者の満足度90%以上

大学

4年後の目標 東京あだちキャンパス開設を契機とする大学の発展

達成目標 有機的に連携した3キャンパス体制を2021年度に実現する

アクションプラン

キャンパス新構想

- キャンパス新構想の実現と更なる深化

募集

- 高大接続改革に伴う入試制度の構築

教育

- 教職課程の整備と更なる充実

研究

- 研究支援体制の強化とコンプライアンスの推進

学生生活

- 学生支援室の更なる充実と、学習支援体制の構築

地域・社会連携

- 連携活動に関するマネジメント体制の確立

内部質保証

- 内部質保証推進体制の構築

中学校・高等学校

4年後の目標 「慈愛の心」「輝く知性」「世界に飛翔する力」の育成

達成目標 国公立大学、早慶上理、GMARCH合格者計130人以上

アクションプラン

募集・広報

- 志願者数の増加(定員の充足)
- 入学者の質の確保

教育

- 生徒の学力の向上
- 新教育課程の構築

研究

- 教員の指導力の向上

生徒生活

- 豊かな人間性と強い心の育成
- 基本的生活習慣の確立

進路・キャリア

- 進学実績の向上
- キャリア教育の充実
- 文教大学との連携

地域・社会連携

- ボランティア活動の推進

国際交流

- コミュニケーション力の向上
- 海外語学研修・留学・進学の充実

小学校

4年後の目標 「ふるさとのような小学校」唯一無二の豊かな教育・選ばれる学校の確立

達成目標 定員50名に対し、安定した倍率・志願者の確保/保護者の満足度9割以上の維持

アクションプラン

募集・広報

- 倍率3倍以上の志願者の確保

教育

- 自ら学び続ける子どもを育てる教育の実践
- グローバルに羽ばたく子どもを育てる教育の推進

研究

- 1時間ごとに成長できる学校「深い学び」の推進
- 文教大学附属小学校型アクティブラーニングの確立

児童生活

- 人間愛あふれる文教っ子「大切な八か条」に基づく豊かな教育の実践と推進

進路指導

- 一人一人の夢を実現させる進路指導
- 進学校への輩出

保護者・地域連携

- 学校教育と家庭教育の連携
- 地域に貢献し地域に愛される私立小学校としての確立

幼稚園

4年後の目標 「選ばれ続ける幼稚園」の実現

達成目標 入園者60名の確保/保護者の満足度9割以上

アクションプラン

募集・広報

- 安定した入園者の確保

教育

- 「生きる力の土台を広げる教育」の推進

研究

- 時代の変化に対応した幼稚園の在り方の構築

園児生活

- 「素直で明るい元気な子ども」の持続的な実現

進路支援

- 附属小学校を含めた希望の小学校への進学実現

保護者・地域連携

- 「保護者との連携重視の幼稚園」と「地域ニーズに応える幼稚園」の発信

経営・管理

【アクションプラン】

教育環境

- 競争力を持った教育環境の整備

財政

- 強固な財政基盤の確立

組織

- 変化に対応できる組織力の強化

広報

- 戦略的広報活動の展開

和暦	西暦	沿革
昭和2年	1927年	▶馬田行啓、小野光洋によって荏原郡大崎町(現品川区東大崎)に立正幼稚園、立正裁縫女学校創立
昭和3年	1928年	▶財団法人立正学園設立、立正女子職業学校設立
昭和4年	1929年	▶立正女子職業学校を立正学園女学校と校名変更、荏原郡荏原町(現品川区旗の台)に移転
昭和7年	1932年	▶立正学園高等女学校設立
昭和22年	1947年	▶学制改革により立正学園中学校設立
昭和23年	1948年	▶学制改革により立正学園女子高等学校設立
昭和26年	1951年	▶財団法人立正学園を学校法人立正学園と法人組織変更 ▶立正学園小学校設立
昭和28年	1953年	▶立正学園女子短期大学設立、家政科設置
昭和37年	1962年	▶短期大学に英語英文科、児童科設置
昭和38年	1963年	▶短期大学に文芸科、栄養科設置
昭和41年	1966年	▶埼玉県越谷市に立正女子大学設立、家政学部家政学科設置
昭和43年	1968年	▶家政学部に児童学科増設 ▶立正学園女子短期大学を立正女子大学短期大学部と校名変更
昭和44年	1969年	▶立正女子大学に教育学部初等教育課程、中等教育課程設置
昭和51年	1976年	▶立正女子大学に人間科学部人間科学科設置 ▶立正女子大学を文教大学と、短期大学部を文教大学女子短期大学部と校名変更
昭和52年	1977年	▶文教大学を男女共学とする
昭和55年	1980年	▶文教大学に情報学部広報学科、経営情報学科設置
昭和58年	1983年	▶学校法人立正学園を学校法人文教大学学園と法人名称変更
昭和60年	1985年	▶情報学部及び女子短期大学部を神奈川県茅ヶ崎市に移転 ▶品川区旗の台に文教大学経営情報専門学校設立
昭和61年	1986年	▶情報学部に情報システム学科増設
昭和62年	1987年	▶文教大学に文学部日本語日本文学科、英米語英米文学科、中国語中国文学科設置
平成2年	1990年	▶文教大学に国際学部国際学科設置
平成4年	1992年	▶文教大学に専攻科教育専攻科教育学専攻設置 ▶立正幼稚園を文教大学学園幼稚園と名称変更
平成5年	1993年	▶文教大学に大学院設置、人間科学研究科修士課程設置 ▶文教大学に外国人留学生別科設置
平成10年	1998年	▶人間科学部に臨床心理学科増設 ▶教育学部の初等教育課程を学校教育課程と名称変更 ▶文教大学附属中学校・高等学校を男女共学とする
平成11年	1999年	▶大学院に言語文化研究科修士課程設置
平成12年	2000年	▶大学院人間科学研究科に博士(後期)課程増設 ▶国際学部に国際コミュニケーション学科、国際関係学科増設 ▶女子短期大学部の文芸科を現代文化学科、英語英文科を英語コミュニケーション学科、栄養科を健康栄養学科、家政科をライフデザイン学科に名称変更
平成15年	2003年	▶教育学部に心理教育課程増設 ▶女子短期大学部を単科の健康栄養学科と組織変更
平成17年	2005年	▶大学院に情報学研究科修士課程・国際協力学研究科修士課程設置 ▶大学院人間科学研究科に人間科学専攻修士課程増設 ▶文教大学学園幼稚園を文教大学附属幼稚園と名称変更
平成19年	2007年	▶大学院に教育学研究科修士課程設置
平成20年	2008年	▶人間科学部に心理学科増設 ▶国際学部国際コミュニケーション学科を国際理解学科、国際関係学科を国際観光学科と名称変更
平成22年	2010年	▶文教大学に健康栄養学部管理栄養学科設置
平成24年	2012年	▶大学院言語文化研究科に博士(後期)課程増設
平成26年	2014年	▶情報学部を改組し、情報社会学科、メディア表現学科増設 ▶文教大学に経営学部経営学科設置
平成27年	2015年	▶大学院に国際学研究科修士課程設置
平成29年	2017年	▶文学部に外国語学科増設
令和2年	2020年	▶教育学部に発達教育課程設置

[1] 役員の概要

役職名	定員数	現員数
理事	12~16	16
監事	2	2
評議員	38~55	51

[2] 理事・監事一覧

役職名	氏名(所属・選出)	担当名
理事長	野島 正也(理事長)	
副理事長 (常務理事)	新熊 基(法人事務局長)	総括・経営企画/教育環境整備(新キャンパス開設を含む)/財務/人事・労務/学園情報システム/ 危機管理対策:旗の台キャンパス・石川台キャンパス
常務理事	宮原 辰夫(国際学部教授)	総括・経営企画/教育環境整備(新キャンパス開設を含む)/教育・研究支援/寄附金/付属学校/ 危機管理対策
常務理事	根本 俊男(経営学部教授)	総括・経営企画/教育環境整備(新キャンパス開設を含む)/財務/人事・労務/学園情報システム/大学
理事	近藤 研至(文教大学学長)	教育環境整備(新キャンパス開設を含む)/大学
理事	益田 勉(人間科学部教授)	学園情報システム
理事	長谷川 清(文学部教授)	教育・研究支援/危機管理対策:越谷キャンパス
理事	石塚 浩(経営学部教授)	地域・社会・国際貢献支援
理事	中島 滋(健康栄養学部教授)	危機管理対策:湘南キャンパス
理事	戸田 弘美(附属中学校・高等学校長)	学園校友会/地域・社会・国際貢献支援/付属学校
理事	本田 勝浩(経営企画局長)	教育環境整備(新キャンパス開設を含む)/財務/人事・労務/広報戦略/学園校友会/寄附金
理事	宮越 昭彦(大学事務局長)	人事・労務/教育・研究支援/地域・社会・国際貢献支援/大学
理事/非常勤	岡本 久暢(学識経験者)	広報戦略/学園校友会/寄附金
理事/非常勤	土屋 隆英(学識経験者)	—
理事/非常勤	浜脇 麻起子(学識経験者)	—
理事/非常勤	若松 豊樹(学識経験者)	—
監事/非常勤	佐藤 善吉	
監事/非常勤	大内 康裕	

[3] 評議員一覧

役職名	氏名	役職名	氏名
評議員(学外)	安岡 紀子	評議員(学内)	新熊 基
評議員(学外)	和田 俊子	評議員(学内)	本田 勝浩
評議員(学外)	杉田 知佳子	評議員(学内)	宮越 昭彦
評議員(学外)	磯部 守孝	評議員(学内)	長谷川 明
評議員(学外)	秋元 努	評議員(学内)	星 薫泰
評議員(学外)	石田 恒好	評議員(学内)	乳井 英太
評議員(学外)	海谷 隆彦	評議員(学内)	秋山 美栄子
評議員(学外)	田辺 武光	評議員(学内)	長谷川 清
評議員(学外)	戸田 あきら	評議員(学内)	今井 陽子
評議員(学外)	前田 久明	評議員(学内)	佐久間 勲
評議員(学内)	高橋 克巳	評議員(学内)	菅原 周一
評議員(学内)	布柴 靖枝	評議員(学内)	中島 滋
評議員(学内)	白井 啓介	評議員(学内)	鈴木 誠
評議員(学内)	佐野 昌己	評議員(学内)	相原 真佐巳
評議員(学内)	椎野 信雄	評議員(学内)	村山 直樹
評議員(学内)	出井 雅彦	評議員(学内)	松川 佳史
評議員(学内)	益田 勉	評議員(学内)	斎藤 正
評議員(学内)	宮武 利江	評議員(学内)	近藤 研至
評議員(学内)	釈氏 孝浩	評議員(学内)	岡本 久暢
評議員(学内)	奥田 孝晴	評議員(学内)	土屋 隆英
評議員(学内)	松村 康弘	評議員(学内)	根本 俊男
評議員(学内)	石塚 浩	評議員(学内)	野島 正也
評議員(学内)	戸田 弘美	評議員(学内)	浜脇 麻起子
評議員(学内)	島野 歩	評議員(学内)	宮原 辰夫
評議員(学内)	保田 昇	評議員(学内)	若松 豊樹

[4] 教職員の概要

区分(本務のみ)	教員	職員	計
学校法人	—	16	16
文教大学	242	135	377
文教大学附属高等学校	37	5	42
文教大学附属中学校	22	3	25
文教大学附属小学校	15	4	19
文教大学附属幼稚園	11	4	15
合計	327	167	494

*文教大学教員数には、学長1人を含む。

各キャンパス

文教大学

越谷キャンパス

埼玉県越谷市南荻島 3337

教育学部／人間科学部／文学部
教育学研究科／人間科学研究科／言語文化研究科
専攻科／外国人留学生別科



湘南キャンパス

神奈川県茅ヶ崎市行谷 1100

情報学部／国際学部／健康栄養学部／経営学部
情報学研究科／国際学研究科



文教大学附属中学校・高等学校
文教大学附属幼稚園

旗の台キャンパス

東京都品川区旗の台 3-2-17



文教大学附属小学校

石川台キャンパス

東京都大田区東雪谷 2-3-12



学校長



大学 学長
近藤 研至



中学校・高等学校 校長
戸田 弘美



小学校 校長
島野 歩



幼稚園 園長
保田 昇

【1】主な事業の目的・計画

学園経営戦略

学園経営戦略に関する事業

- ①東京あだちキャンパス計画
- ②寄附金事業の推進
- ③リスク管理対応体制の強化事業
- ④校友会活動の推進事業
- ⑤戦略的広報活動の展開
- ⑥越谷校舎8号館低層棟及び第1警備室棟外壁等改修工事
- ⑦湘南校舎昇降機(エレベーター)更新工事
- ⑧学園省エネルギー中長期設備改善事業
- ⑨文教大学学園前田学術研究奨励金

文教大学・文教大学大学院

当該年度の教育目標

入学時の初年次教育から卒業時の卒業研究等に至る4年間を通じて、全ての学生に目が届きめ細かい教育を行います。「教育活動を通じて、学生と社会を繋ぐ『プラットフォーム』としての機能」「教育活動や日常生活のあらゆる機会において学生が自分の居場所を見つけることができ、自己肯定ができる『ホーム』としての機能」を目標に教育・研究活動を充実させます。

主な事業計画

当該年度の教育活動に関する事業計画

- ①入学前教育
- ②初年次教育
- ③カリキュラムの検証・体系化の検討
- ④担任制度とオフィスアワー制度
- ⑤キャリア形成支援
- ⑥国際交流事業の推進
- ⑦大学基準協会による認証評価結果への対応
- ⑧各学部における取り組み
- ⑨大学院教育

当該年度の研究活動・支援事業計画

- ①外部研究費(科学研究費補助金等)の獲得支援
- ②学内の競争的資金
- ③学術図書出版助成
- ④在外研究の支援

当該年度の学習者支援事業計画

- ①奨学金、奨励金及び授業料減免による学生への支援
- ②障がいや有する学生への支援
- ③100円朝食の実施
- ④海外留学希望者に対する支援
- ⑤アジアからの協定校交換留学生に対する住居費補助
- ⑥キャリアイングリッシュ講座、公務員対策講座(湘南キャンパス)
- ⑦バス通学定期券等購入代金補助事業(湘南キャンパス)
- ⑧学生の課外活動支援事業(湘南キャンパス)
- ⑨ハラスメント防止のための講習会及び啓発活動(湘南キャンパス)

当該年度の保護者又は地域連携事業計画

- ①地域、行政と大学の連携・協力
- ②学部・研究科の教育・研究と結びつけた地域連携の取り組み

- ③高大連携の取り組み
- ④生涯学習センターによる講座
- ⑤保護者との連携
- ⑥大学間の連携・協力

校舎施設整備の改善事業計画

- ①電子情報資料整備事業

【越谷キャンパス】

- ①変電設備更新工事
- ②越谷校舎再開発計画策定
- ③学生食堂厨房機器更新

【湘南キャンパス】

- ①緑地管理
- ②プロジェクターAV設備年間保守点検
- ③スタジオ設備更新
- ④データベース・電子ジャーナルの導入
- ⑤医療系データベースの導入

入試制度、募集強化事業計画

- ①2021年度入学者選抜方法の検討
- ②募集強化計画の実施
- ③入試情報サイトの充実
- ④全国入試成績優秀者に対する特待生制度の実施

「文教アクションプラン2021」の実施

その他

- ①教育学部の改組
- ②ホームカミングデーの実施
- ③教員免許状更新講習

文教大学附属中学校・高等学校

当該年度の教育目標

教育目標で掲げる「慈愛の心」「輝く知性」「世界に飛翔する力」の育成を進めます。具体的には、中学生には自立心を育てること、高校生にはグローバルな視点を持って将来の「自分像」が描けることを目標とします。また、生徒が希望する進路実現のため、「進学力」の向上を目指します。

主な事業計画

当該年度の教育活動に関する事業計画

- ①文教ステーション(Bステ)・各種講習・学習合宿の実施
- ②キャリア教育の充実
- ③タブレットPC活用の推進
- ④自立心を育てる
- ⑤オーストラリアへの短期研修・中長期留学とセブ島への語学研修の推進
- ⑥台湾修学旅行から台湾の大学進学へ

当該年度の研究活動・支援事業計画

- ①教員の授業力の向上
- ②進学実績の向上
- ③ICT(情報コミュニケーション技術)機器の活用

当該年度の学習者支援事業計画

- ①「JETプログラム」による外国語(英語)指導助手の活用
- ②プログラミング教育の推進
- ③特待生の入学金・授業料免除

④英検取得者への奨励金給付

当該年度の保護者又は地域連携事業計画

- ①保護者アンケートの実施と学年便りの配布
- ②地域における生徒のボランティア活動

校舎施設整備の改善事業計画

- ①人を呼べる校舎の追求

入試制度、募集強化事業計画

- ①学校説明会の積極的な実施
- ②多様なニーズに応えた入試制度の設定
- ③魅力ある広報活動の実施
- ④生徒募集活動の成果分析の実施

「文教アクションプラン2021」の実施

その他

- ①生徒指導上の留意点について

文教大学付属小学校

当該年度の教育目標

「慈愛の心をもった子ども」「自ら学ぶ子ども」「情操豊かな子ども」「頑張る子ども」「明朗な子ども」の育成
 ◎一人一人の可能性を大切に育み、一人一人が輝ける学校へ
 ◎「教えられる学校」から「学びを創る学校」へ
 子どもたちが自分自身の思考において活動する能動的な学びを創ります。

主な事業計画

当該年度の教育活動に関する事業計画

- ①グローバル社会で活躍する人材の育成：英語力の強化
- ②「全館図書館」のメリットを生かし、「読む力」「書く力」の言語力を強化
- ③アクティブラーニングからディープアクティブラーニング【深い学び】へ
- ④指導体制の工夫による個に応じた指導
- ⑤基礎・基本の確実な定着
- ⑥多様な学習展開による学ぶ意欲の高揚
- ⑦日常的な運動継続による体力向上
- ⑧行事や自然体験教室の取り組みによる豊かな心の醸成

当該年度の研究活動・支援事業計画

- ①校内研究の更なる充実
- ②外部研修への積極的な参加と成果の共有・還元
- ③日常的な教材の研究と準備

当該年度の学習者支援事業計画

- ①系統的なキャリア教育
- ②個に応じた補習活動
- ③適切な進路指導

当該年度の保護者又は地域連携事業計画

- ①保護者参画による行事等
- ②年間を通じた保護者による参観や面談
- ③地域連携強化による防災
- ④協力・支援を生かす同窓会

校舎施設整備の改善事業計画

- ①校舎・施設の特長を最大限に活用した学習活動の展開

②校舎内・校舎外における教育活動のバランス

入試制度、募集強化事業計画

- ①広報活動の充実と応募者増への戦略
- ②学校説明会の充実
- ③学校外説明会の充実

「文教アクションプラン2021」の実施

その他

- ①グローバルに活躍する人材の育成・「オーストラリア短期留学」の実践
「世界の中の日本」を意識した国際理解教育・異文化理解教育の充実
- ②アフタースクールとの連携
- ③「人間愛」あふれる文教っ子 大切な八か条
- ④文教っ子スタンダード
- ⑤自然学校における自然体験の充実
- ⑥防災意識の向上
- ⑦コンピュータシステム保守

文教大学付属幼稚園

当該年度の教育目標

学園建学の精神「人間愛」のもと、「素直で明るい元気な子ども」を教育目標として掲げ、教職員一丸となって子ども達を育みます。
 ①元気に挨拶ができ、正しい生活習慣を身に付けた子ども
 ②慈愛・感謝の気持ちや思いやりの心もち、感じたことを素直に表現できる子ども
 ③自分の役割を果たすとともに、自分のことは自分でやろうと努力する子ども
 ④好奇心が旺盛で、自ら積極的に行動できる子ども

主な事業計画

当該年度の教育活動に関する事業計画

- ①新しい幼稚園教育要領の趣旨を生かしたカリキュラムづくりの推進
- ②“学ぶ、をあそぼう。”の具現化
- ③生きる力の土台を広げる教育の推進
- ④豊かな感性の育み

当該年度の研究活動事業計画

- ①個々の園児の課題に対応した指導及びそれを踏まえた保護者との連携
- ②研修会への参加による教員の資質向上
- ③時代の変化に対応した幼稚園の在り方の研究及び将来展望の構築

当該年度の学習者支援事業計画

- ①「目標とする力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が身につく計画的な教育活動の実践
- ②真の学ぶ力の育成
- ③付属小学校との連携及び保護者への積極的情報提供
- ④「文教幼児教室」との連携

当該年度の保護者又は地域連携事業計画

- ①保護者との連携方法
- ②諸行事の円滑な実施と品川区私立幼稚園協会「保護者教職員連合会」の諸行事との連携
- ③地域や家庭のニーズの把握と必要な対策の実施
- ④未就園児保護者との連携及び保護者同士の交流企画の検討

校舎施設整備の改善事業計画

- ①園舎の施設設備機能の有効活用

②園児の目線に立った施設設備の整備

入試制度、募集強化事業計画

- ①保護者のニーズとのミスマッチ防止
- ②入園審査方法の精査
- ③タイムリーな情報を発信できるホームページの有効活用
- ④プレスクール実施内容の工夫

「文教アクションプラン2021」の実施

その他

- ①「文教幼児教室」との募集方法、連携の仕方を工夫
- ②保護者の満足度を高める教育活動の充実

その他の施設(八ヶ岳寮)

主な事業計画

- ①八ヶ岳学寮の運営

[2]進捗状況

学園経営戦略

学園経営戦略に関する事業

①東京あだちキャンパス計画

2021年4月の東京あだちキャンパス開設に向け、新校舎建築計画を推進しています。2019年度は4月に起工式を執り行い、本格的な建築工事に着手しました。ほぼ週1回のペースで定例会を実施し設計を具体化していく一方、定期的に工事現場を巡回し工事の進捗を確認してきました。年度末における工事出来高としては、全体の70%ほどに達しております。また、エコキャンパス推進の取り組みの1つとして建物のZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)化を計画に盛り込み、2019年度のZEB実証事業(国の補助金)で交付決定されました。

②寄附金事業の推進

2019年度は、文教大学学園の各校(幼稚園、小学校、中学校・高等学校、大学)の就学支援・教育振興等に資することを目的とした「文教サポーターズ募金」の募集を行い、223件、8,168,316円の寄附をいただきました。また2019年度より、新キャンパスの環境充実にご協力いただく「東京あだちキャンパス開設募金」の募集を開始し、410件、16,431,301円の寄附をいただきました。今後も、新規寄附金事業の推進も含め、強固な寄附金募集体制の確立を目指してまいります。

③リスク管理対応体制の強化事業

大規模地震発生時の危機管理対応能力の強化のために、以下の施策を実施しました。

- ・大規模地震対応マニュアル周知訓練の実施
新任職員(5月実施、参加者3名)及び越谷支部構成員(10月実施、参加者12名)を対象に、大規模地震対応マニュアルの周知訓練を実施しました。
- ・災害備蓄品の整備・拡充
想定残留者5,150名(越谷1,900、湘南1,300、旗の台1,600、石川台350)が3日間滞在するために必要な災害備蓄品を整備する「備蓄品整備計画(5カ年計画)」を作成し、2012年度から実行中です。2019年度は、「備蓄品整備計画(5カ年計画)」に基づき、消費期限切れとなる備蓄品の入替えを中心とした整備を図りました。

④校友会活動の推進事業

学園から卒業生に向けて、積極的に情報発信を行うことにより、卒業

生との連携強化を図りました。文教大学学園校友会報『あやなり』第6号を、幼稚園から大学院までの全卒業生約85,000名宛に、2019年8月上旬に発送し、連動したWebサイトも同時期に最新情報に更新しました。

『あやなり』に同封したアンケートは約300通の返信があり、今後の活動に活かしていきます。

⑤戦略的広報活動の展開

・募集支援広報の重点化

学園各校における志願者確保に向けた支援となる広報を受験生ニーズに応える形で重点的に実施しました。付属校各校では公式Webサイトの保守・充実に努めるとともに、大学では公式Webサイトのリニューアルに向け、学内各方面との調整を行い、2020年度初めの公開に努めました。

大学ではマス媒体や各種媒体の広告を用いたプロモーション活動を継続するとともに、対象への訴求性を重視した動画等のコンテンツ制作やWebサイト活用の広報を重点的にを行い、オープンキャンパスへの集客や入試の告知を実施しました。また、2018年度に引き続き、「学生募集強化のための高校訪問」の実施支援では、訪問者(入試アドバイザー・事務局管理職)が高校との信頼関係を構築しやすくなるように、入試制度やトピックスがわかりやすく説明できる、数種類のリーフレットやチラシ等のツールを作成しました。

2021年4月に開設が迫った東京あだちキャンパスの広報展開では、開設告知ツールとして新たなポスターやチラシを制作するとともに、特設Webサイトの内容を充実させました。中でも建設現場の工事用仮囲いのアート装飾では、地元の幼稚園や小学校の子どもたちが本学学生とともに作品を描き、また著名な卒業生にも作品創作に協力していただくことで、地域と大学との一体感を表しました。

2020年度入試における文教大学の一般入試志願者数は、19,652名となり、2018年度比で96.6%となりました。付属校各校では、それぞれ高等学校429名(102.9%)、中学校1,364名(98.0%)、小学校179名(111.9%)、幼稚園43名(45.3%)となりました。(カッコ内は2018年度比率)

《文教アクションプラン2021》の経営管理項目「広報」では、各校の一般入試志願者数の目標として、大学:2018年度比増、高校:400名、中学:1400名、小学校:125名、幼稚園:90名としていますが、各校におかれた状況により志願者実績の目標達成が分かれています。

・ブランディングコンテンツの強化

毎年度、「文教大学広告イメージ調査」を実施していますが、2019年度の学園知名度は、内容認知度で34.7%となり、年度目標の50%達成には至りませんでした。「名前だけなら知っている」という名称認知度は78.8%でした。ブランディングコンテンツとしては、2019年度も文教大学の輪郭をはっきりとさせた「育ての、文教。」というコンセプトのもと、6月29日に朝日新聞と10月17日(学園創立記念日)に読売新聞の、それぞれ東京本社版(北海道を除く東日本エリア)に「育ての、文教。」シリーズ15段カラー広告を掲載しました。今回は、朝日新聞では「芥川賞・直木賞の卒業生受賞作をモチーフにした広告」、読売新聞では「東京あだちキャンパスの建設現場の工事用仮囲いを使ったティザーズ広告」を掲載しました。芥川賞・直木賞作家の卒業生を続けて輩出した大学であること、また新たなキャンパスで実践される教育への期待を通して、「育ての、文教。」を表現することで、知名度・理解度・好意度の向上を目指した広告を掲載することができました。

・学園内の広報活動連動体制構築

2019年度から《文教アクションプラン2021》の経営管理項目「広報」の施策として学園各校に「広報連絡員」を配置しました。広報連絡員に委嘱したのは、付属校の副校長・教頭、大学のセンター長・学科

長・課程長、大学院の専攻長、事務局の課長など65名の役職者で、これにより、各校の情報素材の掘り起こし及び広報部門への情報伝達の役割を担ってもらい、円滑な情報収集体制の構築を目指しました。制度発足の初年度にあたり、インナー向け広報プレゼンテーション等を通じて啓発を進める予定でしたが、新型コロナウイルス感染症対応の影響もあり、年度末における総括ができませんでした。

⑥ 越谷校舎8号館低層棟及び第1警備室棟外壁等改修工事

建物の外壁管理については、12～15年の間隔で定期的に調査及び外壁改修工事を行うことが求められていることから、2019年度は、8号館低層棟(1998年築)及び第1警備室棟(1997年築)の外壁等改修工事を実施しました。

工事内容は、各棟の外壁補修工事を中心としながら、大規模修繕工事としての性格も持たせ、外部塗装工事、シール工事、鉄部等塗装、屋上防水工事等も同時に実施したことで、建物耐久性を回復し、外観も改善されました。

⑦ 湘南校舎昇降機(エレベーター)更新工事

湘南校舎図書館の昇降機の制御リニューアル工事を行いました。制御リニューアルとは、かご枠、乗場ドア、三方枠、敷居、レールは既存のものを使用し、それ以外を新しくすることによって機能面を向上させる工法です。これにより新安全基準に対応し、利用者の安全性が高まりました。

⑧ 学園省エネルギー中長期設備改善事業

学園は、年間エネルギー使用量(原油換算値)が合計1,500KLを超えているため、2010年に経済産業省より特定事業者の指定を受け、中長期的に年平均1%以上のエネルギー消費原単位の低減を目標に、設備改善事業を実施しています。2015年度から2019年度までの第2期中長期計画(中長期にみて年平均1%以上のエネルギー消費原単位の低減を目標とした省エネ工事5カ年計画)の5年目にあたる2019年度は、越谷校舎13号館の空調設備更新工事を実施し、既存室外機を更新しました。

⑨ 文教大学学園前田学術研究奨励金

本奨励金制度は、学園の理事であった故前田久雄氏(1965～1967年在任)からの寄附による基金を原資として、学園に在籍する学習者へ奨励金又は教材等を給付することで、学習者の英語能力向上に資することを目的とした制度です。2019年度は、英検・TOEFL・TOEICで所定の基準を満たした学生・生徒(大学48名、高等学校123名、中学校20名)に対して奨励金を給付しました。

文教大学・文教大学大学院

当該年度の教育活動に関する事業

① 入学前教育

主にAO入試、推薦入試の合格者を対象とした入学前教育を実施しました。

ア. 教育学部

学校教育課程においては、各専修の専門性に応じた課題、課題図書、問題集等を提示し、レポートや作品、解答を提出させました。心理教育課程においては、課題図書を提示し、レポートを提出させました。

イ. 人間科学部

1) 人間科学部では、各コースの学びに関係する課題図書3冊中1冊を読み、内容を要約したうえで意見をまとめてレポートを作成させました。また、大学生活を送るうえでの抱負も記述させました。

2) 臨床心理学科では、まず学科のホームページにアクセスし、学科の学び

の様子を確認させました。さらに、各教員の推薦図書の中から3冊を読み、内容を要約したうえで意見をまとめてレポートを作成させました。

3) 心理学科では、学科教員が中心となって執筆した入学後のテキスト『日々の生活に役立つ心理学』を読み、関心のある章のワーク1つを選択して、レポートを作成させました。また、大学生活を送るうえでの抱負も記述させました。

4) 人間科学部と心理学科では、上記のレポートを大学に送付させ、各学科教員がコメントをつけて返却しました。

5) 3学科共通で、Net Academy2を利用して自主的に英語学習を進めること、及びDVD教材を利用して英語やレポート力養成のための学習を自主的に進めることを推奨しました。

ウ. 文学部

各学科の専門性に応じた課題、課題図書、問題集等を提示してレポートを提出させ、担当教員が確認したうえで、必要に応じ添削・コメントを付すなどの後に返却しました。

エ. 情報学部

1) 情報システム学科及び情報社会学科では、SNSから課題を提示し、解答を提出させました。解答は学科教員により採点が行われました。また、情報システム学科では、入学前スクーリングで実施した数学プレースメントテストの結果を踏まえ、DVD講座(数学力・言語理解力)の学習を促しました。2019年12月14日には入学予定者を対象としたスクーリングを行いました。当日は、入学前テストとともに、プロジェクト演習合同発表会への見学を行い、入学後の大学での学びのイメージを深めていただきました。

2) メディア表現学科ではAO入試、推薦入試の入学予定者に対し、2020年2月15日に入学前教育を実施し、当日の参加者は約60名でした。事前に指定した図書の読後観をレポートにして持参させ、みんなの前での発表と、同時に自己紹介も行い、全員との懇親を図りました。また、当日新たに入学までの課題(指定図書の読後レポート)を課し、入学時に提出させました。

オ. 国際学部

1) 学部オリジナルテキスト『ブリッジ教材/国際学部・学習の基礎知識』による課題を提示しました。入学後、解答ノートを提出させ、添削後に返却しました。

2) 学部教員による著書『私たちの国際学の学び』(新評論)を読み、感想文の課題を課しました。各章執筆からは感想文に対して個別にコメントを書いてもらい、大学での学びの「刺激材料」としました。

3) Net Academy2で英語力レベルに関する診断テストを受けさせ、リスニングとリーディングの指定箇所を学習させました。入学後に提出させ、添削後に返却しました。

4) 上記に関する2日間のスクーリングを行いました。スクーリング後には各課題に対する解答解説集を配布のうえ、各自でチェックさせた後、ノートを回収し、その後、教員による添削作業を経て返却をしました。

カ. 健康栄養学部

1) 「食べること」の学びに必要な英単語を和訳させました。入学後、オリエンテーションで提出させ、教員がチェックしたうえで返却しました。

2) 高等学校までの数学、化学、生物の基礎力に不安がある学生を対象に、DVD講座の学習を促しました。

3) 在学生がファシリテーターを務めて、グループ別の交流会を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症への感染拡大の影響により、中止しました。

キ. 経営学部

1) 英語学習として、Net Academy2の「道場単語ランキング」のインターネット学習を促しました。

2) 経営学にかかわる基礎的知識を修得させるため、経済・経営のキーワードについて調べてもらう自主学習講座を実施しました。

3) 経営学部における『学び』の準備として、大学での学修について理解してもらう自主学習講座を実施しました。

② 初年次教育

各学部の特色を活かした初年次教育を実施しました。

ア. 教育学部

1年次開講の必修科目「基礎演習」において、大学での学習・研究を進めていくうえで必要な知識や技能を身に付けるため、まず大学での学びの意義について高校の学習との比較を行いました。次に、大学での主体的な学習・研究を進めていくために求められる「書くこと」「読むこと」「調べること」「発表すること」「話し合うこと」等について話し合いを通してしっかり捉え直させました。図書館の利用・活用方法、プレゼンテーションの方法、レポート

の書き方等も指導し、最終的に大学生として必要な基準を満たすレポートを作成できるようにしました。

イ. 人間科学部

1年次開講の必修科目「人間科学の基礎」において、大学における学びの意義と指針、図書館の利用・活用方法、情報や資料の収集方法、レジュメやレポートの作成の仕方、プレゼンテーションやディスカッションの方法等を、少人数の演習形式で実施しました。これにより、人間科学部で学ぶために必要な問題意識を高め、専門的な学習へのスムーズな導入を図りました。

ウ. 文学部

1年次開講の必修科目「研究基礎演習」(英文科は「英語研究基礎演習」)において、大学で学ぶことの意義とその内容理解を始めとし、図書館の利用・活用の方法やレポート・論文の書き方を学び、プレゼンテーション・ディベートの訓練を行う等、少人数の演習形式で実施しました。また、外国語学科では、2日間英語のみで生活し、実践的なコミュニケーション能力を養うことを目的とした「English Camp」という新入生合宿を4月末に実施、日本語日本文学科においては、1年次必修科目「日本文化研究」の総まとめとして5月末に1泊2日の研修旅行(グループ研究発表会及び文学散歩)を行いました。

エ. 情報学部

2018年度に引き続き、1年次開講の必修科目「基礎演習A・B」及び「文章演習」「文章演習Ⅰ」「文章演習Ⅱ」において初年次教育を行いました。具体的内容は学科によって異なりますが、大学での学びに必要な基礎的スキルや、日本語での論理的コミュニケーション能力を身につけることを目的に、小規模クラス編成での指導を行いました。また、目的養成系学部ではない情報学部では、各自が早くから自分の将来像を明確化したうえで自らの学びを設計することが大切です。これらの初年次教育科目では、そうした能動的な学習姿勢を涵養することも心がけました。全学部共通化を指向した教育プログラムの開発については、検討継続中で、情報学部として他学部提供できる内容の検討に着手しました。

オ. 国際学部

1年次開講の必修科目「新入生ゼミナール(春学期)」及び「基礎ゼミナール(秋学期)」を通して、通年にわたって基礎的なアカデミック・スキル修得に向けた指導を行いました。また入学後の適応教育の一環として、1年生全員が新入生ゼミナール担当教員及び上級生のリーダー学生(約30名)と共に2日間にわたる新入生研修会を学内で実施し、教員・学生間のコミュニケーションを深め、大学生活への適応機会としました。また、同研修会の運営を通して、指導的上級生のリーダーシップ能力の育成を図りました。

カ. 健康栄養学部

学内での昼食会を実施して、入学当初から新入生同士、教員及び在学生とのコミュニケーションを深めることに力を入れました。また、専門科目の基礎となる「化学」について、オリエンテーション時にプレースメント試験を実施し、習熟度別に補習授業を行いました。

キ. 経営学部

2018年度同様、1泊2日の新入生合宿を実施しました。また、新入生を対象とした経営学部の学生会企画によるスポーツ大会を実施し、新入生の連帯感、仲間作りのために有効な場となる機会を作りました。

③カリキュラムの検証・体系化の検討

各学部等で行われている定期的なカリキュラムの点検の結果等を踏まえ、文学部、国際学部及び経営学部において、新カリキュラムの導入が決定されました。(2021年度4月施行)併せて、国際学部及び経営学部においては、学生にカリキュラムの計画的な履修を促すため、各科目で学生が獲得できる知識又はスキル等を明確にしたカリキュラムマップ作成の検討を行い、カリキュラムマップのモデルを作成しました。また、学長が設置する「全学共通教育プログラム検討委員会」において、全学部の共通教育科目設置の検討を行いました。さらに、各学部のカリキュラムを有効に機能させるため、本学の内部質保証方針の見直しを行い、引き続き、PDCAサイクルの制度化を検討します。

④担任制度とオフィスアワー制度

2016年度から大学の制度として運用が開始され、担任と関係事務局が密に連携しながら、学生からの相談を受ける体制整備を図り、学生

生活の支援体制を強化しました。2019年度においても各制度について、文教大学ホームページや学生に配付する各印刷物に掲載して周知を行ったうえで実行しています。

⑤キャリア形成支援

両キャンパスの共通教育(教養)科目において、キャリア形成を考える科目を設定し、さらに、各学部において専門分野に対応したキャリア形成支援のための教育を行いました。正課内外の授業及び取り組みにより、学生が職業観を身に付け、自らの職業を考えられるよう支援しました。また、学生が各自の目標で社会への第一歩を確実に踏み出せるよう、就職活動支援の取り組みを強化しました。

2020年3月卒業生就職者の内訳は、【両キャンパス】教員26%、公務員7%、企業67%、【越谷キャンパス】教員41%、公務員10%、企業49%、【湘南キャンパス】教員4%、公務員2%、企業94%でした。

越谷キャンパスでは、低学年の進路支援として、2年生を対象に、進路を見据えた学生生活を送るための基礎力を高める「社会人基礎力講座」を5つの分野別(①教員、②企業、③公務員、④幼稚園教諭・保育士、⑤やりたいことがはっきりしない学生向け)に実施しました。3年生からは、具体的な4つの志望分野別(①教員、②企業、③公務員、④幼稚園教諭・保育士)に絞り各種ガイダンス、対策講座(一部有料)、面接講座、業界・仕事セミナーを主に水曜日5時限目に実施しました。湘南キャンパスでは、毎週水曜日3時限目に3年生の企業就職希望者を対象としてガイダンス、業界研究、面接対策講座、各種講習・講座を実施しました。また、教員採用試験、公務員試験に向けた対策講座(一部有料)を希望者向けに開講しました。

◆越谷キャンパスでの取り組み

教員就職の支援

2017年度から豊富な現場経験を持つ「教職専門員」が週3日キャリア支援課に常駐し、教職に関する進路相談、教員採用試験対策を通じ、教員を目指す学生に対し支援にあたりました。教員採用数の維持とともに、質の高い教員を輩出するために単なる試験対策に留まらない支援を全学年に向けて行いました。1年生秋から参加できる近隣の学校現場に赴くボランティア補助教員(登録制)、2年生対象教職ガイダンス(5月)、3年生対象筆記対策講座(有料・8~2月)、3年生対象基礎講座(全4回・10月)、3年生対象教授対策ゼミ(約20名グループ別・11~3月)を実施しました。2~3月に実施している3年生対象教授対策合宿ゼミは、(学外コース2泊3日、学内コース2日間)は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、宿泊と一堂に会するプログラムを中止し、感染防止に配慮しながら両コースともにグループ別に2日間で実施しました。4年生対象模試(有料・4、5月)、4年生対象二次対策講座(7、8月)は、教採試験直前対策として実施し、4年生対象教員になるための準備ガイダンス(正規、臨時別・1月)は、教壇に立つ前の責任と自覚を促すために実施しました。

企業就職の支援

民間企業経験を持つ進路アドバイザー2名が月~金2名と企業担当職員が連携しながら、個別相談を軸に各種支援行事を実施しました。3年生対象に「NAVIGATOR~road to a job offer(企業就職のてびき)」として配布、企業就職ガイダンス(年8回)の基礎資料として行事を実施しました。各種支援として、エントリーシート対策講座、自己分析セミナー、面接・グループディスカッション対策講座、企業人事採用担当者による面接力向上講座、企業に内定した4年生が講師となるリアル就活ゼミ、職務適性テスト、SPI基礎学力対策、インターンシップ対策講座、就活マナー講座、身だしなみ講座、メイクアップ講座、Uターン就職、先輩社会人講座を実施しました。3年生対象学内合同業界セミナー(計4回・1~2月)を実施し、幅広く社会を研究し、進路を決定する一助としました。

公務員就職および幼稚園教諭・保育士就職の支援

筆記試験対策(有料)として、1・2年生対象公務員試験対策基礎講座、3年生対象公務員試験対策(教養コース・教養・専門コース)、3年生対象保育士受験対策講座、志望別模擬試験を実施しました。

支援行事として、エントリーシート対策、面接対策、論文指導講座、公務員仕事入門セミナー、4年生講師による公務員合格ゼミを実施しました。学内公務員合宿(2日間)は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、一堂に会するプログラムを中止し、感染防止に配慮しながらグループ別に1日に短縮し実施しました。

◆湘南キャンパスでの取り組み

学内統一試験(適性検査)の実施

湘南キャンパスの1~3年生を対象として学内統一試験を7月13日に実施しました。対象学生に対する受験率は、1年生12.5%、2年生12.1%、3年生25.6%でした。企業採用試験で多く取り上げられている学力試験を毎年1回、1~3学年共通で実施することで自身の実力を認識し、早期から学習習慣を身に付けさせることを目的としています。また、この試験は学生の職業興味分野と行動特性を併せて調査しており、年次を追った興味関心分野を各自で認識することが可能です。結果は個々の進路相談、就職支援構築に活かされています。

筆記試験対策(SPI試験、SPI対策講座、各種検査)

就職活動を目前に控える3年生が継続した筆記試験対策を講じることができるよう、筆記試験対策(SPI試験、SPI対策講座、各種検査)を始め、検査や試験を多数実施しました。

具体的には下記の対策講座等を実施しました。対策講座を一定期間継続して実施することにより、継続して学習したい学生への指導体制の充実はもちろん、学習開始が遅れた学生指導も可能な体制を整えました。対策講座は、テキスト代として1,000円を要しました。

- ◇SPI模擬試験(3年生対象)(6/20、9/25実施)
- ◇統一試験[全学年対象](7/13実施)
- ◇筆記試験ガイダンス(3年生対象)(5/8実施 筆記試験の概要、今後の講座について説明)
- ◇基礎から始めるSPI(3年生対象)(5/22実施 前期講座の導入として基礎計算力を確認)
- ◇SPI基礎講座(前期)(3年生対象)(5/29、7/3、7/10、7/13 全4回 各回異なる内容で実施)
- ◇筆記試験全般解説講座(3年生対象)(9/25実施 SPI以外のテストについて解説)
- ◇SPI基礎講座(後期)(3年生対象)(10/2、10/16、10/30、11/6 前期と同じ内容を実施)
- ◇実力養成演習(3年生対象)(11/20実施 基礎講座で学んだ内容の実践演習)
- ◇SPI直前演習講座(2/3、2/4実施 基礎講座の実践演習の他、不得意問題の確認や復習)

面接・自己PR講座

自らの就職へ確固たる信念と高い志を持つ学生に対し、早期対策講座を実施しました。2019年度は、早期に対策を開始したい学生と、通常時期に対策を開始したい学生それぞれに対応できるよう、同じ内容の講座を前期(5月~8月)と後期(9月~12月)に設け、各10名の参加がありました。専門講師による指導を前後期各12回実施し、2020年3月に卒業した当該講座受講者(2018年度参加学生)の就職率は100%であり、参加学生の多くが希望する業界の有名企業の内定を受けている他、早期内定者、複数内定者が多いことが特徴です。(受講生自己負担額は10,000円)

面接対策合宿

3年生を対象に1泊2日の面接対策合宿を実施しました。(参加者58名)合宿では6~7名のグループに分かれて企業の人事担当者から基礎マナー、集団・個人面接対策、グループディスカッション対策等を実践の中から習得しました。参加者は、2回の事前研修を受講し、それぞれが下準備をしたうえで合宿に臨み、効果を上げました。

さらに、1回の事後研修を実施し、各自の課題解決への取り組み状況を確認し、引き続きの研鑽を促しました。実施の学生1人当たりの経費は約14,000円かかるところを、大学が半額を助成することで学生負担は7,000円としました。ちなみに、2018年度の合宿参加者の就職率は92.5%であり、早期内定者、複数内定者が多いことが特徴です。

学内合同企業セミナー

学生と企業をつなぐ支援行事として、本学学生を採用する意欲の

高い企業を中心に学内企業セミナーを実施しました。4年生対象には、個別企業セミナーを4月から100社以上実施、3年生対象(低学年も参加可能)は業界セミナーを11月から2月にかけて以下のとおり実施しました。

- ◇ゲーム業界研究セミナー(11月に実施)
- ◇業界研究セミナー(12月および2月に実施)
- ◇IT業界研究セミナー(1月に実施)
- ◇栄養士業界研究セミナー(2月に実施)

これらのセミナーに合計175社が集まり、延べ430名以上の学生が参加し、業界・業種の視野を広げ、就職につなげる良い機会となりました。毎年、合同企業セミナーや個別企業セミナーをきっかけとして、多くの企業から内定を獲得しています。

進路相談とキャリアガイダンス連携による支援強化対策

増加している個別相談に対応するため2名のキャリアカウンセラーに加え、(株)キャリアフラッグから、キャリアガイダンスもできるキャリアカウンセラー2名の派遣を受けました。中・小規模ガイダンスの企画と実施にも加わり、キャリアガイダンスとの連携を行いました。専任職員のほかにキャリアカウンセラーを常時2~3名配置することが可能となり、進路相談体制の強化へつながっています。キャリアガイダンスの実施と、個別の相談業務を一体化させることで、学生個々に応じた指導の強化、キャリア支援課訪問者の増加、就職内定率の向上につなげました。特に、コミュニケーションを苦手とする学生には好評を得ており、学生の特性に合わせた就職ガイダンスの企画立案に貢献し、成果も上げています。

⑥国際交流事業の推進

2019年度は、国際交流センターが新たな組織体制となり4年目を迎え、各学部、研究科等と国際交流センターでより積極的に連携し、多様な国際交流事業を実施しました。

- 2019年度は、新しく2校の教育機関(オーストラリア1校、フィリピン1校)と協定を締結しました。また、新規の協定以外に8校(オーストラリア1校、カナダ1校、アメリカ1校、中国2校、韓国1校、ベトナム1校、イギリス1校)との協定・覚書の更新を行いました。
- 2019年度は、協定校派遣留学10名、文学部外国語学科短期留学87名、国際学部短期留学32名、海外研修プログラム参加者205名の計334名が海外で学びました。なお、海外協定校からの交換留学生の受け入れは、学部11名、大学院1名でした。
- 海外研修プログラムでは、新しく5つのパイロットプログラムが文学部と経営学部で実施されました。(文学部:漢陽大学夏期韓国語短期研修、エンデラン大学夏期インターンシッププログラム、アテネオ・デ・ナガ大学Project Based Learning 研修、マレーシア大学Project Based Learning 研修、経営学部:タイ・スタディツアー研修)

⑦大学基準協会による認証評価結果への対応

2015年度に受審した認証評価の助言事項に対する改善報告書を作成し、大学基準協会に提出しました。3月に大学基準協会から改善報告書の検討結果を受領し、「再度報告を求める事項はない」旨の結果を得ることができました。

⑧各学部における取り組み

A. 教育学部

1) 教員・教育関係職に就く卒業生のネットワークづくり(経営戦略)

2019年9月21日(土)、教員や教育関係職に就く卒業生の交流会「文教大学教育フォーラム2019秋」が文教大学付属小学校にて開催され、卒業生、学生、大学及び付属小学校の教職員等約60名が参加しました。前回までは越谷キャンパスでの開催でしたが、6回目の開催となる今回は、初めて付属小学校を舞台として開催しました。

まず、付属小学校の1、2時間目の授業が公開され、参加者は授業を2時間参観しました。次に、ホールに移動して全体会を行い、5年生児童の合唱・合奏と、島野歩校長先生による学校紹介が行われました。その後、同じ場所で、6つのテーマ別分科会(「学級経営」「保護者対応」「主体的・対話的で深い学び」「高学年における人間関係構築」「グローバル教育」「心と身体バランスづくり」)に分かれ、それぞれ本学教員がコーディネーターとなり、情報交換や懇談を行いました。最後は、その場で懇親会となり、和やかな雰囲気の中に幕を閉じました。

全体を通して、教育関係者に就く文教大学同窓生の輪が広がったとともに、付属小学校と本学とがより一層理解を深める機会となりました。

2) 英語指導者を志望する学生向けのイギリス・ウォーリック大学での英語教育学部の英語指導者志望生(2019年度参加者19名)を対象に、英国ウォーリック大学応用言語学センターとの共同開発による研修プログラムを、春休み中に3週間実施しました。本プログラムは、①英語知識・技能、②異文化理解、③英語ティーチングを軸にして構成され、豊かな教授経験を持つ10数名の講師陣の指導の下で短期集中型で行われます。世界中から来ている学生たちとの交流に加え、地元の小学校・中学校での授業参観・実践や文化施設の訪問などが組み込まれており、研修期間中のホームステイも含めて地域の方々との交流も大きな特徴です。さらに、小グループに分かれ日・英間の教育・文化比較の視点から独自のテーマで行うリサーチ・プロジェクトは、日本人学生には一般的に高度な活動ですが、研究成果を英語で小論文・ポスターにまとめ大勢の前で口頭発表をしてフィードバックを受けたことは、卒業研究にもつながる貴重な学びの場となりました。各参加者が本研修を通しての目標達成に努力し、自分の潜在力に目覚め、専門性に加えグローバル市民性をも高められたことは大きな収穫となりました。帰国後に新たな目標に向かって、自己の可能性を拓くための挑戦を継続することが期待されます。

3) 2020年4月から新たにスタートする学校教育課程のカリキュラム改定と発達教育課程の設置及び教職課程認定の申請、同時に開設に向けた広報活動、高校訪問などを行い、設置及び課程認定が認められました。

イ. 人間科学部

1) スペシャル就活ゼミ

企業就職を目指す人間科学部の3年生を対象に、グループワークを通じて就職活動の前提となる仕事観・社会観の醸成を目指すとともに、実際の就職活動支援のためのワークショップ、キャリア・カウンセリングの組織的展開を目的に2019年度もスペシャル就活ゼミを実施しました。2010年度以来継続的に実績を積み上げています。

2) 社会福祉士及び精神保健福祉士受験対策講座

社会福祉士及び精神保健福祉士受験資格取得者に対して、2013年度から対策講座を実施しています。2015年度からは、東京社会福祉士会の国家資格取得者による国家試験対策講座を実施し、受験のポイントを指導しており、2019年度も引き続き同講座を実施しました。

3) 『先輩からのメッセージ』刊行

就職活動に当たっての先輩の経験を後輩に伝えるべく、就職活動の経験や留意点、後輩への助言等を聞き取り、冊子としてまとめ、配布を行いました。

ウ. 文学部

1) 日本語運用能力をはかる検定試験の受験費用補助

2019年度、教員志望者その他の就職活動支援の一環として、日本語関係の検定試験の受験料補助を行いました。2018年度に実施した「語彙・読解力検定」の終了に伴い、新たに設定した「論理文章能力検定」の「LEVEL10」(大学生・社会人向けに比較的高度なレベル)に5名が挑戦しましたが、残念ながら全員が不合格となりました。「日本語検定」は7名が受験し、準2級に2名が合格しました。今回不合格だった学生たちは再挑戦を希望しています。

2) 語学検定試験(TOEFL等)の受験費用補助

2019年度は英語系で2018年度より受験補助の対象を広げたことで受験者数が増加し、英検は44名(2018年度比17名増)が受験し、12名が準1級を取得しました。そのうち3名が海外短期研修(アテネオ・デ・ナガ大学、イギリス研修、モナッシュ研修)に参加、1名は2020年度秋学期の交換留学予定者となっています。TOEICは14名が受験し、うち1名がフィリピンのインターンシップ、1名がマギル大学イマージョンプログラムに参加しました。TOEFLの1名と合わせて59名が受験料の全額補助を受けました。

ドイツ語技能検定は、4名が補助を受けて受験し、3・4級ダブル合格が1名、4級合格が1名となりました。今後の学習への動機づけを高めるため、1年間の協定校留学プログラムの他に、短期語学研修プログラムの開拓、実現に向け動いています。

フランス語技能検定は、7名の受験者が補助を受け、3級と5級に各1名が合格しました。フランス語圏にはまだ協定校がないのですが、短期語学研修プログラムを立ち上げたところで、今後はその実施に注力していきます。

中国語関係の検定では、HSK(中国政府公認の語学資格)受験者6名、中国語検定受験者1名(2級に限定しているため、少人数です)が補助を受けま

した。2019年度は2名の学生が中国協定校(北京外国語大学)交換留学を行いました。また、補助を受けたHSK受験者のうち1名が、2020年度に中国の認定校(上海・華東師範大学)への留学を予定しています。

韓国語能力試験については13名が受験し、1級に4名、2級6名、3級及び最上級の6級に各1名が合格しました。このうち外国語学科1年生の2名1組が「話してみよう韓国語 東京大会2019」に応募し、スキット部門の本選で優勝しました。さらに、受験した学生のうち4名が2019年度から始まったソウル・漢陽大学の韓国語短期語学研修(サマープログラム)に参加し、1名が2020年度の協定校留学を予定しています。

3) 就職活動支援

文学部就職委員会が主体となり、4年生に依頼して就職活動体験談を執筆してもらったものを冊子『就職への道』としてまとめました。2019年度は外国語学科の2年生選択必修科目の「インターンシップ」を履修し、実際にインターン研修を受けてきた学生の体験談も載せました。また、日本語教員養成コースの体験報告会「日本語教員への道」、教員採用試験合格者の体験報告会(日文・英文・中文)と中学校高等学校の国語科教員志望者向け教育実習研究交流会(日本語日本文学科)、及び公務員試験合格者の体験報告会(中文)を開催しました。

4) 外国語学科では2年次春学期に「短期留学」を実施しました。2年生全員が、北米・ヨーロッパ・オセアニア・アジアの8校の海外の提携教育機関に分かれて英語研修を行いました。

5) 外国語学科が完成年度を迎えた後の2021年度からの新カリキュラムを構築しました。

6) 11月に、韓国・光云大学校において、協定校である北京外国語大学・韓国日本語文化学会(韓国外国語大学校)と国際シンポジウムを共同開催し、文教大学学長の講演及び文学部教員7名の研究発表が行われました。

エ. 情報学部

1) 簡にして要を得た文章を書くためには、伝えたい要旨が前半に来る「逆三角形」の書き方が望まれます。新聞に見られるこのような書き方を学ぶためにニュースパーク(日本新聞博物館)と提携し、課外授業を複数回に渡って実施しました。このような文章の書き方を学ぶことによって、学生には効果的なコミュニケーションに必要な文章の構成法を習得させています。

2) 垣根を超えた情報のやり取りが益々進む現代にあって、学生にグローバルな感覚を植え付けさせることは不可欠です。そのためにベトナムやモンゴルの提携校との交流を押し進めています。2019年度もモンゴルやベトナムへの学生研修旅行を計画・実施しました。夏のモンゴル研修には24名が参加し、モンゴル科学技術大学からも教員と学生とが本校を訪ねています。またベトナムのFTP大学からは2019年も教員の来訪があり親交を深めました。年度末のベトナムFTP大学研修には26名の参加希望者が集まり、学年・学部・学科毎の申込み人数、男女比等を考慮して、20名を選抜し事前研修を行いました。残念ながら新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、2019年の研修は中止といたしました。

3) 情報社会にあっては今後も情報経路の拡大は一層進みます。しかし、どんなに情報の伝達経路が拡大したとしても、重要なのはそこに載せるコンテンツであることに変わりはありません。その中でも特に映像表現は大事です。学生の映像表現に関する感覚を研ぎ澄ませ、高い情報処理能力を育むために、2019年度も映像分野や芸能分野のエキスパートを講師に招いた実践的連続講義を行いました。

4) 学生による学習成果物を東京ゲームショーやデジタルコンテンツEXPOなど、外部の展示会に出展し、産業界との連携を図るとともに、学生のキャリア支援を行いました。

オ. 国際学部

1) 入学前教育

学部オリジナル教材の『ブリッジ教材/国際学部・学習の基礎知識』を活用し、入学前教育から初年次教育への接続教育を継続して行いました。また、1年次学部必修「国際学入門」講座で国際学知に関する基本知識の習得と問題理解を進めるのと並行して、導入セミナー、海外研修、ボランティア、長期インターンシップ、サービサーニング等を通じての「体験知教育」を重視した教学活動を進めました。

2) 国際学部新入生研修会

学内に2日間にわたる新入生研修会を実施しました。教職員との交流や

新入生同士での協働を通して新しい環境への適応を図るとともに、国際学部での学びへの心構え育成に努めました。また、リーダー養成研修を経て研修会を企画した先輩学生(2、3年生希望者)が積極的に参画し、運営の核を担うことにより、リーダーシップ資質の育成を図ることもできました。

3) 新規海外協定校となった台湾の実践大学に教員及び学生が訪問し、合同英語イベントを実施しました。

4) 就職活動での有益性をふまえ、就職活動を開始する3年生までに計画的に英語力をつけさせることを目的に、学園経営戦略予算を活用して秋学期にTOEICを1年生全員に受験させました。学部では秋学期冒頭の基礎ゼミナールで概要と意義を伝え、11月に実施、スコアを学生に配布しました。事前・事後での英語の授業やゼミを通しての指導やフォローアップ、実施日程を検討し、より効果をあげるべく、今後もPDCAサイクルに則って指導の改善を図っていきます。

カ. 健康栄養学部

1) 理科系専門科目を学ぶうえで必須となる「化学」について、学生の基礎知識の底上げと学習意欲向上を目的とした、少人数制指導による「化学」の補習を引き続き行いました。

2) 管理栄養士国家試験対策として2019年度も、専従スタッフによる個別指導をベースとし、4年生には模擬試験(年12~14回)及び模擬試験解説授業、国家試験合格水準に達していないと判断される学生を対象とした夏期講座(延べ30日)、国家試験直前講座(2月)、業者製模試及び解説授業、2・3年生には模擬試験と学習用ノート作り等の指導・支援を行いました。

キ. 経営学部

1) 新入生の初年次教育・適応教育

新入生の初年次教育・適応教育の一環として、大学初年次への円滑な移行教育を目的とした、「経営学部新入生合宿」を神奈川県三浦市の三浦海岸で4月オリエンテーション期間中に実施しました。実施後のアンケートでは、新入生から高く評価されています。仲間意識が醸成され、経営学部での学修とは何かについて理解が進みました。

2) 2021年度カリキュラム改訂作業

2021年度からのカリキュラムについて改訂作業を終えました。改訂作業を進めるなかでキャンパス移転後のFD強化にかかる検討も行いました。

3) 就職支援活動

「キャリア観醸成」及び「就労意識向上」を基盤としたワークショップ等、年間を通じ進路開発プログラムを実施しました。

4) 海外研修・国際人育成

経営学部の新たな海外研修としてタイ研修を企画しパイロットプログラムを実施しました。

5) 経営学部セミナー

本学教員や外部研究者の現在の研究を知ってもらうため、経営学部セミナーをほぼ月に1回、教員、学生等を対象に開催しました。

6) 12月に経営学部「インターンシップ・勤労体験学習成果発表大会」を実施しました。湘南キャンパスの学生のインターンシップの成果と近隣の小学校、中学校、高校で勤労体験学習の成果が報告されました。インターンシップや勤労体験の活動に熱心に取り組む姿が示されました。キャリア教育としての意義に加え、地域連携活動としての意義も感じられる大会となりました。

7) FDの強化を図る点から、協定大学であるベトナムのFPT大学での授業とセミナーを現地で英語で実施する予定でしたが、スケジュール調整がつかず実施できませんでした。

⑨ 大学院教育

ア. 教育学研究科

1) 越谷市教育委員会及び越谷市立小学校・中学校等の地域社会と連携した実践研究を実施予定でしたが、大学院生の健康状況等の理由により、2019年度については越谷市立学校での実習を行いませんでした。

2) 2018年度、学園戦略事業として6台のタブレット端末を新たに購入するとともに、大学院生に貸与する際のルール作りを行いました。2019年度4月に入学した大学院生にも、貸与を開始し、授業や論文作成等に活用されています。

イ. 人間科学研究科

1) 臨床心理学専攻及び人間科学専攻ともに2018年度から新カリキュラム

を開始し、学生たちの効果的な学修の深化を目指しました。

2) 臨床心理学専攻では、大学院付属の臨床相談研究所における内部実習をはじめ、保健医療・教育・福祉・司法・産業分野における多様な臨床施設における外部実習を行い、実践的な学びの教育を実施しました。

3) 人間科学専攻においては、地域施設の訪問等、実際の現場を通じた実践的な学びの教育を実施しました。

4) 人間科学研究科では、修士課程大学院生及び修士の研究活動を奨励することを目的とした論文コンテスト実施し、応募論文に奨励賞を授与しました。

ウ. 言語文化研究科

1) 国際的学術交流として、11月に韓国光云大学校で開催された日中韓三カ国日本語文化国際シンポジウムに学長をはじめ、本研究科教員7名が参加し、それぞれ基調報告、研究報告を行いました。

2) 海外協定校との学術連携強化を図るため、北京外国語大学から教員3名を2019年12月と2020年1月の2度にわたり招き、集中講義を行いました。これに対応する形で、北京外国語大学MTI(翻訳通訳修士)に教員2名を2020年3月初旬中旬に派遣し集中講義を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止せざるを得ませんでした。

3) 学術交流とともに、修士課程への入学志願者確保のため、新たに厦門理工学院との関係強化を図ることとし、研究科長と附属言語文化研究所長が2019年12月に彼地へ赴き、特別講義を行いました。

4) 教育面での国際交流の一環として、「言語文化実地研究」科目を開設していますが、2019年度はオーストラリアでの日本語教育実習に修士課程大学院生を指導的役割を担う者として参加させ、所期の目的を達成させました。

5) 2020年3月に、同上プログラムの一環として「中国日本語教育実習」に修士課程大学院生3名を参加させる計画でしたが、急速な感染拡大した新型コロナウイルスの影響で、国内での実施に切替え代替措置としました。

6) 博士後期課程の特色ある展開として体制整備を行ってきた北京大学MTI修士の受入れについて、2017年4月から1名を受入れ、2019年度も博士論文執筆に向けて指導を継続しました。

7) 博士後期課程の順調な成長が成果を生む形で、2019年9月末日付で課程博士甲第三号と四号を授与しました。いずれも、標準修業年限は超過したものの、留学生在が3年半で博士論文を完成させ得たことは、本研究科の周到な指導体制と教員の卓越した指導力の表れと自負します。

エ. 情報学研究科

1) 「情報学研究演習」に英語教育を得意とする非常勤講師を引き続き採用し、学生には受講を促しました。結果として2019年度入学の全大学院生が受講をしています。また、担当講師と連携を密にとり、大学院生の言語能力の把握と、今後の方針擁立に役立てました。

2) 2018年度5月教授会で設置されたカリキュラム検討委員会を2019年4月に再編成し2020年度カリキュラム改訂の準備・検討・提案を行いました。2020年度より改訂されたカリキュラムを実施いたします。

3) 情報学研究科のゼミ、授業、会議、ならびに、学生発表会をモデルケースとして、中、小規模な遠隔事業・会議を機動的かつ柔軟に運用できるシステムの構築と検証を行いました。基盤となるアプリケーションは、専用システムの構築、市販システムの導入、ならびに、現在本学で導入しているコラボレーション用アプリケーション「G Suite」の機能を比較し、システムの持続的運用と利用の簡便性を重視して「G Suite」の利用を選択することになりました。また、小規模(6名程度まで)中規模(15名程度まで)の授業・会議を想定したパイロットシステム用機材を導入いたしました。これらの機材は小規模を2口、あるいは組み合わせることでさらに大人数での運用も可能です。パイロットシステムは、大学院ゼミ(佐野ゼミ。学生2名)、講義(コンテンツ企画特論。学生3名)、学生発表会(修士1年中間発表会、修士2年中間発表会)等で実際に使用しながら検証をすすめ、実利用に向けて運用マニュアルを作成しました。

オ. 国際学研究科

1) 茅ヶ崎市との連携事業として、2013年から始めた大学院と茅ヶ崎市との協定に基づく職員研修との合同セミナー講座を計6回開催しました。このうち4回は大学院科目「地域計画特論」、2回は「市民社会とガバナンス特論」として実施しました。また、茅ヶ崎市の「豊かな長寿社会コンソーシアム」への参画を継続しました。

2) 大学院生のキャリア支援を主な目的とし、大学院生との意見交換会を企

画しましたが、大学院生が留学生中心となったなどの理由で、実施できませんでした。

3) 協定大学である中国・廊坊師範学院の本大学院での短期研修を受け入れられました。(4名)協定大学からの受験生を対象としたII期入試では、2019年度は残念ながら志願者はありませんでした。

4) ドイツ・オズナブリュック大学の文化社会学科と国際学部及び国際学研究所は、協力協定を締結しておりますが、2019年度も協定を継続しました。

5) 韓国・南ソウル大学との協定を視野に入れた交流を継続しました。

6) 大学院生のキャリア支援を主目的とした本研究科修士による講演会を企画しましたが、実現できませんでした。

7) 9月に開催された「グローバル・フェスタ」へ出展を行いました。国際文化学会との連携で設けている「インターカルチュラル・コーディネーター」資格取得プログラムを継続していますが、2019年度は大学院生の参加はありませんでした。

当該年度の研究活動・支援事業

①外部研究費(科学研究費補助金等)の獲得支援

科学研究費補助金獲得のための説明会を開催したほか、申請書作成アドバイザー制度を実施しました。申請書作成アドバイザー制度については、越谷キャンパスの教員2名が利用しました。

②学内の競争的資金

学長調整金(学内の競争的資金)による教育改善支援として1件当たり最大200万円、研究成果の発表支援として1件当たり最大50万円、事業支援として1件当たり最大100万円の支援を行いました。また研究支援として補助金申請で不採択になった者のうち、2020年度の科学研究費の申請に向けて研究及び研究準備を行う意思のある者に対して、文部科学省・日本学術振興会の審査結果の評価レベルに応じて20万円から60万円の範囲内で14名に研究の支援をしました。

2019年度から文部科学省・日本学術振興会が定める研究種目において、研究代表者として交付決定額が500万円以上の研究課題(研究種目「研究成果公開促進費」は除く。)に採択された者のうち、科学研究費のみでは研究費が不足する者に対し、研究環境改善経費として2名に対し、研究費を支援しました。

教育改善支援

所属	教員名	テーマ
教育学部	船山 智代	学生実験への導入に向けた「物質の変化とエネルギー」を学習する化学実験教材の検討
人間科学部	鎌田 晶子	心理学実験教育改善のための視線解析用ソフトウェア(Dstream)の導入
国際学部	山田 修嗣	国際学部における体験的・実践的教育プログラムとしての「あだち学」の開発:予備調査編

研究成果の発表支援

所属	教員名	テーマ
健康栄養学部	井上 節子	高齢者の生活課題調査と参加型栄養教育の推進 —茅ヶ崎市郊外型団地における調査と教育成果の発表—

事業支援

組織	教員名	テーマ
教育学部 学校教育課程	石井 勉	「子どもの学習支援」を通じた地域貢献事業
教育学部 心理教育課程	小幡 肇	小学校休業期間中の「子どもの居場所づくり」を通じた地域貢献事業
情報学部 情報システム学科	阿部 秀尚	プロジェクト基盤型学習教育経験共有によるマレーシア工科大学との連携強化に向けた交流事業
経営学部 就職委員会	山本 頭一郎	「アクティブ・スクール・マネジメント」(7/20、11/2、2/22実施) 地域連携を通じた『学びの変化に対応する高校・大学・企業の人材教育の在り方』研究会
教育学部 アメリカ学校教育研修 国際理解フォーラム実施委員会	手嶋 将博	アメリカ学校教育研修30周年日米国際理解フォーラム

③学術図書出版助成

2019年度は学術図書刊行に際し、2件の出版に対して助成しました。

所属	教員名	助成対象図書の題名
国際学部	奥田 孝晴	On the Road to the East Asian Community: Modern History of East Asia Edited by Its Students and Citizens (English Edition)
教育学部	石黒 美男	刀装具に込められた武士の心 —水戸金工・海野家旧蔵下絵を通して—

④在外研究の支援

専任教員の在外研究について、6名の派遣枠で募集し、3名を在外研修に派遣しました。

所属	教員名	テーマ
情報学部	岡野 雅雄	感情表現の認知言語学的研究
国際学部	本浜 秀彦	日本の視覚文化と活字メディアの関係性についての研究
経営学部	石田 晴美	公的部門における財務業績と純資産の意義に関する研究

当該年度の学習者支援事業

①奨学金、奨励金及び授業料減免による学生への支援

●文教大学奨学金制度による経済的に修学困難な学生への支援を実施しました。文教大学奨学金制度では222名、文教大学大学院奨学金制度では27名を採用し、支援しました。なお、緊急特別奨学金制度は、2019年度該当者がいませんでした。

●成績優秀者への奨励金制度では、各学科・学年(2年生以上)の成績優秀者50名に奨励金を給付しました。

●私費外国人留学生に対する学納金減免制度及び奨学金制度による経済的に修学困難な留学生への支援を行いました。学納金減免制度では51名(学部生28名、大学院生23名)、奨学金制度では41名(学部生19名、大学院生22名)の留学生に学納金の減免又は奨学金を給付しました。

●高等教育の修学支援新制度に対応するため文部科学省へ機関要件の確認申請を行い、要件を満たしていることが確認され、機関認定を受けました。機関認定を受け、在学生に対し申請手続き等に関する説明会を実施し、2020年度からの制度導入に向けた準備を開始しました。

②障がいや有する学生への支援

越谷キャンパスでは、教育学部5名、人間科学部15名、文学部10名の学生が「配慮願」を活用し、授業の担当教員や事務局窓口対応における情報の共有を図りました。併せて、2019年度に「配慮願」を利用した学生を対象に、更に建設的な対話の促進のためにアンケートを実施し、支援内容やその有効性、印象等を確認しました。

また、2019年度も保健センター(相談室・医務室)と学生支援室との連携により、「入学前相談」を実施しました。2020年2月(AO・推薦入試合格者対象)、3月(1月以降の入試合格者対象)に計15名の面談を実施し、入学前の不安や心配事が和らぎ、スムーズなスタートが切れるよう対応しました。

湘南キャンパスでは、保健センター医務室と教育支援課が連携し、当該学生のニーズに合わせ、学生生活を送るうえで支障があるかどうか

を建設的に相談しながら具体的な施策を検討し、配慮に努めました。授業関係では、越谷キャンパスと同様に「配慮願」を作成し、2019年度は4名の支援を行いました。また、本人からの申し出をもとに、キャンパス教務委員会で検討を重ね、車いすを使用した移動に時間がかかることを考慮し、授業教室の変更を行いました。また、書字困難なため試験時間延長の配慮などを行いました。

キャリア支援関係では、両キャンパスのキャリア支援課共通事項として、困難を抱える学生が他の学生と同じく平等にキャリア支援事業に参加できるよう、それぞれの障がい特性や困りごとに合わせた支援を実践し、障がいのある学生のインターンシップ参加や企業等への就職に結びつけています。

③100円朝食の実施

学生に規則正しい食生活を促し、朝食をしっかりとってから授業に参加することで集中力を高めてもらう効果を期待した「100円朝食」を父母と教職員の会（学生の父母と教職員で構成する協力団体）との共催事業として実施しました。学生食堂での「100円朝食」を全授業日（土曜日除く）で1日約60食（定食及びカレー/提供数や内訳はキャンパス・曜日により異なる）提供し、年間を通じての販売率は、約90%でした。曜日や時期による提供数の調整をしながら2020年度も継続して実施する予定です。

④海外留学希望者に対する支援

2018年度に続いて、湘南キャンパスの学生を対象に、英語圏の協定校への留学を促進するため、TOEFLとIELTSに特化した15日間の夏期集中講座を実施しました。一定の英語力と留学への強い意志を持つ学生を対象とし、受講生の英語力並びに留学への意欲をより高め、2019年度もTOEFL60点以上を達成する学生が3名出ました。

⑤アジアからの協定校交換留学生に対する住居費補助

日本と住居費が大幅に異なるアジアの国・地域からの交換留学生に対して、住居に係る経費の一部を補助する事業です。本学への留学の可能性を広げ、今後ますます重要となるアジアの大学及び学生との交流の深化・活性化を図ることを目的としたものです。2019年度は、計16名（2018年度からの継続者含む）の交換留学生に対して住居費補助を行いました。

⑥キャリアイングリッシュ講座、公務員対策講座（湘南キャンパス）

生涯学習センターでは、学生向けに次の講座を行いました。

ア. キャリアイングリッシュ講座

情報学部16名、国際学部26名、健康栄養学部0名、経営学部4名、合計46名が春学期50回、秋学期50回の計100回（1回40分）のネイティブ講師による英会話レッスンを受講しました。平均出席率は前期が80%、年間では65%で、2018年より高い結果となりました。受講生への終了後アンケートからは、「リスニング力が上がった」「英語を話すことに抵抗がなくなった」「年間でTOEICが150点上がった」「英語で自分の意見を表現できるようになった」「毎日英語に触れられるのが良い」等の声が寄せられました。

イ. 公務員就職希望者への対策講座

- 「公務員等対策基礎力向上セミナー」の開催（主に1年生向け）
情報学部5名、国際学部4名、健康栄養学部2名、経営学部18名、合計29名（全員1年生）の学生が春学期、秋学期合わせて計16回（1回150分）の講座を受講し、将来の就職試験等に向けて主に数的処理能力の向上を図りました。
- 「公務員対策講座」の開催（主に2、3年生向け）
情報学部13名、国際学部7名、経営学部18名、合計38名（3年生9名、2年生29名）が1年間にわたり計42回（1回180分）の講座を受講し、公務員試

験の教養試験対策を行いました。

- 「公務員直前対策講座」の開催（4年生向け）
情報学部1名、健康栄養学部1名、経営学部4名、合計6名の学生が公務員試験直前の4月から6月にかけて計8回（1回180分）の講座を受講し、公務員試験の時事問題などへの試験対策を行いました。

⑦パス通学定期券等購入代金補助事業（湘南キャンパス）

湘南キャンパスの通学問題対策の一つとして、本学学生のために大学と茅ヶ崎駅及び大学と湘南台駅の2路線を利用できる2Wayパス通学定期券を割引して提供しました。また、2016年度から本格導入した同路線で利用できる通学用割引バス回数券も引き続き販売しました。これにより、2Wayパス通学定期券の利用期間外の通学に係る費用を軽減し、学生の諸活動の活発化を図りました。

2Wayパス通学定期

	正規販売額	補助販売額	
春学期定期(4/10-8/6)	35,450円	→ 25,000円(割引額10,450円)	2,002人購入
秋学期1期定期(9/16-12/24)	29,740円	→ 22,000円(割引額7,740円)	1,869人購入
秋学期2期定期(1月授業期間)	9,730円	→ 7,000円(割引額2,730円)	554人購入

通学用回数券（使用期限なし・5,400円券645枚、3,600円券20枚）

	正規販売額	補助販売額	
5,400円券(270円×20枚)	5,400円	→ 4,200円(割引額1,200円)	323人購入
3,600円券(180円×20枚)	3,600円	→ 2,800円(割引額800円)	20人購入

※回数券購入者は延べ数

⑧学生の課外活動支援事業（湘南キャンパス）

正課授業のみでなく、充実した学生生活を送ってもらうことで、学生の満足度を向上させ、社会人として必要なマナーや人間関係の構築の涵養を期待し、課外活動に対する支援を行いました。支援の一つとして、校友会等本部役員や各団体の次期幹部を対象に、外部講師を招いてリーダーシップ研修を実施し、リーダーとしての自覚と責任感そして団体間の情報交換を行いました。同様に部活動に所属した新入生を対象に新人研修も行いました。

また、体育会及び文化系団体の活動の活発化のため、学内施設では対応できない施設利用や練習場所の確保を目的に、外部施設利用について費用の補助を行いました。

一般活動に関する助成金や優れた取り組みを行っている団体に対する資金援助および1年間の活動実績を基に課外活動団体表彰を行い、更なる活躍を期待しました。

更に、学生の知的活動の一環として、正課外活動にあたる「神奈川産学チャレンジプログラム」への参加を促しました。選考の結果、多数のチームが入賞し神奈川県内での本学の知名度向上にも貢献しました。

⑨ハラスメント防止のための講習会及び啓発活動（湘南キャンパス）

湘南校舎ハラスメント防止委員会では、「ハラスメント防止に関する研修会」を計画しましたが、2019年度内での実施は難しく、2020年度4月開催の連合教授会終了後に実施する計画を立てました。

当該年度の保護者又は地域連携事業

①地域、行政と大学の連携・協力

ア. 越谷市との連携包括

越谷市との連携包括協定に基づき、定期的な連絡会を持ち、行政や地域との連携について協議を深め、連携事業を実施しました。

イ. あいのみ文庫

越谷キャンパス図書館で1982年度から続く連携事業である「あいのみ文庫活動」を行いました。以下の2つの活動を軸に実施しました。

- (1) 図書館児童室を使用した週1回（授業のある期間の木曜日午後）の文庫活動。（図書の貸出、お話会等）年間37回開庫しました。
- (2) 保護者・大人を対象とした講座の開催。（絵本の読み聞かせ等）講座につ

いては文庫活動とは別に、生涯学習センター主催のオープンユニバーシティの講座としても同様の内容で企画され、文庫スタッフが講師を務めました。

ウ. 越谷市消防団との連携

本学学生が団員として市民の安全・安心を守るための活動実績が認められ、越谷市消防団長の推薦により、越谷市長から「越谷市学生消防団活動認証状」の交付を受けました。

エ. 足立区及び足立区内の5大学との連携

「足立区6大学学長会議」(2019年9月5日)が開催され、本学から学長と事務局担当者が出席し、足立区及び大学間連携に関する意見交換を行いました。また、2019年度も足立区で公開講座を開講しました。(足立区子育て・教育応援講座/2019年10月20日)

オ. 「神奈川県警察と文教大学とのサイバー犯罪の防止に係る連携協力に関する協定」に基づく活動として、県内の学校に向けたサイバー教室を4回実施しました。また、神奈川県警等が主催するサイバー犯罪防止関連イベントに6回参加しました。その他、違法有害情報の対策支援システムを神奈川県警及び県内ボランティアに向けて提供し、青少年の犯罪被害防止対策業務の支援として神奈川県警に272件の情報提供を行いました。そして、2019年度の活動の結果として、内閣府より安全安心なまちづくり関係功労者として内閣総理大臣表彰を授与されました。

主な活動は以下のとおりです。

- 神奈川県警と連携し、講演会形式のサイバー教室を茅ヶ崎市立松浪中学校(1、2年生全員対象、本学学生4名参加)で実施。(2019年6月)
- 神奈川県警と連携し、講演会形式のサイバー教室を大和市立上和野小学校(3~6年生全員対象、本学学生6名参加)で実施。(2019年7月)
- 神奈川県警主催のふれあい警察展に、本学学生7名が補助として参加。(2019年7月)
- 神奈川県警主催のセキュリティコンテストに、文教大学サイバー防犯ボランティアとして本学学生3名が参加。(2019年8月)
- 神奈川県警主催の子どもの安全フェスタ2019(トレッサ横浜北棟2階リヨン広場)に、本学学生2名が補助として参加。(2019年8月)
- 神奈川県警と連携し、講演会形式のサイバー教室を茅ヶ崎市立浜須賀小学校(5年生対象、本学学生3名参加)で実施。(2019年11月)
- 神奈川県警と連携し、講演会形式のサイバー教室を茅ヶ崎市立円蔵中学校(全校生徒対象、本学学生3名参加)で実施。(2019年11月)
- 神奈川県警が主催するサイバー・セーフティアドバイザー養成講座を、本学学生13名が受講。(2020年1月)

カ. 2019年度は「神奈川県教育委員会と文教大学とのインターネット等の安全・安心な利用に係る連携協力に関する協定」に基づく主な活動は特にありませんでした。

キ. 2019年度は「寒川町と文教大学との連携協力に関する包括協定」に基づく主な活動は特にありませんでした。

ク. 第一勧業信用組合及び足立成和信用金庫との連携

2018年度に締結した第一勧業信用組合及び足立成和信用金庫と、学生のインターンシップ等の連携活動を推進し、企業間の連携関係構築について継続して意見交換を行いました。

②学部・研究科の教育・研究と結びつけた地域連携の取り組み

ア. 教育学部

越谷市教育委員会との連携による教育学部生を中心とした「先生の助手」体験プログラム

越谷市教育委員会との包括協定に基づく一事業として実施しました。小学校教諭免許を取得する学生(学校教育課程及び心理教育課程の一部)を対象に、越谷市内の小学校で観察実習を行い、教職や子どもに対する理解を深め、ひいては教職を志す意欲を高揚させることを目的とするものです。2019年度は、例年通り9月と2月に分かれ、9月は117名が28校で、2月は96名が26校で行いました。

イ. 文学部

外国人を対象とした日本語講座

日本語教員養成コースでは、2009年度から越谷市に隣接する松伏町の町役場と連携して、「まつぶし日本語ひろば」を開講してきました。松伏町に在住する外国人を対象として、毎週土曜日10~12時に学生が日本語を教えており、本学学生のための日本語教育実践の場としても有益な活動と

なっています。2019年度は、6名の学生が、町の職員の方などとともに、韓国・中国・イラン・タイ・ベトナムの方々に通年で33回の日本語指導(各回30分の授業と90分の個別指導)を行いました。ときには、ピクニックや料理教室なども開催しています。

ウ. 国際学部

2015年度から始まった事業として、岐阜県高山市飛騨世界生活文化センターとの共同による「オープン・カレッジ in 飛騨」を2019年度も実施し、高山市における地域社会の発展と人材育成に協力しました。また、国際観光学科を中心に多くの専門ゼミが神奈川県をはじめとして産官学の連携事業に関わり、また、学生ボランティアグループが横浜市、茅ヶ崎市での小・中・高での学修支援活動や地域イベント活動に貢献しました。さらに、JR茅ヶ崎駅と駅の外国語(英語、中国語)アナウンス、表示、ポスター作成等で学生がボランティアとして協力し、JR東日本より表彰状をいただくなど、地域社会に貢献しました。

エ. 経営学部

行政が抱える課題の解決を目指す実践的な演習科目の「公共経営実地演習」において、茅ヶ崎市議会及び市役所等の協力のもと市の政策や課題への理解を深めるとともに、市の抱える課題について学生からの解決策提言を行いました。

オ. 教育学研究科

2019年度に限り、大学院生の健康状況等の理由により越谷市立学校での実習を実施できなかったため、「教育実践分析実習」協議会の開催を見送りました。

カ. 人間科学研究科

1) 三郷市との間で締結されている「教育相談、学校不適応児童生徒支援に関する協定」に基づき、本学教員が小学校へのコンサルテーション、相談所でのスーパーヴィジョン、委員会への出席等を行いました。また、獨協大学地域と子どもリーガルサービスセンターにおける実習に大学院生を派遣し、資質や能力の向上を図りました。また臨床心理士の資格を持つ本学の教員が交代で定期的に専門相談にあたりました。

2) 本研究科主催による、自治体・地域団体・大学が連携して取り組んでいる地域づくりの実践例を発表する「第7回地域連携フォーラム」を開催し、約160名の参加を得ました。

③高大連携の取り組み

ア. 越谷キャンパスでは、高大連携に継続して取り組みましたが、授業聴講希望者がありませんでした。

イ. 埼玉県高等学校進路指導研究会主催事業として、高校生「学び」夢プランに参加し、越谷キャンパス開放科目「特別活動」「児童教育史」「発達心理学」「生徒指導・進路指導」「中国古典基礎研究」「日本語概説II」「特別講義(経営学入門)」「特別講義(国際学入門)」の授業に、埼玉県内の高校生22名の参加がありました。

ウ. 湘南キャンパスでは、神奈川県・静岡県内の協定締結校(27校)並びに神奈川県立総合教育センターと連携事業を実施し、2016年度末から加盟している「神奈川県立高校生学習活動コンソーシアム協議会」への参加も継続し、神奈川県立高等学校及び県立中等教育学校後期課程との連携協力を推進しました。実施事業としては、協定締結校及び、その他の学校、企業等の方も対象とした「夏季キャリア教育研究会」の開催や、「大学体験プログラム(協定校生徒対象)」等を受入れました。さらに、神奈川県立総合教育センターとの連携講座として「英語教育指導法研修講座」等を開催し、近隣教育機関並びに地域との連携強化に努めました。

④生涯学習センターによる講座

生涯学習センターにおいて「市民フォーラム」、「公開講座」、「オープンユニバーシティ」等を開催し、地域の方々の学習に貢献しました。また、学生向けに資格取得講座等を開設し、学生のキャリア形成を支援しました。2019年度は以下の事業を実施しました。

		講座数	受講者・受験者
公開講座	湘南キャンパス	1講座	67人
特別講演	越谷キャンパス	1講座	256人
市民フォーラム	越谷キャンパス	1講座	207人
オープンユニバーシティ	越谷キャンパス	74講座	1,021人
	湘南キャンパス	38講座	364人
資格取得講座	越谷キャンパス	7講座	60人
	湘南キャンパス	7講座	148人 (キャリアイングリッシュ講座、公務員関係講座を除く)
検定試験	越谷キャンパス	11検定	155人
	湘南キャンパス	21検定	579人
現職教職員対象講座	越谷キャンパス	5講座	160人

さらに、越谷キャンパスでは、埼玉県「大学の開放授業講座(リカレント教育事業)」の趣旨に賛同し、「文教大学シニアアカデミー」として埼玉県在住で55歳以上の方の授業聴講を受入れ、春学期、秋学期合計10科目において、のべ109名が受講しました。

⑤保護者との連携

ア. 父母と教職員の会との連携

父母と教職員の会(学生の父母と教職員で構成する協力団体、以下、「父母教」という)が主催する以下の行事に大学(教職員)が連携し、父母に大学を知って頂く機会の創出に取り組みました。

- 新任教職員をお迎えする会(2019年5月11日)
- 父母教代議員会および学長主催パーティー(2019年6月1日越谷キャンパス)
- 父母のための一日大学(2019年6月2日越谷キャンパス・湘南キャンパス)
- 親と子のための進路問題研修会(2019年11月30日 越谷キャンパス・2019年10月26日 湘南キャンパス)
- 父母教支部長研修会(2019年11月9日・10日 湘南キャンパス)
- 父母教各県支部総会及び研修会への教職員派遣
- 共催事業として越谷・湘南両キャンパスの授業期間に「100円朝食」を継続実施

イ. 情・国・経の保護者対象学部教育説明会の実施

国際学部では父母と教職員の会が6月に開催する「父母のための一日大学」において、1年生の保護者を対象に懇談会を実施し学事日程や単位修得に関する注意事項の説明、短期留学に関する概要説明を行った他、2年生以上の保護者に対して学科別懇談会を行うなど、保護者との連携を図りました。経営学部では3月に入学予定者の保護者を対象とした学部教育の説明会を実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となりました。

⑥大学間の連携・協力

ア. 越谷キャンパスでは、「埼玉県東部地区大学単位互換に関する協定書」に基づく、埼玉県立大学、獨協大学、及び日本工業大学との学生相互の単位互換制度を継続して行いました。本学では春学期に4名の学生を受入れましたが、本学から他大学へ送り出した学生はいませんでした。

イ. 名桜大学との単位互換に関する協定に基づき、単位互換特別聴講生を募集しましたが、希望者はなく、派遣は行いませんでした。また、名桜大学からの受入れについても、希望者がいませんでした。

ウ. 2012年度に加入した「神奈川県内の大学間における大学院学術交流」に基づき、情報学研究科、国際学研究科において、他大学院と授業の相互開放を行いましたが、本学の授業履修者及び他大学院への履修者はいませんでした。

校舎施設設備の改善事業

【大学全体】

①電子情報資料整備事業

学術情報の電子化が国内外ともに進む中で、本学として、教員・学生の研究・学習に資すべく、学部構成、教員・学生の専攻する学問分野等を勘案し、国内外のデータベースや電子ジャーナルを契約し、利用に供しています。

また、コンテンツ(書誌情報、論文本文)だけではなく、そうしたものの「発見」を可能とする検索システム(ディスカバリー・サービス。利用者向けの名称は「文教Search」)、検索結果から論文本体へのナビゲーションをするシステム(リンクリゾルバ。利用者向けの名称は「文教Link」)、検索した結果を保存・利活用する文献管理ツールも普及に努めています。普及活動については、『文教大学の研究支援体制』を作成し、冊子体で教員に、学生等には図書館Webサイトを通じPDF版で提供しています。(最新版は第5版、2018年4月)ここでは、電子資料の紹介、初歩的な利用方法に加え、論文等の著作物の電子的公開をする機関リポジトリ(名称は「文教大学学術リポジトリBURS」)、出版助成や在外研修制度といった大学の研究支援体制も紹介しています。契約しているデータベースのなかには、研究・学習だけではなく、就職活動に資する日経テレコン(『日経会社情報』を収録しています)、東洋経済デジタルコンテンツ・ライブラリー(『週刊東洋経済』を読むことができます)もあり、越谷・湘南両図書館では研究・学習支援のための講習会に加え、就職活動を切り口としたデータベース講習会も行っています。(越谷キャンパスではキャリア支援課との共催)

【越谷キャンパス】

①変電設備更新工事

主変電所、3号館、体育館変電設備について、経年劣化に伴う更新を実施しました。

②越谷校舎再開発計画策定

「新たな教育の展開」及び「授業運営の支障緩和」を図ることを目的として、2019年度より「(仮称)文教大学越谷キャンパス新棟建設工事」の事業を開始し、2023年4月の使用開始を目指します。

③学生食堂厨房機器更新

学生食堂厨房機器(電気温蔵庫、ガス立体炊飯器、業務用冷凍冷蔵庫他)について、経年劣化に伴う更新を実施しました。

【湘南キャンパス】

①緑地管理

緑地管理の一環として、年次計画に基づき湘南キャンパス内の緑地の剪定、雑草伐採等緑地全体管理を引き続き実施しました。雑草伐採は、リング道路脇1,200㎡、遊水地10,000㎡、駐輪場周り720㎡、駐車場1,488㎡、また桜等の害虫駆除は年2回実施しました。

②プロジェクターAV設備年間保守点検

1号館20教室、2号館8教室、4号館10教室、5号館1教室、6号館20教室、全59教室に設置しているプロジェクターAV設備機器について、8月、2月の新学期開始前、年2回点検を実施し、授業運用に支障がないように準備しました。

③スタジオ設備更新

2012年度更新作業によってデジタル化された設備を、最新のデジタル設備とするため、PC・LANベースの機材への更新作業を行いました。新たなバーチャルシステムを利用することによって、従前より簡単にバーチャルスタジオの実現することができるようになりました。また、VTR不要の収録や再生、ネットワークを利用したインターネット中継などが可能になりました。

④データベース・電子ジャーナルの導入

湘南キャンパスの学部構成を考慮した和洋の電子ジャーナルを継続契約し、研究・学修に供しました。また、2016年度から導入された情報探索支援ツール「リッテルナビゲーター」は検索語から関連キーワードを導き出し、調べごとのヒント・気づきを提供するもので、

2020年1月末現在で、3,400回以上検索され、学習に役立てられています。

⑤医療系データベースの導入

2010年度の健康栄養学部設置に伴い導入された医薬系オンライン・データベース「メディカルオンライン」は、国内学会誌及び学術専門誌収録論文の検索・ダウンロードが可能であり、導入以来、教員のみならず学生にも利用されています。また、2018年度から、制限なく文献がダウンロードできるフリーアクセスプランに移行しました。2020年1月末現在で、1,500件以上の文献がダウンロードされ研究・学修に役立てられています。

入試制度、募集強化事業

①2021年度入学者選抜方法の検討

文部科学省から通知された「2021年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告について」の内容を踏まえ、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の学力の3要素を総合的に評価するための入試制度を検討し、2021年度入試の総合型選抜、学校推薦型選抜において、一部試験科目を変更し実施します。一般選抜においては、文部科学省及び大学入試センターの動向を注視し、他大学の入試制度改革の状況も踏まえながら、引き続き検討を続けます。

②募集強化計画の実施

- 学生募集強化高校訪問の実施
訪問高校(教員)とのつながり(信頼関係)の構築及び訪問高校の情報収集のために、一定の基準による対象校を選定し、同じ訪問者が継続的に高校を訪問する募集活動を実施しました。2019年度は、10～12月を目途に事務職員約80名が一人あたり5校程度を目安とし、全体で約520校を訪問しました。
- 指定校訪問の実施
全学部の教員及び入学センター事務室職員が、指定校の依頼と本学(学部)の特色を伝えるために指定校訪問を実施しました。
- 教員による模擬授業の実施
全学部の教員が、本学の教育研究分野への関心と本学に対する興味喚起を促すために、模擬授業を実施しました。
- 入試アドバイザーによる進学相談会等の参加
事務職員については、原則全員(管理職・総合職)が入試アドバイザーとなり、年間一人あたり3回を目標に、高校での説明会や会場での進学相談会に参加し、大学や系統別の学びの紹介等を実施しました。入試アドバイザーとして必要とされるスキル(大学の幅広い知識、伝える構成力、人前で話すトーク力、相手とのコミュニケーション力、訴求力等)を身に付けることも志願者獲得とともに目的の1つとしています。
- オープンキャンパスの実施
直接、高校生や保護者に訴求できるオープンキャンパスは、本学の魅力をより強く感じてもらうための最も重要視しているイベントの1つです。参加者のニーズに応え、各キャンパスの特性に合ったプログラム改善を行い、2019年度においては試行的に学生が企画したプログラムを実施しました。

③入試情報サイトの充実

入試コンテンツの充実やサイト内の導線の工夫により、サイト訪問者の本学理解度・興味度・関心度を高めるために、入試情報サイトの充実を図りました。

④全国入試成績優秀者に対する特待生制度の実施

2018年度入試から導入した新たな制度により入学試験を実施し、10名の入学者がありました。引き続き、今後は入試結果や特待生入学者数等を参考に、導入した特待生制度の妥当性の検証を進めます。

「文教アクションプラン2021」の実施

学園経営戦略『文教アクションプラン2021』について、大学では2021年4月からの3キャンパス体制を見据え「足立区をはじめとする地域連携の強化、全学共通カリキュラム導入の検討、新キャンパス開設に伴う指定校戦略の見直し等による学生募集力の強化、教育・研究体制の整備等を主軸としたキャンパス新構想の実現と更なる深化」、「高大接続改革に伴う入試制度改革」、「教職課程の充実」、「研究支援体制の強化とコンプライアンス強化」、「学生支援体制の充実」、「内部質保証推進体制の構築」について具体的な計画を策定し、学長のリーダーシップの下でカテゴリー別の計画に基づき、実施体制の整備、実施計画の作成・実行を行いました。

その他

①教育学部の改組

教育学部について、2020年度4月からの改組のための準備を進め、文部科学省へ届出の手続きを行いました。心理教育課程を2020年4月から発達教育課程に改組します。

②ホームカミングデーの実施

11月30日に湘南キャンパスで開催したホームカミングデーは、卒業生及び退職教職員合わせて92名(卒業生80名、退職教職員12名)の方にご参加いただき、盛況のうちに終了しました。

③教員免許状更新講習

教育職員免許法に基づく教員免許状更新講習を開催し、教職に就いている卒業生や地域の教員等の資質能力保持に寄与しました。開設数及び履修認定数(延べ数)は【越谷キャンパス】26講習(必修2、選択必修5、選択19)、1,859名、【湘南キャンパス】11講習(必修1、選択必修2、選択8)、542名でした。

④新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を踏まえ、本学学生、教職員及び大学関係者の安全を確保し、学内・国内外での感染拡大を防止するため、学長の下で本学としての対策を検討し次のとおり実施しました。

- 1) 国際交流センター及び関係学部等と協力し、感染状況に懸念のある地域で実施する海外研修プログラムの一部及び協定校派遣留学プログラムを中止しました。
- 2) 2019年2月27日から当面の間、学生の諸活動(課外活動、イベント等全般)を中止しました。
- 3) やむを得ず、2019年度卒業式・修了式を中止しました。(学位記等はすべて送付)
- 4) 2020年度春学期授業の期間や実施方法等について検討を開始しました。

文教大学付属中学校・高等学校

当該年度の教育活動に関する事業

①文教ステーション(Bステ)・各種講習・学習合宿の実施

Bステ(放課後の「自立学習支援システム」)は放課後学習習慣の定着に効果を上げています。「自ら学ぶ」自習体制の構築に加え、中学校では習熟度に合わせた基礎講習、発展講習を実施し、高等学校では生徒個々の質問への対応を充実させる等の学習サポートを行いました。また、春期・夏期・冬期講習や学習合宿を実施し、生徒が意欲的に学習に取り組める体制を年間をとって構築した結果、学力の向上に結び付けました。さらに、2018年度から中学生の各学年で週2

回、放課後「ナナガク・みらいTime」と称した、英語検定対策やオンライン英会話等の講習を行っています。生徒それぞれが学びたい講座を選んで主体的に学べることが好評です。

②キャリア教育の充実

(株)リクルートホールディングスとタイアップして文教版キャリアノート『NEWTON』が中高6年間分、完成しており、2017年度から全ての学年で体系的に実施しています。2018年12月には充実した内容と実践が実り、キャリア教育優良学校として文部科学大臣表彰を受賞しています。2019年度は独自のプログラム実施5年目であり、さらなる内容の改良、更新を行いました。また、2020年2月に学内で行った「探究学習発表会」では、学年ごとに代表生徒が、興味ある職業や、大学の様々な学問分野等について成果発表を行いました。

③タブレットPC活用の推進

新たな取り組みとして中学1年生、高校1年生各自にタブレットPCをもたせました。当該学年は教室でタブレットが使える環境が整ったことから、授業での活用が大幅に増加し、トリニティーキャンブやオリエンテーション合宿といった宿泊行事や文化祭、生徒会活動等、様々な機会に効果的な活用が見られました。また、家庭学習や、担任から家庭への連絡に日常的に活用することができました。進路指導においても、生徒各自が学習成果や学校行事での活動等を履歴としてタブレットPCに蓄積できたことが有意義でした。また、中学1年生においては春期休業中、新型コロナウイルス感染症対応により生徒が登校できないことへの対策として、教室から「オンライン春期講習」を各家庭の生徒に行いました。教員と生徒による双方向性のある学習が実現でき、新しい試みによりテレラーニング実施の第一歩を踏み出すことができました。

④自立心を育てる

中学生を対象に1泊2日の体験型宿泊行事として、自立心を養うとともに、協調性や思いやりの心を体得させることを目標とした「トリニティーキャンブ」を実施しています。1年生は田植え稲刈りを計2回実施したり、現地で働いている様々な業種の方々の話を聞いたり、行事の事前事後学習として群馬県の農産物や文化等について調べたりしました。2年生は新たに、農家に民泊して農作業を手伝ったり現地の方々の話を聞いたりする取り組みを始めたところ、農家の生活に直に触れることができ、たいへん有意義でした。3年生は例年通り身延登山、久遠寺勤行、卒業証書の紙漉きを行いました。久遠寺の法話は、生徒が校訓である人間愛の精神について考えるための良い機会となりました。どの学年も、生徒が主体的に考え、行動するプログラムを実践して、大きな成果をあげることができました。

⑤オーストラリアへの短期研修・中長期留学とセブ島への語学研修の推進

2019年度における中・長期個人留学の参加者は、3カ月間が4名、6カ月間が3名、1年間が2名の計9名でした。留学への契機と位置付けている短期(18日間)語学研修の参加者は45名であり、2018年度より増加しました。3月にはセブ島語学研修に34名が参加する予定でしたが、現地での新型コロナウイルス感染症の拡大により直前に中止となりました。また、2018年度から「短期語学研修及び留学参加者」の事前学習として、英語テスト(TOEFL Junior)と放課後のオンライン英会話を導入しており、英会話力を鍛えて研修・留学に臨むよう、計画的にプログラムを進めています。

⑥台湾修学旅行から台湾の大学進学へ

2015年度から実施している台湾修学旅行では、台湾の大学生と一緒に

に英語で台北市内で研修を行い、実践大学では授業や交流活動を行いました。台湾の大学生が学習へ取り組み姿勢を学び、生徒は意識を高めることができました。また、学内で実施している中国語講座を2019年度は19名の生徒が受講しました。その中から7名が台湾の大学へ進学予定です。また、文教大学学園が主催するパブリシティ・オブ・ザ・イヤー2019の部門賞を国立台湾芸術大学に9月から進学している卒業生が受賞しました。当該生は2018年度の日台文化交流青少年スカラシップ大賞の受賞者です。

当該年度の研究活動事業

①教員の授業力の向上

「生徒による授業評価アンケート」を外業者(代々木ゼミナール教育総合研究所)に依頼し実施しました。その後、8月に実施した教員研修会において講師から結果分析とアドバイスを受け、教員の指導力向上につなげました。また、1月にはタブレットを活用した研究授業を計7教科で実施し、全教員が参加しました。一方で、管理職による授業観察を行って教員個々に指導助言し、授業改善に努めました。

②進学実績の向上

大学への進学実績の向上を目指して、外部模擬試験の分析会を中学高校全学年について2回、個々の生徒に合わせた志望校検討会を高校3年生について2回行いました。こうした協議会や各教科会を通して、中学高校の各学年の模擬試験結果等を分析し、指導方法や指導計画などを振り返り、学習指導の改善を行いました。特に高校については、生徒各自が希望する進路や大学への合格を見据えて、学習指導、進路指導を効果的、計画的に行うよう、研修を深めました。

③ICT(情報コミュニケーション技術)機器の活用

校舎は全教室でICT機器が使える環境であり、全教科で電子黒板を活用した授業が行われています。タブレットPCを活用して、2016年度からタブレットPCを活用した研究授業である「タブレットラーニング」を引き続き行っており、4年目となりました。2019年度からは中学1年、高校1年の全生徒にタブレットPCを持たせて授業や家庭学習で活用することが始まったため、年度当初に、使用するタブレットPCの操作や機能を習熟する研修会を2回行いました。タブレットをもたせている学年が中高計2学年あるので、今まで続けてきたタブレットの授業研究の成果を授業で実践する機会が大幅に増加しました。授業実践が増えることで、新たなタブレット活用の課題も分かり、授業研究が深まりました。2020年度は中学1,2年生、高校1,2年生にタブレットPCをもたせるので、「タブレットラーニング」による授業改善の取り組みを継続・拡大する予定です。

当該年度の学習者支援事業

①「JETプログラム」による外国語(英語)指導助手の活用

「JETプログラム」とは、財団法人自治体国際化協会(CLAIR)・総務省・外務省・文部科学省の協力の下で地方公共団体等が実施している「語学指導等を行う外国青年招致事業」です。2名の外国語指導助手の丁寧な指導により、生徒たちは国際交流室に集い、ネイティブスピーカーとの会話を積極的に交わしていました。授業の支援に加えて、英語テスト(TOEFL Junior)やセブ島語学研修に向けたレッスン、英語検定のための面接練習、スピーチコンテストに向けた指導、外国語指導助手との「英語でランチ」等を行うことで、生徒が外国人の発音やパフォーマンスを身近で学び、英語に親しむ機会を増やすことができました。

②プログラミング教育の推進

2017年度から中学3年生の技術・家庭の時間に「レゴ・マインドス

トームEV3」を教材として使用するプログラミングの授業を、各学級で年間10時間、取り入れています。積極的に活動する生徒が多く、2019年度も生徒の満足度が高い授業を行うことができました。また、プログラミングに関心の高い中高生がパソコン部の活動をとおして放課後にプログラミングを情報科の教員から学び、文化祭等で発表しました。

③特待生の入学金・授業料免除

特待生については、2019年度より新たに、従来のように中学・高校それぞれ、入学時の成績で3年間特待生となる制度を変更し、単年度ごとに特待生を選出することとしました。2019年度、中学1年生は4名、高校1年生は6名が、この新制度のもとでの特待生でした。中学2年生の1名は従来の制度のもとでの特待生が継続されました。(他の学年は特待生の該当者がいません)特待生には入学金及び年間授業料を免除しました。特待生の生徒は学習に意欲的であり、周囲にも好影響を与えていました。また、年度当初に中学・高校の1,2年生の生徒と保護者に、新しくなった特待生制度の趣旨や内容、選考基準等を話しました。3学期には2019年度の成績等を総合し、2020年度の特待生を決定しました。

④英検取得者への奨励金給付

2019年度から新たに、「文教大学学園前田学術研究奨励金」制度が、生徒の英語能力向上のために設置され、英検やTOEICにおいて基準を満たした生徒に奨励金が給付されることになりました。中学・高校では、英検準1級5名、2級120名、準2級17名、TOEIC1名の生徒に計1,465,000円が給付されました。新制度の開始が生徒の励みとなったことが、好結果の一因でした。

当該年度の保護者又は地域連携事業

①保護者アンケートの実施と学年便りの配布

毎年行っている保護者対象の学校アンケートを実施しました。概ね、学校に好感をいただいておりますが、自由記述欄には、改めるべき点等厳しいご意見もいただきました。2月にアンケートの結果を表やグラフにまとめた資料と保護者の主なご意見に考察を添えて、保護者に配布しました。学年便りについては、各学年で配布し、年間を通して計画的に行う保護者面談や保護者会、学級懇談会等の機会を活用して保護者への説明を行い、情報交換と相互理解を深めました。

②地域における生徒のボランティア活動

4月28日(日)にボランティア・クリーンアップを行い、有志生徒と保護者、教職員が参加して由比ヶ浜海岸でごみ拾い活動を行いました。計280名もの生徒、保護者が参加し、環境問題について考える機会にもなりました。また、硬式野球部の生徒が毎朝、学校周辺の清掃を行ったり、吹奏楽部の生徒が地域の高齢者施設で演奏したりといった、部活動単位のボランティア活動も行われました。

校舎施設設備の改善事業

①人を呼べる校舎の追求

校舎を綺麗に保つよう毎日の清掃活動に取り組み、施設設備を大切に使うことや清掃美化について、生徒会の整備委員会の生徒が中心となり活動を行いました。また、2016年度に作成した、校舎のテーマである、「PORT(港)」のコンセプトと校舎の各施設を紹介したパンフレットを引き続き、学校紹介時に活用しました。パンフレットには、「母校であり、母港でありたい」というメッセージが掲げられており、本校に関係する多くの方々の連帯感を高めるとともに、本校の魅力を多くの方々に発信することにつながりました。一方で、2019年度から授業、ホームルーム活動、学校行事等でのタブレットPCの活用が広がることに備えて、2018年度から校舎の無線LAN環境整備を行っています。充実した学習環境が提供できるよう、引き続き、校舎施設の整備を推進していきます。

入試制度、募集強化事業

①学校説明会の積極的な実施

学校説明会、イブニング説明会、ミニ説明会、授業公開デー、オープンスクール(授業体験)、オープンアクティビティ(部活動体験)、理科実験教室、入試問題対策説明会、入試模擬体験と、来校を促すイベントを数多く実施しました。塾や中学校訪問を積極的に行っていることにより、学校外の説明会では教育内容への具体的な質問が増加し、本校への関心の高まりを実感しました。

②多様なニーズに応えた入試制度の設定

2017年度から中学校では2科、4科の入試とは別に適性検査型入試を行い、論理的思考力や発想力に富む生徒の募集を行っており、2019年度も引き続き実施しました。また、2018年度からは帰国生入試を12月に実施し、2019年度は受験者も合格者も大幅に増え、中学7名、高校6名が合格しました。(内、中学3名、高校1名が入学)多様なニーズに応えた入試形態の設定が功を奏しており、受験生の増加につながっています。

③魅力ある広報活動の実施

2017年度からホームページを一新し、校舎の施設設備の紹介では、360度見渡せるカメラを使用し、臨場感のある映像を公開しており、好評です。生徒の生き生きとした表情も数多く発信されており、ほぼ毎日更新しています。ホームページを活用して本校の良さを多くの方々に発信するとともに、受験生の確保につなげることができました。また、3月には新型コロナウイルス感染症対策の一環として、卒業式の形態を例年と変更して行いましたが、保護者向けにYouTubeで式典の動画を限定配信したところ、大変喜ばれました。

④生徒募集活動の成果分析の実施

第3者機関に依頼し外部からの視点で、入試及び入試広報に関する成果がどの程度であったかについて分析、報告を受けました。他校との比較や経年比較を数値で分析することで、様々な問題点が明確化し、対策につながりました。第3者機関による分析結果を教員間で共有することで、入試広報や生徒募集活動の取り組みに生かすことができました。

「文教アクションプラン2021」の実施

進学実績については、学習合宿や講習、放課後の学習支援システム等を計画的に実施して合格者数を着実に増やしており、キャリア教育においては人生や職業について6年間一貫して学ぶ独自のプログラムが評価され、2018年度文部科学大臣表彰を受賞しました。また、グローバル教育を展開してオーストラリア留学、セブ島語学研修の参加者が増加し、2019年度は中国語を学んで台湾の大学に進学した生徒が12名おりました。一方で、募集・広報活動においては、教職員全体で毎年、学校説明会31回、中学校・塾訪問1000校といった精力的な活動を実施しており、2020年度の入試結果は中学・高校共に盛況となり、特に中学は2年連続で志願者数が1300名を超えました。地域の清掃活動等のボランティア活動等も生徒が積極的に行っており、4年後の目標である「『慈愛の心』『輝く知性』『世界に飛翔する力』の育成」への取り組みが着実に進展しています。

その他

①生徒指導上の留意点について

中高生の時期は、心の成長に重要な時期です。本校では教職員間の情報共有を密にし、保護者の方々と連携して、多感な時期の生徒の悩みやトラブルを小事の段階でとらえて、相談に乗り指導しました。保健

室やスクールカウンセラーとの情報交換や連携も大切にしてきました。毎週月曜日に行っている校長講話では、学園創立90周年である2017年度から、「人間愛」に関する話を定期的に行っています。一方、図書室でも、「人間愛に生きた(る)人々」の書籍コーナーを設置し、生徒の感想文を募集し紹介しました。校訓である「人間愛」について、生徒全体が考えを深める一助になりました。

文教大学付属小学校

当該年度の教育活動に関する事業

①グローバル社会で活躍する人材の育成：英語力の強化

「TOKYO GLOBAL GATEWAY」への参加・「ENGLISH TIME」の継続
東京オリンピックを契機として日本でもより一層、多くの国の人や文化が入り混じるようになることを見据え、本校においてもグローバル社会で活躍できる英語力の育成を図り、2017年度から45分の枠に縛られない短時間学習：モジュールタイム(毎日10分×2回)における子どもによる英語スピーチ「ENGLISH TIME」を設置し英語力を強化してきました。自分のスピーチだけでなく、友達あるいは他の学年の子どもたちのスピーチを毎日聴くことにより、英語のシャワーの中で英語に耳慣れていくこともできます。英語を得意としていた子どももそうでない子どもも、英語への親近感が英語学習意欲向上につながってきています。この「ENGLISH TIME」設置により、全校の子どもたちの英語スピーチ能力が格段に成長しました。
また、2019年4月から、英語ロボットを導入し、さらなる日常的な英語の習熟を工夫しています。

②「全館図書館」のメリットを生かし、「読む力」「書く力」の言語力を強化

学校の中心に「本」がある全館図書館の環境ができ、7年が経ちました。子どもの姿や成果には以下のような変化が見られるようになりました。

- 子どもたち同士の話題が、遊びやゲームが中心だったことから変化し、「本」の話題が多く挙がるようになりました。本校は、9割の子どもが電車で通っていますが、子どもたちのカバンの中には常に本が入っています。混んでいない電車の中では、すき間の時間を利用し、本に積極的に親しむ子どもの姿が多く見られるようになりました。
- 毎年2月に全学年が全国学力模試(CRT)を受け、自分の、あるいは学年や学校としての学力が、客観的な数値で、どのような位置にあるのかを把握しています。全館図書館に校舎が変革して以来、国語における、とくに「読む力」「書く力」において、2017年度から全校平均がどの学年も15ポイント以上を上回る結果を出しています。日常的に本に親しむことが、子どもの学力にいかにか大きなプラスの影響を及ぼしているかが、この数値からも読み取ることができます。

③アクティブラーニング から ディープアクティブラーニング【深い学び】へ ～文教大学付属小学校型ディープアクティブラーニングの構築 本校独自の年間指導計画・単元ごとの評価規準の充実と活用～

2年間かけて構築してきた「文教大学付属小学校型アクティブラーニング」を更に継続し、子どもたちが「どのように学ぶか(論点整理)」に光を当て、「主体的・対話的で深い学び＝ディープアクティブラーニング」を実践してきました。特に、「発問の焦点化」「思考の可視化」に研究の重点をおき、研究授業を通して互いの授業を見合い研鑽を積んできました。教師の魅力的な授業、力の付く授業が、そのまま子どもたちの学習能力向上につながっていくことを意識しながら、今後も研鑽を重ねていきます。

④指導体制の工夫による個に応じた指導

チーム・ティーチングや習熟度別学習、課題別グループ活動等を適

切に行い、個に応じた指導を徹底し、基礎学力の定着と学力向上を図ってきました。特に3年生の算数においては、算数少数担当と学級担任が連携し、2学級3展開の体制を組み、習熟度に応じた充実した授業を展開することができました。

⑤基礎・基本の確実な定着

モジュールタイム、漢字検定(年間2回)、全学年辞書の日常活用、家庭学習の徹底(10分×学年数+20分と取り組みカード活用)等、きめ細かな指導を積み重ね、基礎学力を定着させることができました。特にモジュールタイムの読書活動は、子どもたちの「読む力」「書く力」の向上につながり、2018年度全国学力模試「CRT」でも、全国平均を全ての学年で5～10ポイント以上を上回る結果を出すことができました。

⑥多様な学習展開による学ぶ意欲の高揚

校舎の図書館や多目的スペースの活用計画を作成し、活用するとともに、各教室の電子黒板等を有効に活用して、分かりやすく思考が深まる多様な学習展開を工夫し、子どもの学ぶ意欲を高めました。

⑦日常的な運動継続による体力向上

1日2回の「活き活きトレーニング」や休み時間終了前5分間の「マラソントタイム」、始業前の外遊び、週2回の体操朝礼を継続的に実施することで、子どもたちの体力向上を図ることができました。さらに人工芝の校庭や第二運動場を十分に活用するために、各場所の学級割当てを決め、計画的に体力向上が実現できています。全国体力テストにおいても、日常的なこの取り組みにより、持久力や瞬発力が大きくアップしてきています。

⑧行事や自然体験教室の取り組みによる豊かな心の醸成

全学年が参加する自然学校や学年別に参加する自然教室の緻密な計画、行事への練習過程等を通して、豊かな心を醸成することができました。特に2019年度は、自然学校としては、本校において初めて立ち上げた「富浦」での実践を積むことができました。海浜の植物や生物に触れ合い、縦割りの班ならではの学年を越えた発見を共有する内容の濃い3日間となりました。海浜における豊かな自然体験は、今後理科の生きた学習となって生きてくると確信します。また、異年齢での関わりは、リーダーの育成とともに、各学年における役割を明確にし、学校内における絆を強固なものとししました。

当該年度の研究活動事業

①校内研究の更なる充実・研究主題「学びの深化を目指して自ら問い続ける子どもを育てる 学ぶことを楽しむ!文教大学付属小学校型ディープアクティブラーニング」

- 新たな未来を築く人材育成として「主体的に問題を解決し解を見出していく能動的学習(アクティブラーニング)を実践しました。学びの量とともに、質や深まりを重要視し、子どもたちが「どのように学ぶか(論点整理)」に光を当て、「主体的・対話的で深い学び＝ディープアクティブラーニング」としての授業を展開すべく研究を追究しました。
- 教員の授業力向上に向け、「学ぶことを楽しむ!文教大学付属小学校型ディープアクティブラーニング」を主題に校内研究を充実させました。校内研究日を年11回設定し、どの教員も研究授業を通してお互いの授業を見合い、外部講師の指導を仰ぐことで、実践的な力を高めました。
- 「ディープアクティブラーニング授業スタイル」の工夫に取り組みしました。
 - ・複数で解決していく課題の設定
 - ・協働的な学びを意識した机の配置スタイル
 - ・子どもたちが話し合う場面の設定
 - ・子どもが中心の教師の立ち位置
 - ・課題設定の工夫

②外部研修への積極的な参加と成果の共有・還元

全教員が、年3回の私学連合研究会(全国大会を含む)と個別課題研修1回に必ず参加し、研修成果をまとめて共有し、実践につなげるようにしました。研修の学びは、研修報告書として一冊にまとめ、教職員共通の学びとしました。職員会議では研修報告会も実施しました。

③日常的な教材の研究と準備

全教員が、週ごとの指導計画記入と教材準備について、管理職の指導を受けて、日常的に授業改善を重ねました。

当該年度の学習者支援事業

①系統的なキャリア教育

個に応じたきめ細かな進路指導のために、1年生から6年生までの系統性を明確にしたキャリア教育計画を活用して、全教育活動を通じた指導を進めました。

②個に応じた補習指導

4年生から6年生には、更に具体的に中学校選択への支援ができるように、児童・保護者への調査を行うとともに、面談を通じてニーズを正確に把握しました。それに基づいて補習計画を立てることで、指導内容や方法を改善することができました。

③適切な進路指導

全教員が、2校以上の中学校の説明会等へ参加して、情報の収集や共有を行いました。さらに、中学校受験への具体方策を提案できるようにしたことで、多くの子どもたちが、第一希望第二希望の中学校進学を決めることができました。

当該年度の保護者又は地域連携事業

①保護者参画による行事等

父母の会(児童の父母で構成する協力団体)主催の文教まつりやバザーは、多くの保護者の協力を得て、子どもたちにとって、深く心に残るものになりました。2017年度から、父親による「カキ氷や」の出店もあり、母親のみならず父親の参画も熱心になってきました。

②年間を通じた保護者による参観や面談

児童の日常的な活動から学校生活の状況を正確に把握していくためにも、保護者による行事参加や授業参観を定期的実施してきました。授業参観や教育懇談会を各学期1回計6回、学校公開を3日間連続1回、面談を年間3回実施し、充実した連携を育みました。

③地域連携強化による防災

防災対策、緊急時対応を万全にするために、地域防災会議への参加や関係部署との連携を引き続き密に行いました。5,6年生が消防署の方に心肺蘇生の方法を教えていただき、学期始めや学期末には、警察の方から生活安全の話をお聞きました。

④協力・支援を生かす同窓会

同窓会は、月1回小学校で役員会を開いて連携を図りました。バザーや文教まつり等にも参加いただきました。

校舎施設設備の改善事業

①校舎・施設の特長を最大限に活用した学習活動の展開

校舎の全館図書館や特別教室の利点を生かした授業展開を考え、ねらいと方策を明らかにして取り組み、成果に結び付けました。具体的には、電子黒板を活用することにより、前時の振り返りが容易となり、スパイラルに学習が進めていけるようになりました。

②校舎内・校舎外における教育活動のバランス

校舎内での図書館活用と校舎外の人工芝の校庭での活動とを、バランスよく進めてきました。

入試制度、募集強化事業

①広報活動の充実と応募者増への戦略

幼稚園・保育園・幼児教室等へ、年間複数回訪問することで、幼児保護者に文教大学付属小学校の教育方針や進路指導等を、更に深く理解いただき、知名度を高めていくことができました。また、「受験冊子」や教育誌等への小学校の積極的な掲載等、広報活動を工夫し、定員50名に対し、出願倍率を2.78倍から3.12倍に増やすことができました。

②学校説明会の充実

幼児体験教室や模擬試験等、幼児保護者のニーズを踏まえ、年間5回の説明会の内容を回ごとに工夫し、充実したものにしていきました。回ごとに合唱を披露する子どもたち及び教育活動を紹介する教員を入替えることで、多くの学年の子どもたちの様子を知り、理解を深めていただくことができました。

③学校外説明会の充実

幼児教室から依頼の講演会、近隣の私立小学校合同説明会等で、本校の存在や魅力を広く周知していただく機会を多く得ることができました。

「文教アクションプラン2021」の実施

小学校では、中長期の目標として「ふるさとのような小学校」唯一無二の豊かな教育、選ばれる学校の確立を掲げています。具体的な達成目標としては、定員50名に対し、安定した倍率・志願者の確保ならびに保護者の満足度9割以上の維持を挙げてきました。

・募集・広報

定員50名に対する志願者数は179名で、志願者倍率は3.58倍でした。2018年度志願者数は160名(志願者倍率3.2倍)、志願者数の大幅増(18名増)となりました。受験率は85%に上昇しました。(2018年度80%)毎年継続して実施している学校説明会、個別相談会などの広報活動の状況も好調でした。実質倍率は3.18倍(2018年度2.56倍、2017年度1.96倍)と順調に上がっています。出願受付開始の初日の出願が108組(2018年度101組)と大幅に増加。このことは、本校を第一希望に考えている受験者が増加していることがうかがわれます。結果として歩留まり率も良い状況にありました。

・教育

小学校における進路指導の方針は、一人一人の夢を実現させる進路指導です。そのため、希望している中学校の傾向を徹底的に分析し、どのような中学校を希望するにしても耐える学力の定着を目指しています。2019年度においては、開成・麻布・早稲田・攻玉社等、進学校への合格も射止めることができました。日頃からの授業の在り方と進学指導の在り方が結果として出始めています。

その他

①グローバルに活躍する人材の育成・「オーストラリア短期留学」の実践 「世界の中の日本」を意識した国際理解教育・異文化理解教育の充実

「ファームステイ」と「語学研修」を8日間に組み込み、夏休みを利用したオーストラリア短期留学を実践し、「世界の中の日本」を意識したグローバルな人材育成を実践していきました。充実した内容に年々渡航者も増え、2019年度は34名の実施となりました。(対象としては、4年生から6年生とし、10名以上催行)3月には、いつもお世話になっているノースレイクス ステイトカレッジのダンカン教頭先生も来日さ

れ、子どもたちとの交流を楽しんでいかれました。子どもたちにとっても、異文化異言語にふれるよい機会となりました。

②アフタースクールとの連携

本校で実施しているアフタースクールのスタッフと更に連携を深め、放課後における一人ひとりの子どもの生活・学習を知り、児童理解を深めました。

③「人間愛」あふれる文教っ子 大切な八か条

「豊かな人間性」とともに、「学ぶ楽しさ」「学びの発見や友達との共感、わかった・できたという実感、もっと探究したいという意欲」を育みました。

【第一条】大きな声であいさつ・返事ができること。

【第二条】背中をまっすぐ伸ばして、いい姿勢で過ごせること。

【第三条】素直な気持ち、謙虚さをもって人に接すること。

【第四条】人のせいではなく、自分で責任がもてること。

【第五条】めんどろなことを後回しにしないこと。

【第六条】提出物、宿題について、ちゃんとやれること。

【第七条】困っている友達に進んで声をかけることができること。

【第八条】整理整頓、片付けがしっかりできること。

以上、八か条を生活目標に組み込むことで、豊かな文教っ子の生活が実現できました。

④文教っ子スタンダード

建学の精神「人間愛」に基づく、学校とご家庭の共通理解を冊子「文教っ子スタンダード」として作成したことで、連携しながら教育活動を進めることができました。

⑤自然学校における自然体験の充実

9月に全校ででかける自然学校では、「尾瀬」「富士」に新たに「千葉県・富浦」を加えました。自然体験の少ない子どもたちに、海浜の植物や生物に触れさせる貴重な機会となりました。

⑥防災意識の向上

8月末に「防災の日」を設定することで、いざ何どきに災害が起こっても、「自分の命はしっかり自分で守る」防災意識のスキルを学ぶことができました。毎月行っている避難訓練だけでは、なかなか身につけられない知識も、豊富に積み重ねてきています。

⑦コンピュータシステム保守

2018年8月導入した教育システムの安定稼働・安定維持を目的として導入業者と5年間(2020年8月終了予定)の保守契約をしています。システムのセキュリティー対策や指導要録の改訂に伴う仕様変更など、安定した授業支援、校務支援システムの運用ができました。

文教大学付属幼稚園

当該年度の教育活動に関する事業

①新しい幼稚園教育要領の趣旨を生かしたカリキュラムづくりの推進

新幼稚園教育要領が施行されて2年目に入りますが、園児一人ひとりの発達状況の把握・理解とともに、集団としての育ちに着目したカリキュラムづくりを推進し、そのための基礎作りを行いました。

②様々な「遊び」の中で、組織的かつ計画的に教育課程を実践し、「学ぶ、をあそぼう。」の具現化

2学期頃から学年ごとにテーマを決め、内容を徐々に膨らませながら発表の場を広げ、翌年2月の生活発表会には計画的にその成果を具現化しました。

③「遊び」「運動」「行事」「生活」等の活動を工夫し、生きる力の土台を広げる教育の推進

個々の活動が、それぞれ分かれているのではなく「遊び」が「運動」であったり、「運動」を「行事」に取り入れたり、「生活」の中に「遊び」があったりと、密接した関係を保つ教育が、子どもたちの生きる力の土台となるよう推進しました。

④動植物と触れ合う機会を増やし、自然の変化を肌で感じたり命の大切さを実感したりする活動を通して、豊かな感性の育み

生みたてのチャボの卵を手にとって温かみを感じたり、その卵を産んでくれたチャボの死に直面し、悲しみを体験したことで、子ども達の感性が育まれました。稲やさつまいもの苗を植え、生長していく様子を見ることにより、興味・関心が芽生えています。

当該年度の研究活動事業

①品川区特別支援教育・巡回相談員の助言・指導を効果的に利用した、個々の園児の課題に対応した指導及びそれを踏まえた保護者との連携

2019年度は、品川区特別支援教育・巡回相談員の助言・指導を受けた保護者は4名で、その都度、幼稚園と保護者、巡回相談員とが話をする事により、園児の行動や態度について、より深い理解を得られました。

②品川区私立幼稚園協会・東京都私立幼稚園連合会研修会への参加による教員の資質向上

幼稚園教諭全員が研修会に参加し、新幼稚園教育要領について理解することにより、教員の資質向上だけでなく、幼小接続に係る課題を園全体の問題意識と受け止め、今後の施策についての共通認識の一助となりました。

③時代の変化に対応した幼稚園の在り方の研究及び将来展望の構築

幼稚園・保育園の無償化が2019年10月に施行され、働く母親が多くなったことから「お預かり」時間の延長を望む声も多くあがりました。幼稚園ではこれを時代の要請と捉え2020年度から「預かり保育」を1時間延長する計画を立てました。

当該年度の学習者支援事業

①「目標とする力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が身につく計画的な教育活動の実践

幼稚園教諭と進学先の小学校教諭が、毎年2月に小学校入学時に必要な連絡を行っています。入学する園児が多くいる小学校には、訪問し情報交換を行いました。

②真の学ぶ力の育成

「認める・見守る・ともに楽しむ」という「文教スタイル」を基本に、自己肯定感を育て、遊びながら真の学ぶ力を育みました。

③付属小学校との連携及び保護者への積極的情報提供

2019年4月に幼稚園で開催した付属小学校説明会では、保護者が付属小学校長による話を聞いたり、5月には付属小学校へ松組(年長)園児が見学に行ったりして交流を深めました。また、松組園児には、付属小学校だよりも配布し情報を提供しました。

④「文教幼児教室」との連携

2020年1月、文教幼児教室の講師による小学校入試総括講演を実施した際、付属小学校の入試状況やこれまでの入試問題等の情報を、保護者へ提供しました。

当該年度の保護者又は地域連携事業

①保護者との連携方法

登園時、降園時に必要な連絡等を行ったり、玄関脇ホワイトボードにて注意事項やお知らせ、保育内容の写真などを配信したり、保育活動の様子をリアルタイムに伝えました。

②諸行事の円滑な実施と品川区私立幼稚園協会「保護者教職員連合会」の諸行事との連携

様々な行事に「父母の会」や「おやじの会(父母の会の諸事業支援部として組織された在園児の父親の有志の会)」の協力を得て、保護者も子どもと一緒に楽しめるよう連携を取り、環境を整えました。また、「保護者教職員連合会」では、品川区の諸行事や「あしなが育英会募金」にも協力しました。

③地域や家庭のニーズの把握と必要な対策の実施

保護者アンケートを実施して、地域や家庭のニーズを把握して検討を重ねています。アンケートでは「お預かり」時間の延長を望む声も多くあったので、時間延長など必要な対策を講じました。

④未就園児の保護者との連携及び保護者同士の交流企画の検討

近隣の未就園児(2歳児未満)を持つ保護者を対象に、2019年度は「ぶんぶん広場」と称して7回、園庭の開放や育児相談を受け付け、好評を得ました。

校舎施設設備の改善事業

①園舎の施設設備機能の有効活用

幼稚園施設の定期点検や用務員による園庭の管理を細部まで行い、園舎内においては、日々教職員が安全管理に努めました。

②園児の目線に立った施設設備の整備

コンクリート外壁の角には、クッション性の高いゴムで覆い安全を図っています。また、入校証の提示なしでは幼稚園に入れない旨の周知を常に行い、不審人物の入校を阻止しています。

入試制度、募集強化事業

①保護者のニーズとのミスマッチ防止

入園説明会(幼稚園内)や幼稚園相談会(外部)などで、保育内容等、保護者ニーズとのミスマッチのないよう説明を行っています。

②入園審査方法の精査

2020年度入試では、幼稚園・保育園の無償化に伴い、他園との競合が激化したことから、志願者が減少しました。

③タイムリーな情報を発信できるホームページの有効活用

ブログや幼稚園ニュースなど早期に更新しました。また、「ぶんぶん広場」の実施などをお知らせした結果、多くの来園者を迎えることができました。

④プレスクール実施内容の工夫

昔ながらの伝統的な内容と新しい内容を融合させ、プレスクールを行っています。面白い内容は2018年度と比べ少しでも早く更新するよう努めています。幼稚園生活に興味をもったり、先生方に親しみをもったりできる機会として、プレスクールを位置付けています。“楽しい”だけでなく“絶対に行きたい”と思えるよう、内容や方法を工夫しました。

「文教アクションプラン2021」の実施

「選ばれ続ける幼稚園」を実現するためには、安定した入園者の確保が必須であることから、未就学の子も達が親子で満足できる内容のプレスクールの実施、近隣の方へのアプローチとして幼稚園に設置した掲示板やホームページを利用した幼稚園ニュース・ブログのタイムリーな発信等に力を入れてきました。

また、2019年から新しい幼稚園教育要領に対応するため、講師を招いての園内研修や各種研修会に教員全員が参加し、「生きる力の土台を広げる教育」の充実に努めました。少子化と共働き家庭の増加に対しては、地域ニーズの把握・検討を行い、時代の変化に対応した幼稚園の在り方を研究しています。

そして、「素直で明るい元気な子ども」の持続的な実現を目指し、文教スタイル「認める・見守る・ともに楽しむ」という保育・指導を核にして取り組み続けています。

【達成目標】

入園者60名の確保⇒達成率63%

保護者の満足度9割以上⇒達成 ※保護者幼稚園評価アンケート結果より

その他

①「文教幼児教室」との募集方法、連携の仕方を工夫

募集チラシ及び講演会のお知らせは、全園児に配布しました。講演会でも幼児教室の事だけでなく、家でのしつけの仕方など、子育てに必要な知識を盛り込むことで好評を得ました。

②保護者の満足度を高める教育活動の充実

2019年度の保護者アンケート結果は、全体的に満足度は向上しました。これをもとに教育活動の充実に努めます。

八ヶ岳寮

当該年度の主な事業内容

①八ヶ岳学寮の運営

2018年度中に経年劣化による故障や不具合の改修工事を完了し、2019年度から八ヶ岳学寮の運営を再開しました。

2019年5月1日現在

[1] 教育研究上の基本となる組織に関する情報

大学等	学部・研究科等	学科等	課程等	
文教大学	教育学部	学校教育課程	国語専修	
			社会専修	
			数学専修	
			理科専修	
			音楽専修	
			美術専修	
			体育専修	
			家庭専修	
			英語専修	
			特別支援教育専修	
			心理教育課程	児童心理教育コース
				幼児心理教育コース
			人間科学部	人間科学科
	臨床心理学科			
	心理学科			
	文学部	日本語日本文学科		
		英米語英米文学科		
		中国語中国文学科		
		外国語学科		
	情報学部	情報システム学科		
		情報社会学科		
		メディア表現学科		
	国際学部	国際理解学科		
		国際観光学科		
	健康栄養学部	管理栄養学科		
	経営学部	経営学科		
(大学院)	教育学研究科	学校教育専攻	修士課程	
	人間科学研究科	臨床心理学専攻	修士課程 博士(後期)課程	
		人間科学専攻	修士課程	
		言語文化研究科	言語文化専攻	修士課程 博士(後期)課程
	情報学研究科	情報学専攻	修士課程	
	国際学研究科	国際学専攻	修士課程	
(専攻科)	教育専攻科	教育学専攻		
(外国人留学生別科)				
文教大学付属高等学校			全日制課程普通科	
文教大学付属中学校				
文教大学付属小学校				
文教大学付属幼稚園				

[2] 教員組織及び教員数並びに教員の保有学位、業績に関する情報

専任教員数		※大学の教員数には学長を含みません。	
大学等	学部・研究科等	学科等	教員数*1
文教大学	教育学部	学校教育課程	52
		心理教育課程	12
	人間科学部	人間科学科	15
		臨床心理学科	14
		心理学科	13
	文学部	日本語日本文学科	12
		英米語英米文学科	10
		中国語中国文学科	9
		外国語学科	10
	情報学部	情報システム学科	11
		情報社会学科	11
		メディア表現学科	11
	国際学部	国際理解学科	16
		国際観光学科	13
	健康栄養学部	管理栄養学科	17
	経営学部	経営学科	16
(大学院)	教育学研究科	学校教育専攻(修士課程)	(26)
	人間科学研究科	臨床心理学専攻(修士課程)	(15)
		臨床心理学専攻(博士(後期)課程)	(3)
		人間科学専攻(修士課程)	(22)
	言語文化研究科	言語文化専攻(修士課程)	(26)
		言語文化専攻(博士(後期)課程)	(10)
	情報学研究科	情報学専攻(修士課程)	(22)
	国際学研究科	国際学専攻(修士課程)	(15)
(専攻科)	教育専攻科	教育学専攻	(18)
(外国人留学生別科)			(4)
文教大学付属高等学校		全日制課程普通科	37
文教大学付属中学校			22
文教大学付属小学校			15
文教大学付属幼稚園			11

*1) ()内数字は大学との兼任教員数

教員の保有学位

※学長を含みません。

教育学部	博士:27人	教育学、学校教育学、心身障害学、文学、理学、学術、芸術学、美術、体育科学、医学、農学、心理学、D.Ed.、PhD in Applied Linguistics
	修士:33人	教育学、社会福祉学、文学、社会科学、音楽、芸術学、体育学、保健学、家政学、理学、農学、心理学
	学士:3人	教育、音楽、文学
人間科学部	博士:20人	心理学、教育学、医学、学術、人文科学、カウンセリング、社会学、社会福祉学、医療福祉ジャーナリズム学、臨床心理士
	修士:20人	心理学、カウンセリング、社会学、教育学、法学、学術、文学、体育学、経営学、M.A.
	学士:2人	教育、家政
文学部	博士:24人	文学、言語学、人文科学、教育学、学術、国際関係学、人間文化、Ph.D.、地域研究、イギリス文学、応用言語学、図書館・情報学
	修士:17人	文学、M.A.、言語学、教育学、英語教育、比較文学、学術
	学士:0人	法学
情報学部	博士:17人	工学、情報学、理学、政策・メディア、文学、学術、Ph.D.、システムズ・マネジメント、社会工学
	修士:13人	学際情報学、映像身体学、芸術学、理学、文学、法学、学術、社会心理学、図書館・情報学
	学士:3人	造形、文学、教養
国際学部	博士:10人	Ph.D.、環境学、地域研究、文学、経済学、法学、心理学、農学
	修士:18人	国際学、社会学、文学、経済学、商学、教育学、法学、経営学、体育学、M.A.、M.Ed.
	学士:1人	社会学
健康栄養学部	博士:11人	食品栄養学、保健学、医学、理学、スポーツ健康科学、体育科学、農学、社会学、学術
	修士:2人	家政学、教育学
	学士:4人	農学、理学、B.S.
経営学部	博士:9人	経営学、経営工学、経済学、社会工学、組織行動学、システムズ・マネジメント、言語学、学術
	修士:6人	経営学、商学、法学、M.A.
	学士:1人	商学

教員個別の保有学位及び業績の詳細は、文教大学ホームページで公開しています。

<https://www.bunkyo.ac.jp>

Home > 大学院内 > 研究情報・図書館 > 研究者情報データベースを参照して下さい。

[3] 学生に関する情報

学生・生徒・児童・園児数

大学等	学部・研究科等	2019年5月1日現在				2020年5月1日現在	
		入学定員	入学者数	収容定員*1	在学者数	卒業者数	進学者数
文教大学	教育学部	350	348	1400(1385)	1590	373	3
	人間科学部	400	456	1600	1786	484	32
	文学部	360	394	1440	1664	390	23
	情報学部	285	305	1140	1244	281	4
	国際学部	245	263	980	1148	254	7
	健康栄養学部	100	107	400	431	99	2
	経営学部	165	172	660	737	151	5
(大学院)	教育学研究科	10	1	20	4	3	0
	人間科学研究科 (修士課程)	30	15	60	37	22	0
	人間科学研究科 (博士(後期)課程)	2	0	6	0	0	0
	言語文化研究科 (修士課程)	10	10	20	21	11	2
	言語文化研究科 (博士(後期)課程)	2	1	6	4	2	0
	情報学研究科	6	3	12	11	3	0
	国際学研究科	5	4	10	10	0	0
(専攻科)	教育専攻科	15	2	15	2	1	0
(外国人留学生別科)		40	13	40	28	26	22
文教大学付属高等学校*2		270	269	810	808	243	208
文教大学付属中学校*2		200	184	600	493	144	144
文教大学付属小学校		50	56	300	323	50	50
文教大学付属幼稚園		60	59	180	162	52	52

*1) 教育学部の収容定員は、平成28年度から335名から350名に変更。()内は、平成30年度収容定員 *2) 付属高等学校及び付属中学校の入学定員及び収容定員は募集定員

志願者数・受験者数・合格者数

学部	課程・学科・専修・コース	志願者数	受験者数	合格者数	
教育学部	学校教育課程	国語専修	1,011	971	110
		社会専修	1,314	1,278	139
		数学専修	1,086	1,044	125
		理科専修	569	531	72
		音楽専修	186	181	34
		美術専修	70	66	20
		体育専修	421	398	56
		家庭専修	149	143	30
	英語専修	635	607	91	
	小計	5,441	5,219	677	
	心理教育課程	特別支援教育専修	363	351	56
		初等連携教育専修	722	684	118
		児童心理教育専修	653	615	112
		幼児心理教育専修	337	297	110
小計	2,075	1,947	396		
学部合計	7,516	7,166	1,073		
人間科学部	人間科学科	1,448	1,401	402	
	臨床心理学科	1,165	1,107	296	
	心理学科	1,307	1,250	371	
	学部合計	3,920	3,758	1,069	
文学部	日本語日本文学科	1,158	1,121	264	
	英米語英米文学科	803	768	289	
	中国語中国文学科	549	524	148	
	外国語学科	399	390	161	
	学部合計	2,909	2,803	862	
情報学部	情報システム学科	914	862	165	
	情報社会学科	843	792	235	
	メディア表現学科	799	751	213	
	学部合計	2,556	2,405	613	
国際学部	国際理解学科	1,339	1,273	389	
	国際観光学科	1,090	1,030	222	
	学部合計	2,429	2,303	611	
健康栄養学部	管理栄養学科	440	391	214	
	学部合計	440	391	214	
経営学部	経営学科	1,556	1,487	285	
	学部合計	1,556	1,487	285	
合計		21,326	20,313	4,727	

入学に関する基本的な方針

文教大学

教育学部

【求める学生像】

教育学部は、次のような学生の入学を期待しています。

- ①子供の幸せと健康な成長を望み、それに関わることへの意欲に満ちている人
- ②幼児・児童・生徒と喜びをわかちあい、共に成長していこうとする人
- ③社会や時代の変化に関心を持ち、柔軟に対応していこうとする人
- ④学校教育課程においては、小学校・中学校・高等学校等、教育全般に関わる仕事に関心を持ち、そのための専門的な知識や実践力を身に付ける場を求めている人
- ⑤心理教育課程においては、保育所・幼稚園等、保育や幼児教育に関わる仕事に関心を持ち、そのための専門的な知識や実践力を身につける場を求めている人

【学んでほしい内容】

- ①教育学部で学ぶために必要な高等学校までの基本的で幅広い知識と技能
- ②積極的に人と交流するためのコミュニケーション能力や協調性
- ③教育・保育や支援活動に取り組むために必要な粘り強さと責任感

人間科学部

【求める学生像】

人間科学部は、次のような学生の入学を期待しています。

- ①高校等で継続的に修学の努力を重ね、一定の基礎的・基本的な知識・技能を身につけた人
- ②人間の多様な営みに関心を持ち、その営みを探求する意思と思考力を持つ人
- ③学校生活、あるいは学校外の地域活動、文化活動、スポーツ活動などの実践体験をもち、実際生活を通して人間社会への関心と主体的に学習に取り組む姿勢を持つ人

〈人間科学科〉

- ①高校等で継続的に修学努力を重ね、一定の基礎的・基本的な知識・技術を身につけた人
- ②人間の多様な営みに関心を持ち、その営みを探求する意思と思考力を持つ人
- ③学校生活、あるいは学校外の地域社会において、ボランティア活動、文化芸術活動、スポーツ活動などの実践体験をもち、生活を通して人間社会への関心と主体的な学習に取り組む、社会への参加を試みる姿勢を持つ人

〈臨床心理学科〉

- ①臨床心理学に対する強い関心と学習意欲を持つ人
- ②こころの問題について援助しようとする意欲と思考力を持つ人
- ③人間の幅広い側面に興味を持ち、コミュニケーションを図ろうとする意欲のある人
- ④臨床心理学の専門性を生かして社会に貢献したいと志望する人

〈心理学科〉

- ①高校等で継続的に修学努力を重ね、一定の基礎的・基本的な知識・技術を身につけた人
- ②心理学に対する関心と主体的に学習に取り組む姿勢を持つ人
- ③人の幅広い側面に興味を持ち、実際の生活を通して人間社会への関心とコミュニケーションを図ろうとする意欲のある人

【学んでほしい内容】

- ①国語・英語・数学・理科・社会は、学部での学修の基礎となるものなので一定水準以上の学力が必要です。
- ②その他の教科についても、論理的思考力、豊かな表現力、現実を的確にとらえた実践力などを涵養する観点から、幅広く学修していることが望めます。

〈人間科学科〉

- ①国語、英語、数学、理科、社会は、学科における学修の基礎となるものなので一定水準以上の学力が必要です。
- ②その他の教科についても、論理的思考力、豊かな表現力、現実を的確にとら

えた実践力などを涵養する観点から、幅広く学修していることが望めます。

〈臨床心理学科〉

- ①基本的な生活態度、学習態度。
- ②人と交流しようとするコミュニケーション態度
- ③読解力と表現力を含む基礎学力

〈心理学科〉

- ①科学的態度を習得する上で必要となる国語、英語、数学、理科、社会など学科における学修の基礎となる科目の一定水準以上の基礎学力が必要です。
- ②その他の教科についても、論理的思考力、豊かな表現力、現実を的確にとらえた実践力などを涵養する観点から、幅広く学習していることが望めます。

文学部

【求める学生像】

文学部は、その教育目標を達成するために、次のような学生の入学を期待しています。

- ①本学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に対する理解と共感を有する人
- ②多様な言語と文化に関心が深く、知的好奇心をそなえた学ぶ意欲あふれる人
- ③広い視野を持って国際社会で活躍できる人
- ④人に心を開き、円滑なコミュニケーションを行うことができる人

さらに本学部の四つの学科は、上記に加えそれぞれ次のような意欲・関心を持った人を求めています。

〈日本語日文学科〉

- ①本学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に対する理解と共感を有する人
- ②日本語および日本文化に対する関心が深く、積極的かつ多角的に探求して、広く社会に貢献しようとする姿勢を有する人

〈英米語英米文学科〉

- ①本学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に対する理解と共感を有する人
- ②英語圏の言語と文化に興味があり、将来英語力を生かしたい人

〈中国語中国文学科〉

- ①本学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に対する理解と共感を有する人
- ②中国語の修得および中国語圏の文化に対する関心が深く、積極的かつ多角的に探求して、広く社会に貢献しようとする姿勢を有する人

〈外国語学科〉

- ①本学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に対する理解と共感を有する人
- ②英語ともう一つの外国語を修得する意欲があり、多文化に対する理解・共感に関心が深く、将来、グローバルな視点で社会に貢献する意欲を持つ人

【学んでほしい内容】

- ①多様な言語と文化への深い関心、主体的な知的好奇心、国際社会で活躍できる広い視野、心を開いた円滑なコミュニケーション能力などの、意欲的に学ぼうとする態度
- ②日本語および日本語以外の言語の基礎的な知識や技能。また、歴史・地理などの基礎的な知識
- ③日本語および日本語以外の言語の基礎的な応用力。また、広く人間の言語と人間が生み出したさまざまな文化の産物への関心、歴史・地理などの知識の基礎的な応用力

〈日本語日文学科〉

- ①日本語および日本文化への深い関心、日本語および日本文化を積極的かつ多角的に探求して、広く社会に貢献しようとする姿勢などの、意欲的に学ぼうとする態度

- ②日本語および日本語以外の他言語の基礎的な知識や技能。また、日本を中心とする国際的な歴史・地理などの基礎的な知識

- ③日本語の基礎的な応用力。また、広く人間の言語と人間が生み出したさまざまな文化の産物への関心、および歴史・地理などの知識の基礎的な応用力

〈英米語英米文学科〉

- ①英語圏の言語と文化への興味・関心。また、広い視野をもって意欲的に学ぼうとする態度
- ②英語圏の言語と文化に関する基礎的な知識。また、英語で簡単なコミュニケーションができる力
- ③人間の言語と文化に関する基礎的な知識を生かし、今日の世界の状況を理解して、説明や意見を簡単な英語で述べる力

〈中国語中国文学科〉

- ①中国語圏の言語と文化への興味・関心。また、広い視野をもって意欲的に学ぼうとする態度ならびにコミュニケーション能力。また、他者との違いを理解・尊重しようとする態度によって他者と協働し、社会に貢献しようとする姿勢
- ②日本語および中国語を含む日本語以外の言語の基礎的な知識や技能。また、歴史・地理・思想・社会・文化などの基礎的な知識、およびそれらに対する基礎的な問題意識
- ③日本語および中国語を含む日本語以外の言語の基礎的な知識に基づいて、広く人間の言語と人間が生み出したさまざまな文化・事象への関心を持ち、今日の社会が抱える課題に対して主体的に考察・判断・表現し、さらに取り組みを進めることができる意欲や技能

〈外国語学科〉

- ①英語とも一つの外国語を修得する意欲、多文化に対する理解・共感への深い関心、将来グローバルな視点で社会に貢献する意欲などの、意欲的に学ぶ態度。ならびに、他者との違いを受容し協働しようとする姿勢
- ②日本語および日本語以外の言語の基礎的な知識や技能。また、歴史・地理・環境・社会情勢など、自身を取り巻く社会の諸側面に関する基礎的な知識、およびそれらに対する基礎的な問題意識
- ③日本語および日本語以外の言語の基礎的な知識に基づいて、具体的な事象や課題について主体的に考え、判断し、自身の考えを表現する基本的な力。また、広く人間の言語と人間が生み出したさまざまな文化・事象への関心に基づき、新たな課題を見出し発想する力

情報学部

【求める学生像】

情報学部は、次のような学生の入学を期待しています。

- ①情報化社会に関心があり、その中で主体的に生きようとする人

【学んでほしい内容】

- ①基礎的なコミュニケーション能力に直結する学習を十分に行っていること
- ②論理的な思考力に資するような科目を習得していること
- ③現代の社会に対する基礎的な理解や関心を持っていること

国際学部

【求める学生像】

国際学部は、次のような学生の入学を期待しています。

- ①国際社会で生じている多様な問題に関心を持ち、国際理解や国際観光の学びを通じて積極的に社会貢献したいと考えている人
- ②英語を主とする外国語コミュニケーション能力を高めるとともに、社会への理解を深めて国際社会と地域社会の課題解決に貢献したいという意欲を持つ人
- ③旅行、宿泊、交通などの観光ビジネスや地域づくりに関心を持ち、国際観光を通じて社会への貢献をしたいという意欲を持つ人
- ④世界のいろいろな現場で求められる多様な「リーダー」の重要性を理解し、「人を育てる私」になる自覚をもって学修する意欲を持つ人

〈国際理解学科〉

- ①英語を主とする外国語コミュニケーション能力を高めるとともに、社会への理解を深めて国際社会と地域社会の課題解決に貢献したいという意欲を持つ人
- ②世界の地理、歴史、文化、言語に関する基礎知識を有している人
- ③高等学校までの学習において、正課外活動を通じて、地域社会の課題解決にかかわった経験がある人

〈国際観光学科〉

- ①旅行、宿泊、交通などの観光ビジネスや地域づくりに関心を持ち、国際観光を通じて社会に貢献したいという意欲を持つ人
- ②基礎的なコミュニケーション能力を有している人
- ③国際観光や地域づくりにかかわった経験がある人

【学んでほしい内容】

- ①世界の歴史、文化、言語に関する基礎知識
- ②国際観光や国際交流の体験や学習経験
- ③基礎的なコミュニケーションスキル

〈国際理解学科〉

- ①世界の地理歴史、政治経済、文化、言語に関する基礎知識
- ②英語を主とした基礎的な外国語コミュニケーションスキル
- ③国際交流などの体験や学習経験

〈国際観光学科〉

- ①世界の地理歴史、政治経済、文化、言語に関する基礎知識
- ②自分の考えをまとめ相手に伝えるための思考力や表現力
- ③観光や地域にかかわる体験や学習経験

健康栄養学部

【求める学生像】

健康栄養学部では、次のような学生の入学を期待しています。

- ①本学の健康栄養学部の特色である「予防医学を重視した管理栄養士養成」と「ココロの面からも対応できる管理栄養士の養成」を理解し、将来、食と健康のプロフェッショナルとなることを希望する人
- ②探究心旺盛で、食と健康に関する問題に興味を持っている人
- ③強い責任感と使命感を持っている人、学問に対しつねに真摯な態度で取り組む人、協調性に富み、周囲からの信望が厚い人

【学んでほしい内容】

- ①理科(化学と生物)と家庭科を十分に習得していることを望みます。特に化学(有機化学)に関する基礎学力が十分に習得できていることが大切です。(入学後、化学(有機化学)に関する基礎学力を能力別に補う初年次教育を実施しています。)

経営学部

【求める学生像】

経営学部では、次のような学生の入学を期待しています。

- ①文教大学の「人間愛」の理念のもとで、社会のより良き一員として生きていくための基盤的な能力や人格を着実に修養し、そのうえで経営資源(ヒト・モノ・カネ・情報)を多面的に効果的に活用できる人
- ②経営活動において人を核心とする思想と手法を統合し、「人間尊重の経営」を具現化できる人
- ③基礎学力と学修意欲を有していることはもとより、大学の理念や学部の目標について理解し共鳴できる人

【学んでほしい内容】

- ①基礎学力と学びへの姿勢
高等学校における教科を着実に学び、基礎学力を修得しており、学ぶことの面白さや学ぶ習慣を身につけている。
- ②求められる能力にかかる基礎の修得
コミュニケーション能力、論理的思考力、総合的判断力、そして的確な表現力は、経営学部での専門的な学修を深めるために不可欠となる。高等学校での各教科の学習を通じて、こうした能力の基礎が修得できている。
- ③主体的な思考と他者との協働
経営学部の教育では、学生と教員、あるいは学生同士の対話と協働によって、高度な思考力や卓越した創造性を錬磨させていく。主体的に思考し行動しながらも、他者を尊重し多様な人々と協力していこうとする態度が身につけている。
- ④社会の一員としての意識
自分の人生や進路について真剣に考えるとともに、社会のさまざまな出来事に対して問題意識を有している。

文教大学大学院

教育学研究科

【求める学生像】

教育学研究科では、次のような学生の入学を期待しています。

- ①教員免許を取得しているが、教職に関してより深く学び、または、免許をさらに高いものへ上進しようとする人
- ②学部で4年間で培った知見を土台としながら、研究科へ進んで、それをさらに発展させようとする人
- ③大学院修学休業制度等を利用し1年間ないし2年間休職し、本研究科での研修を希望する人
- ④生涯学習の一環として教育に関する学問を深めようとする人
- ⑤教職の専門性を高めるために本研究科を志望する社会人、科目等履修生として大学院で研修を希望する人、大学院を修了後に研究生として学ぼうとする人

人間科学研究科

【求める学生像】

人間科学研究科では、次のような学生を求めています。

〈臨床心理学専攻修士課程〉

- ①心理学及び臨床心理学の高度な知識や技法を学び、公認心理師または臨床心理士、あるいはその両方の資格を取得し、心理臨床家として社会に貢献したい意欲を持つ人。
- ②臨床心理学領域の研究を積極的に行う意欲のある人。
- ③心理臨床家として自立するに相応しい誠実さや真摯な態度を有しているか、その実現の可能性を有している人。

〈人間科学専攻修士課程〉

- ①心理学、社会学、教育学または社会福祉学などを専門としながらも、人間科学の視点である学際性・総合性を踏まえた学修、実践及び研究を主体的に行う意欲のある人。
- ②高い課題解決能力を身につけ、将来、それを社会に役立てたいという意欲のある人。

〈臨床心理学専攻博士後期課程〉

- ①当該専門領域の修士に相応しい知識・技能及び研究成果を有している人。
- ②博士の学位取得に向け研鑽を重ねるとともに、これにあたり人間科学の学際性・総合性を踏まえることのできる人。

言語文化研究科

【求める学生像】

言語文化研究科は、次のような学生の入学を期待しています。

- ①本研究科の学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に対する理解と共感を有する人
- ②本学の建学の理念としての「人間愛」の精神を持つ人
- ③国際社会における異文化間に架橋できるような広い視野を持つ人
- ④修士課程においては、言語と文化に対する高度な専門的職業人となる意欲を持つ人
- ⑤博士後期課程においては、言語と文化に対する高度で専門的な研究を行う意欲を持つ人
- ⑥日本と異なる大学制度下で教育を受けた外国人の中で、特に本研究科の教育目標に沿った研究を志望する人
- ⑦社会人の中で、特に本研究科の教育目標に沿った研究を志望する人

情報学研究科

【求める学生像】

情報学研究科では、次のような学生の入学を期待しています。

- ①一定の基礎学力、科学技術の根幹を担う情報科学などの基本的な知識・技能を持ち、自ら学ぶ意欲も高く、論理的で柔軟な思考能力を持つ人
- ②知的好奇心が旺盛で主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度と新しい分野に創造的に取り組む意欲と能力を備えた資質・素養を持つ人
- ③わが国はもとより世界からも学生を迎え入れる。

国際学研究科

【求める学生像】

国際学研究科では、次のような学生の入学を期待しています。

- ①人類、世界、地域社会が直面する問題に関心を抱き、グローバルな視点から考え、ローカルな場で問題解決にむけて役割を果たしたいという志を持つ人
- ②問題解決のための、より専門的な思考力、判断力、方法・スキルを身につけたいという志を持つ人
- ③国際あるいは地域の発展のありかたやそのデザイン、市民の自発的な活動がより大きな役割を果たす社会、ツーリズムやその将来像、さらに日本と特定の国の制度や文化の比較、などの領域に関心を抱く人
- ④一定の語学能力・日本語文章力を有し、人文・社会科学領域の基礎力あるいは上記領域での経験を有する人
- ⑤国際交流、国際観光、ボランティア活動などへの関心や体験を有する人

文教大学附属中学校・高等学校

【求める生徒像】

- ①学園の建学の精神である「人間愛」の意味を理解し、自分と同様に人を大切に思いやり、その思いを社会奉仕などに具現化できる生徒。
- ②将来自分の進む進路の実現に向けて、日々の勉学に取り組む強い意志と向上心を持つ生徒。
- ③学校行事・部活動等に積極的に参加し、人との交わりの中で協調性・社会性を養うことができる生徒。

文教大学附属小学校

【求める児童像】

- ①「慈愛の心をもった子ども 自ら学ぶ子ども 情操豊かな子ども 頑張る子ども 明朗な子ども」
- ②「人間愛」あふれる文教つ子八ヶ条から、
- ◎大きな声であいさつ・返事ができること
- ◎素直な気持ち、謙虚さをもって人に接すること
- ◎人のせいではなく、自分で責任がもてること

文教大学附属幼稚園

【求める園児像】

満3歳に達し、心身共に健康な子で、学園の建学の精神である「人間愛」の教育方針並びに幼稚園の教育目標「素直で明るい元気な子ども」に、御理解・御賛同いただける御家庭のお子さんをお待ちしています。

就職者数及び卒業後の進路

文教大学

学部・学科	状況別卒業生数 (2019年度卒業生数)	大学院研究科	大学学部	短期大学本科	専攻科	別科	就職者	専修学校 外国の学校	進学準備中	就職準備中	その他	不詳	計
教育学部	学校教育課程	4	0	1	2	0	264	0	1	3	2	0	277
	心理教育課程	1	2	0	0	0	101	0	0	0	1	0	105
	計	5	2	1	2	0	365	0	1	3	3	0	382
人間科学部	人間科学科	1	0	0	0	0	145	2	0	2	3	0	153
	臨床心理学科	20	0	0	1	0	110	3	1	5	3	0	143
	心理学科	0	1	0	0	0	128	3	0	6	1	0	139
計	21	1	0	1	0	383	8	1	13	7	0	435	
文学部	日本語日本文学科	4	0	0	0	0	128	3	0	7	1	0	143
	英米語英米文学科	0	1	0	0	0	144	2	2	5	1	0	155
	中国語中国文学科	4	2	0	0	0	86	5	0	3	1	0	101
計	8	3	0	0	0	358	10	2	15	3	0	399	
情報学部	情報システム学科	3	0	0	0	0	79	0	0	4	0	0	86
	情報社会学科	1	0	0	0	0	74	0	0	7	1	1	84
	メディア表現学科	0	0	0	0	0	95	1	1	5	2	0	104
計	4	0	0	0	0	248	1	1	16	3	1	274	
国際学部	国際理解学科	1	0	0	0	0	109	0	1	3	1	0	115
	国際観光学科	0	0	0	0	0	148	0	0	3	2	0	153
計	1	0	0	0	0	257	0	1	6	3	0	268	
健康栄養学部	管理栄養学科	0	0	0	0	0	94	0	0	2	1	0	97
	計	0	0	0	0	0	94	0	0	2	1	0	97
経営学部	経営学科	1	0	0	0	0	151	1	0	12	3	0	168
	計	1	0	0	0	0	151	1	0	12	3	0	168
大学合計		40	6	1	3	0	1,856	20	6	67	23	1	2,023

主な就職先

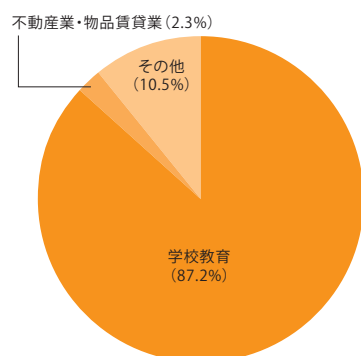
教育学部

公立小学校教員／公立中学校教員／公立高等学校教員／公立特別支援学校教員／幼稚園教員／公務員保育士（埼玉県さいたま市、川崎市、千葉県松戸市、東京都北区、文京区）／公務員（事務系）狭山市役所／公務員（技術系）東京都交通局／公務員（消防官）東京消防庁／（株）アタゴ／ディップ（株）／（株）JALスカイ／東京ベイ信用金庫／住友不動産販売（株）／（株）エフ・ジェー・ネクスト／リゾートトラスト（株）／（株）オリエンタルランド／（株）スプリックス／（社福）江寿会【アゼリーグループ】／（株）クイック

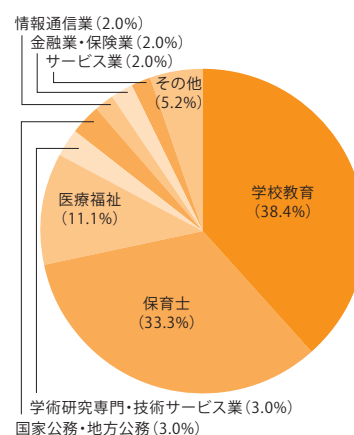
【産業別就業者の割合】

※一時的な仕事に就いた者を除く。

【学校教育課程】



【心理教育課程】



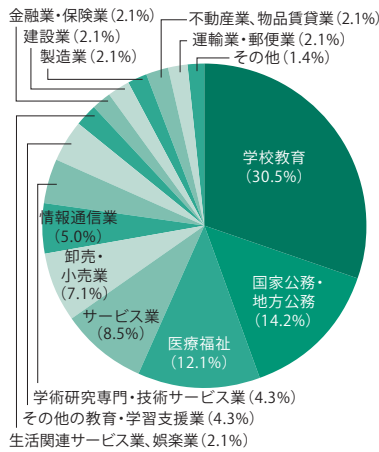
人間科学部

高周波熱錬(株) / (株) アイチコーポレーション / 堀川産業(株) / (株) 大塚商会 / (株) ヒト・コミュニケーションズ / (株) トムス・エンタテインメント / 公益財団法人日本道路交通情報センター / 小田急電鉄(株) / 東海旅客鉄道(株) JR東海 / フルサト工業(株) / (株) アカギ / (株) ローソン / (株) メトロコマース / (株) 群馬銀行 / 埼玉県農業共済組合連合会 / (株) エイジス / ワタキューセイモア(株) / (株) 明光ネットワークジャパン / 公益財団法人東京都保健医療公社 / (医) IMSグループ(板橋中央総合病院グループ) / (社福) 三篠会 / 日本郵便(株) / エン・ジャパン(株) / ポラス(株) / (株) グロップ / 公務員(事務系) 東京特別区、越谷市 / 公務員(心理系) 千葉県庁 / 公務員(福祉系) 石川県庁、東京特別区 / 公務員(社会教育主事) 春日部市 / 公立学校教員

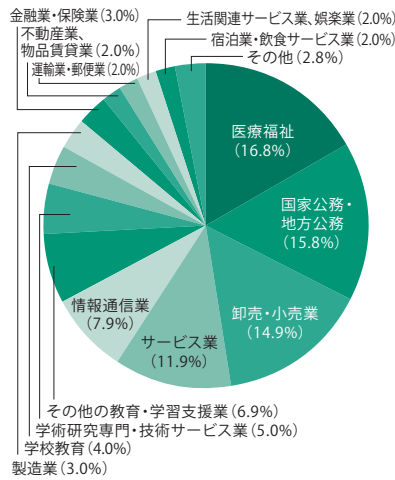
【産業別就業者の割合】

※一時的な仕事に就いた者を除く。

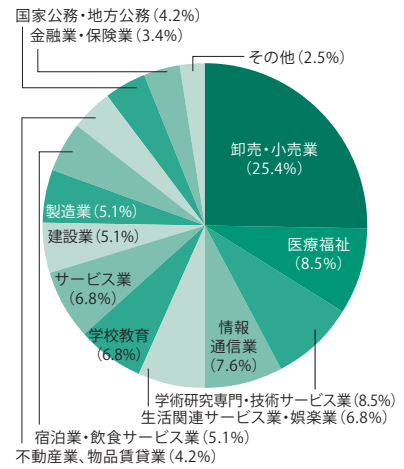
【人間科学科】



【臨床心理学科】



【心理学科】



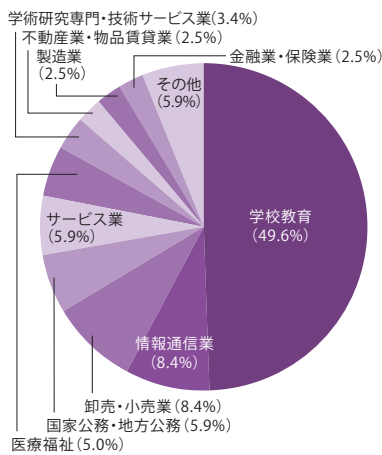
文学部

ニッカホーム(株) / (株) 前川製作所 / (株) 南雲製作所 / (株) リケン / AGS(株) / (株) システナ / 東日本旅客鉄道(株) / 山九(株) / フルサト工業(株) / (株) スリーボンド / (株) 小泉 / (株) しまむら / (株) クスリのアオキ / 埼玉トヨペット(株) / 埼玉県信用農業(協組連) / 埼玉県信用金庫 / ソニー生命保険(株) / 三井住友トラスト不動産(株) / (株) アインホールディングス / リゾートトラスト(株) / (株) 日本旅行 / (医) IMSグループ(板橋中央総合病院グループ) / 日本年金機構 / (株) ベストライフ / 日本郵便(株) / 公務員(事務系) 栃木県庁 / 公務員(司書) 調布市 / 警察官(警視庁) / 国税専門官 / 公立学校教員

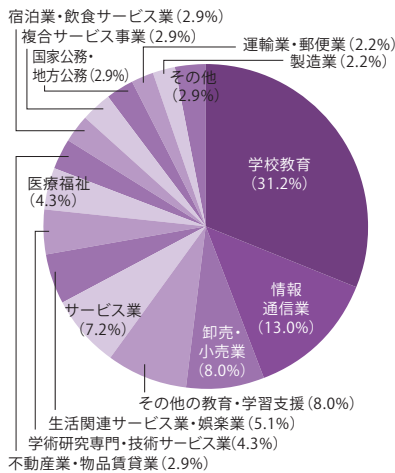
【産業別就業者の割合】

※一時的な仕事に就いた者を除く。

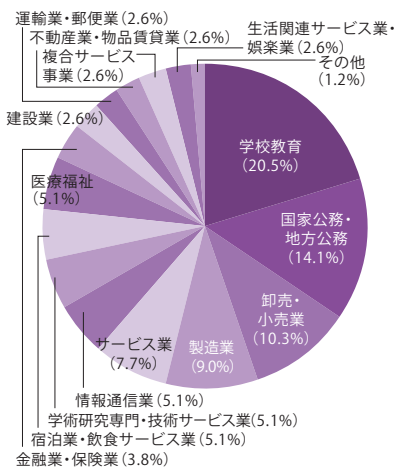
【日本語日本文学科】



【英米語英米文学科】



【中国語中国文学科】



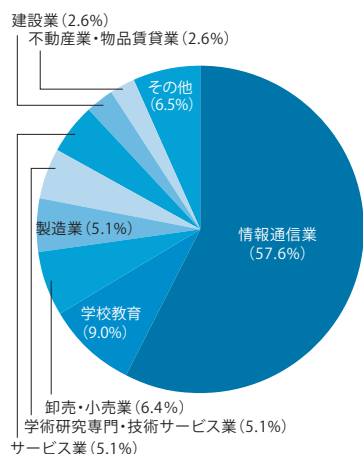
情報学部

(株)フロンティア/東日本旅客鉄道(株)/渡辺パイプ(株)/(株)ナガワ/旭情報サービス(株)/TDCソフト(株)/サトーホールディングス(株)/日本システムウエア(株)/(株)アルファシステムズ/(株)ミロク情報サービス/(株)プラスアルファ・コンサルティング/日本デジタル配信(株)/(株)日テレアクセスオン/(株)システナ/(株)ニチボウ/(株)ミクシィ/(株)イマギイレ/(株)フジ・メディア・テクノロジー/(株)情報システム工学/タキヒヨー(株)/(株)日立社会情報サービス/(株)ジェイアール東日本情報システム/ドコモ・データコム(株)/リコージャパン(株)/栃木県警察本部/横浜市交通局/長野市役所/片品村役場/吉見町役場/公立学校教員

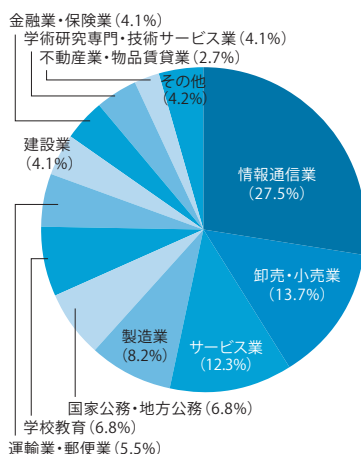
【産業別就業者の割合】

※一時的な仕事に就いた者を除く。

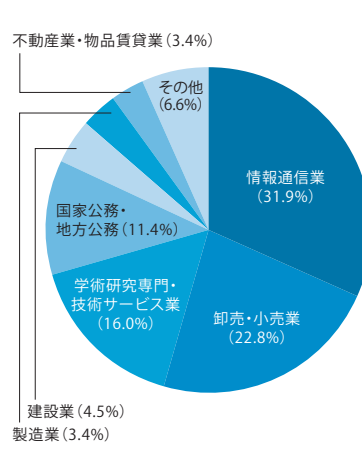
【情報システム学科】



【情報社会学科】



【メディア表現学科】※広報学科卒業者を含む。



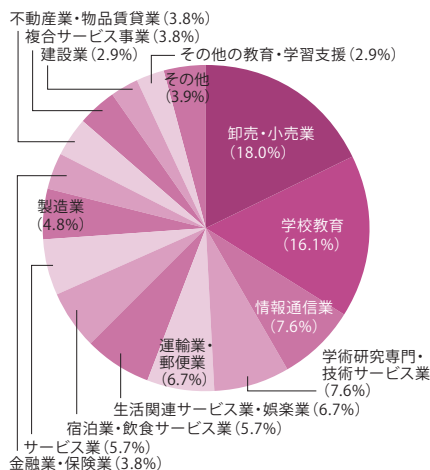
国際学部

イケア・ジャパン(株)/ (株)エイチ・アイ・エス/ (株)マーキュリー/ (株)和光ケミカル/東京ベイヒルトン(株)/日本ギア工業(株)/ (株)ダイアナ/日本郵便(株)/ (株)ベネッセスタイルケア/ (株)横浜グランドインターコンチネンタルホテル/ (株)ニューライフオリジナル/ (株)丸運/藍澤證券(株)/長野県警察本部/ (株)JALグランドサービス/ (株)IDOM/ (株)ファーストリテイリング/ANAテレマート(株)/日本交通(株)/ (株)小田急リゾート/日通旅行(株)/富士ソフト株式会社/ (株)東急百貨店/ (株)星野リゾート・マネジメント/ 鉄建建設(株)/株式会社 日立情報通信エンジニアリング/ (株)大塚商会/ (株)セラク/タベストリー・ジャパン合同会社/公立学校教員

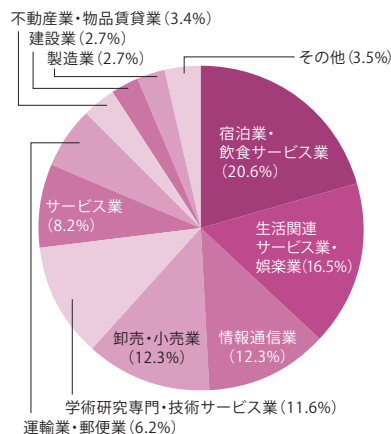
【産業別就業者の割合】

※一時的な仕事に就いた者を除く。

【国際理解学科】



【国際観光学科】

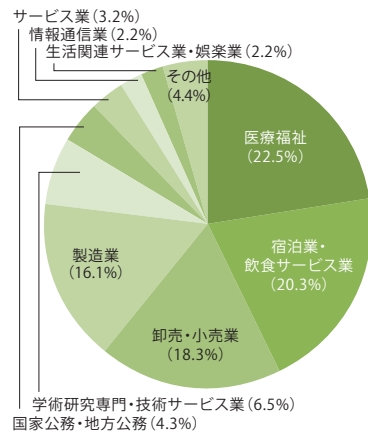


健康栄養学部

(株) サンドラッグ / (株) クリエイトエス・ディー / ウエルシア薬局 (株) /
 (株) グリーンハウス / 日清医療食品 (株) / プライムデリカ (株) / (株) メフォス /
 タリーズコーヒージャパン (株) / 雪印メグミルク (株) / 日研フード (株) /
 マルトモ (株) / (株) ファンデリー / (株) 武蔵野 / エームサービス (株) /
 ジャルロイヤルケータリング (株) / (株) JPホールディングス / 富士産業 (株) /
 (医) 社団法人気会 横浜病院 / 相模屋食料 (株) / 西洋フード・コンパスグループ (株) /
 トオカツフーズ (株) / (株) 富士薬品 / (株) LEOC / (株) こどもの森 /
 (株) 日本保育サービス / 藤沢市民病院 / 国立大学法人筑波大学附属病院 /
 茨城県庁 / 久喜市役所 / 八王子市役所

【産業別就業者の割合】 ※一時的な仕事に就いた者を除く。

【管理栄養学科】

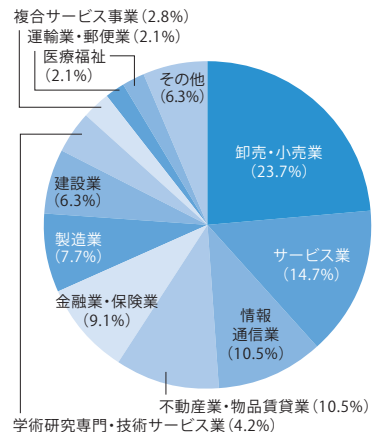


経営学部

(株) 八十二銀行 / リコージャパン (株) / (株) 神奈川銀行 / 野村證券 (株) /
 日本郵便 (株) / 藍澤證券 (株) / 水戸証券 (株) / 一般社団法人日本電気協会 /
 ウシオ電機 (株) / 西尾レントオール (株) / (株) ベイシア / (株) シーボン /
 (株) シジシージャパン / 大陽日酸ガス&ウェルディング (株) / SGシステム (株) /
 関東いすゞ自動車 (株) / (株) ケン・コーポレーション / 神奈川中央交通 (株) /
 ホシザキ湘南 (株) / (株) ディーエムエス / 伊藤忠アーバンコミュニティ (株) /
 富士ソフト株式会社 / (株) 日立情報制御ソリューションズ / 日新火災海上保険 (株) /
 オリヒロモアゼリア (株) / TOKYOフレッシュ (株) / (株) 横浜中央経理 /
 鎌倉市役所 / 藤沢市役所 / 公立学校教員

【産業別就業者の割合】 ※一時的な仕事に就いた者を除く。

【経営学科】



就職者数及び卒業後の進路

文教大学大学院・専攻科

大学院・専攻科		大学院研究科	大学学部	短期大学本科	専攻科	別科	就職者	専修学校 外国の学校	進学準備中	就職準備中	その他	不詳	計
教育学研究科	学校教育専攻	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
人間科学研究科	臨床心理学専攻 (博士(後期)課程)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	臨床心理学専攻 (修士課程)	0	0	0	0	0	16	0	0	1	0	0	17
	人間科学専攻 (修士課程)	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
言語文化研究科	言語文化専攻 (博士(後期)課程)	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
	言語文化専攻 (修士課程)	0	0	0	0	0	6	0	0	4	1	0	11
情報学研究科	情報学専攻	0	0	0	0	0	6	0	0	0	1	0	7
国際学研究科	国際学専攻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
教育専攻科	教育学専攻	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2

主な就職先

越谷市役所／群馬県庁／埼玉県教育局／千葉県教育庁／(株)JCU／(学)獨協学園 獨協医科大学越谷病院／パーソルワークスデザイン(株)／ナビオコンピュータ(株)／東和電気(株)／(医)社団ふけ会 富家千葉病院／ユニシステム(株)／日本アドバンス・テクノロジー(株)／アイユージー(株)／ANAシステムズ(株)／デジタルプロセス(株)／海外の公立学校／栃木県庁／千葉県教育庁／三郷市役所／目黒区役所／船橋市教育委員会／日本大学医学部附属板橋病院

就職者数及び卒業後の進路

外国人留学生別科

外国人留学生別科	就職者	進学者	その他	不詳	計
	0	17	5	0	22

[4] 教育課程に関する情報

教育学部 学校教育課程 (2019年度入学生履修科目)

教育科目	共通教育科目	日本国憲法 宗教学 哲学 倫理学 文学 歴史学 論理学	音楽 美術 心理学 言語学 法学 政治学 経済学	社会学 文化人類学 地理学 教育学 国際学 科学思想史 数学	物理学 化学 生態学 生物学 生理学 宇宙地球科学 総合講座 I~X	情報基礎 情報活用 情報A~E	
	体育科目・外国語科目	英語 I~IV ドイツ語 I~IV トピックで学ぶ英語A~D	フランス語 I~IV 中国語 I~IV	コリア語 I~IV 運動と健康 I~II	スポーツと人間 I~II スポーツ/レクリエーション I~II		
学部共通科目	基礎演習 国際理解教育 心身障害学入門 生涯学習論(ボランティア論を含む)	人権教育 コミュニティ教育 教育課題演習 外国語活動の研究	異文化理解教育 鑑賞教育 語りの技法 ピア/基礎技能演習	海外教育研修 教育フィールド研究 総合学習の研究 ICT活用演習	卒業研究		
専門教育科目	初等教育科目	教科概説「国語(書写を含む)」 教科概説「社会」 教科概説「数学」 教科概説「理科」 教科概説「音楽」	教科概説「美術」 教科概説「体育」 教科概説「家庭」 教科概説「生活」 教科概説「英語」	国語科教育 I~II 社会科教育 I~II 算数科教育 I~II 理科教育 I~II 音楽科教育 I~II	図画工作科教育 I~II 体育科教育 I~II 家庭科教育 I~II 生活科教育 I~II 英語教育 I~II		
	教職科目	教職概論 教育原理 教育心理学 道德教育の理論と方法 生徒指導・進路指導 特別活動 教育相談の理論と方法 初等教育実地研究	中等教育実地研究 初等教育実習 中等教育実習 I 教職実践演習(小・中・高) 教育社会学 学校教育と家庭・地域社会 教育制度(比較教育を含む) 教育行財政(教育法規を含む)	学級経営 教育社会学特講 学級経営の歴史 比較・国際教育学特講 教育と情報 I~II 教育方法の理論と実践 教育評価 教育の歴史	教育哲学 児童心理学 青年心理学 学習心理学 学級集団心理学 生徒指導の研究(進路指導を含む) 進路指導の研究 国際理解教育の研究	教育学特講 教授・学習過程論 道德教育実践論 教育課程論 教育方法論 特別支援教育入門 総合的な学習の時間の指導法	
	自由科目	特別支援教育 I~II 知的障害・重複障害児の心理と行動 障害児の心理と発達	精神医学 I~II 教育心理学特講 知的障害・発達障害児の心理臨床	発達障害児の心理臨床 肢体不自由児の生理と病理 中等教育実習 II	学校経営と学校図書館* 学校図書館メディアの構成* 学習指導と学校図書館*	読書と豊かな人間性* 情報メディアの活用*	

*の科目は学校図書館司書教諭課程登録者のみ履修可能

専門教育科目(中等教育) ※1~4年次

国語専修	日本語学概論 日本文学概論 漢文学概論	日本語学演習 I~II 日本文学演習 I~IV 日本文学史 I~II	書写 I~II 教科教育法「国語」 I~IV 漢文学概論	日本語学講義 I~II 日本文学講義 I~II 漢文学演習 I~II	書写・書道研究
社会専修	日本史概説 世界史概説 地理学概説 地誌学 国際関係史	政治学 経済学 倫理学 教科教育法「社会・地歴」 I~IV 日本経済史	日本文化史 日本政治史 人文地理学 法律学 社会学	哲学 日本史演習 I~II 日本史特別演習 外国史演習 I~II 外国史特別演習	地理学演習 I~II 地理学特別演習
数学専修	数論 幾何学 I~III 解析学 I~III 数学基礎	コンピュータ I~II 統計学 数学研究 数学教育特論	教科教育法「数学」 I~IV 線形代数 幾何学演習 代数学	代数学演習 解析学演習 代数学特論 幾何学特論	解析学特論 確率論 学校数学特論
理科専修	物理学概論 物理学 I~III 物理学実験基礎 物理学実験A・B	化学概論 化学 I~III 化学実験基礎 化学実験A・B	生物学概論 生物学 I~II 生物学実験基礎 生物学実験A・B	地学概論 地学 I~IV 地学実験基礎 地学実験A・B	教科教育法「理科」 I~IV
音楽専修	ソルフェージュ I~III 声楽 I~VI ピアノ I~VI アンサンブルスタディ I~VI	音楽理論 I~II 作曲 I~II(編曲法を含む) 作曲 III アンサンブル音楽史	合唱 I~IV 日本伝統音楽演習 I~II 音楽史総合 (日本の伝統・諸民族の音楽を含む)	指揮法 I~II ピアノ伴奏法 教科教育法「音楽」 I~IV 声楽作品研究 I~II	ピアノ/作品研究 I~II 作曲法研究 I~II
美術専修	絵画 I~V 彫刻 I~VI デザイン I~V 工芸 I~III	美術理論基礎 版画概論 美術史 I~II 教科教育法「美術」 I~IV	デジタル表現 造形材料と加工 美術理論 造形心理学	版画 総合造形 クラフトデザイン 工芸表現	美術文化特別実習
体育専修	器械体操 I~II 陸上競技 I~II 体育原理 体育運動学 衛生学(公衆衛生学を含む)	水泳 表現運動・ダンスA・B 運動生理学 体育学特論 学校保健	教科教育法「保健体育」 I~IV 球技A~E 球技 武選 体育史	冬季スポーツ 体育心理学 野外活動 体づくり運動 体育社会学	体育学研究法 体育経営管理 運動生理学演習
家庭専修	家庭経営学 食物学 I~II 被服学 住居学(住居設計・製図を含む) 調理実習 I~III 栄養学 I~II	被服学実習 I~II 保育学 家庭電気・機械 教科教育法「家庭」 I~IV 生活デザイン論 生活情報論	食生活論 家庭経済学 家族関係学 消費社会学 生活環境論 住生活論	生活福祉論 家庭経済学 生活文化論 衣生活実験 情報処理 家庭経営学演習	家庭教育演習 食物学実験 被服学演習 家庭看護学
英語専修	Communicative English I~IV 英語ライティング演習 I~IV 英語発音演習	異文化理解概論 英語学概論 英語文化概論	教科教育法「英語」 I~IV 英語リーディング I~II 英米文化演習 I~II	英語学演習 I~II 英語文学演習 I~II	
特別支援教育専修	障害児教育総論 知的障害・重複障害児の心理と行動 障害児の心理と発達 病弱児・知的障害児の生理と病理 知的障害児の行動理解 肢体不自由児の生理と病理	知的障害・発達障害児の心理臨床 視覚障害児の指導 発達障害児の心理臨床 障害児教育方法 病弱・重複障害児の心理と指導	肢体不自由児の心理と指導 聴覚障害児の指導 障害児教育実地研究 障害児教育実習 精神医学 I~II	障害児支援概論 障害児教育の歴史 小児保健学 障害児教育思想史 行動科学基礎論	障害児福祉学 I~II 心理検査法 障害児教育社会学 障害児教育学演習 障害児の個別指導計画

教育学部 心理教育課程 (2019年度入学生履修科目)

教養科目	共通教養科目	日本国憲法 宗教学 哲学 倫理学 文学 歴史学 論理学	音楽 美術 心理学 言語学 法律学 政治学 経済学	社会学 文化人類学 地理学 教育学 国際学 科学思想史 数学	物理学 化学 生態学 生物学 生理学 宇宙地球科学 総合講座Ⅰ～Ⅹ	情報基礎 情報活用 情報A～E
	体育科目 外国語科目	英語Ⅰ～Ⅳ ドイツ語Ⅰ～Ⅳ トピックで学ぶ英語A～D	フランス語Ⅰ～Ⅳ 中国語Ⅰ～Ⅳ	コリア語Ⅰ～Ⅳ 運動と健康Ⅰ・Ⅱ	スポーツと人間Ⅰ・Ⅱ スポーツ・レクリエーションⅠ・Ⅱ	
学部共通科目	基礎演習 国際理解教育 心身障害学入門 生涯学習論(ボランティア論を含む)	人権教育 コミュニティ教育 教育課題演習 外国語活動の研究	異文化理解教育 鑑賞教育 語りの技法 ピアノ基礎技能演習	海外教育研修 教育フィールド研究 総合学習の研究 ICT活用演習	卒業研究	
	必修科目	心理学概論 教育心理学概論 教育原理	社会福祉概論 心理統計学	カウンセリング 保育原理 乳幼児心理学Ⅰ	児童家庭福祉 専門演習	
専門教育科目	児童心理教育コース 幼児心理教育コース	教職概論 家庭と教育 児童教育史 音楽Ⅰ・Ⅱ 教育実践論 臨床心理学Ⅰ・Ⅱ 生涯学習支援論 学校教育論 教育方法の理論と実践 教育課程概論 教育社会学 カウンセリング演習 心理学基礎実験 教育思想史	国語 算数 生活 図画工作Ⅰ・Ⅱ 体育Ⅰ・Ⅱ 器楽表現基礎Ⅰ・Ⅱ 地域福祉マネジメント 情報処理 教育と情報Ⅰ・Ⅱ 児童心理学 社会心理学 学習心理学 子ども集団心理学 子ども教育連携論	学習指導論 教育メディア論 児童文化論 心理アセスメント実習Ⅰ・Ⅱ 教育心理学研究法 デジタル教材論 保育内容A～C 歌唱表現基礎 器楽伴奏法Ⅰ・Ⅱ パフォーマンスA(音楽表現指導法) パフォーマンスB(美術表現指導法) パフォーマンスC(身体表現指導法) パフォーマンスC(身体表現指導法) 心理療法	教育実践研究 カウンセリング発展演習 認知心理学 キャリア教育論 青年心理学 保育・教職実践演習(幼・小) 文献講読 子どもの保健Ⅰ・Ⅱ 保育課程論 相談援助 保育者論 社会的養護 子どもの保健演習 教育相談の理論と方法(幼児理解を含む)	家庭支援論 子どもの食と栄養 社会的養護内容 保育相談支援 障害児保育 乳児保育Ⅰ・Ⅱ 保育実践研究 乳幼児心理学Ⅱ
	み履修可 幼稚園免許登録者のみ履修可	幼稚園教育実地研究 幼稚園教育実習	幼児心理教育コース 保育実地研究Ⅰ・Ⅱ 保育実習Ⅰ・Ⅱ 保育実習Ⅲ施設実習			



人間科学部 (2019年度入学生履修科目)

教養科目	共通教養科目	宗教学 哲学 倫理学 文学 歴史学 論理学 音楽	美術 心理学 言語学 法律学 政治学 経済学 日本国書法	社会学 文化人類学 地理学 教育学 国際学 科学思想史 数学	物理学 化学 生態学 生物学 生理学 宇宙地球科学 総合講座Ⅰ～Ⅹ	情報基礎 情報活用 情報A～E
	外国語・体育科目	英語Ⅰ～Ⅳ フランス語Ⅰ～Ⅳ トピックで学ぶ英語A～D	ドイツ語Ⅰ～Ⅳ 中国語Ⅰ～Ⅳ	ロシア語Ⅰ～Ⅳ 運動と健康Ⅰ・Ⅱ	スポーツと人間Ⅰ・Ⅱ スポーツ・レクリエーションⅠ・Ⅱ	
学部教養科目	人間科学の基礎 キャリアライフ論	生命科学 基礎統計学	死生学 国際社会学論			
学部共通専門科目	心理学概論 社会学概論	社会福祉学概論 教育学概論	臨床心理学概論 人間科学演習Ⅰ・Ⅱ	卒業研究		

人間科学科

専門教育科目	学科共通	人間科学概説 人間科学基礎演習Ⅰ・Ⅱ 人間発達論 生涯学習概論 現代文化論 ジェンダー論 地域とグローバルコミュニティN 人間生活の歴史と福祉 児童家庭福祉論 児童福祉実践論 ウェルネスライフ論 スポーツ文化論 遊びと人間 手話コミュニケーション コミュニケーションスポーツ 情報社会論 臨床社会学 現代環境論	教育社会学N 現代社会と社会教育 社会教育計画Ⅰ・Ⅱ 社会教育施設論 社会教育の方法 国際教育論 児童家庭福祉実践論 ケアマネジメント論 障害者福祉実践論 国際ソーシャルワーク論 医学知識 精神医学Ⅰ・Ⅱ 精神保健学Ⅱ 精神リハビリテーション学 相談援助実習指導Ⅰ～Ⅲ 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ～Ⅲ 社会心理学N	青年心理学N 教育心理学N 発達臨床心理学N 学校臨床心理学N 教育評価N 実存の人間論N 人間科学特講 海外人間科学研修N 経済学Ⅰ・Ⅱ(国際経済学を含む)N 法学Ⅰ・Ⅱ(国際法を含む)N ソーシャルワーク実践理論 コミュニケーション演習 就労支援サービス 更生保護制度 精神保健福祉援助技術総論 精神障害者の生活支援システム 多変量解析入門	教育環境学 社会教育実習 社会教育課題研究 社会保障論Ⅱ ケースワーク演習 ケーススタディ演習 精神保健福祉援助演習Ⅰ・Ⅱ 精神保健福祉援助技術各論 精神保健福祉制度論 相談援助実習Ⅰ・Ⅱ 精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ 行政学N 行政法N 政治学Ⅰ・Ⅱ(国際政治学を含む)N 教育行政学N 教育相談の理論と方法N 哲学N	倫理学N 社会福祉行政論 社会福祉運営管理論 権利擁護と成年後見制度 グループワーク演習 コミュニケーションワーク演習 西洋史N 地理学N 東洋史N 日本史N 地誌学N
	社会文化コース	現代社会論N 社会調査法Ⅰ・Ⅱ 現代家族論N	サブカルチャー論 映像文化論N 逸脱行動論N	文化人類学 現代マスコミ論 現代社会と階層N	グローバル文化論 労働と人間 社会調査実習Ⅰ・Ⅱ	メディア文化論 市民社会論 日本文化論N
	人間教育コース	子ども・若者活動支援論 人間教育実践論 家庭教育論 現代学校教育論N	生徒指導・進路指導N 社会教育の基礎 ボランティア論N コミュニティイベント論	子ども・遊び・自然 社会調査法Ⅰ スクール・ソーシャルワーク論 身体運動の理論と実際	子ども文化論 生きがい論 レクリエーション指導 スポーツライフの理論と実践	教育・スポーツ調査法 地方行政の運営と方法
	社会福祉コース	社会福祉学原論 ソーシャルワーク論 老人福祉論 障害者福祉論	貧困と公的扶助 介護概論 精神保健学Ⅰ 社会福祉援助技術総論	医療福祉論 スクール・ソーシャルワーク論 地域福祉論 精神保健福祉論	福祉カウンセリング ケースワーク・グループワーク論 コミュニティワーク論 社会保障論Ⅰ	
	スポーツ・コミュニティコース	コミュニティスポーツ論 地方行政の運営と方法 スポーツ心理学N スポーツカウンセリングN	現代社会と健康問題 子ども・遊び・自然 コミュニティと社会教育 コミュニティイベント論	社会教育の基礎 ボランティア論N 障害者スポーツ論 身体運動の理論と実際	社会調査法Ⅰ レクリエーション指導 スポーツライフの理論と実践 教育・スポーツ調査法	スポーツ観戦論 介護予防の理論と実践

臨床心理学科

専門教育科目	臨床心理学文献購読Ⅰ～Ⅲ 心理学実験 臨床心理面接・検査演習 心理学研究法 感情・人格心理学 知覚・認知心理学 発達心理学 学習・言語心理学 神経・生理心理学 公認心理師の職業 教育心理学R 心理調査法R 障害者・障害児心理学 家族心理学R 人間性心理学	実存の人間論R イメージ心理学 異常心理学 発達臨床心理学R 学校臨床心理学R 青年期の臨床心理 福祉心理学 犯罪被害者の心理 臨床心理とキャリア 教育評価R 心理学的支援法 教育・学校心理学 産業・組織心理学 人体の構造と機能及び疾病 心理統計法 心理的アセスメント	家族療法 精神分析 音楽療法 分析心理学 司法・犯罪心理学 健康・医療心理学 認知行動療法 子どもの心理療法 コミュニティ心理学R グループアプローチR 教育相談の理論と方法R 産業カウンセリングR 臨床心理学特講 関係行政論 心理演習 精神疾患とその治療	臨床心理学総論 芸術療法 心理実習 現代社会論R 現代学校教育論R 教育社会学R 現代家族論R 逸脱行動論R 地域とグローバルコミュニティR ボランティア論R ソーシャルワーク論R 経済学Ⅰ・Ⅱ(国際経済学を含む)R 法学Ⅰ・Ⅱ(国際法を含む)R 政治学Ⅰ・Ⅱ(国際政治学を含む)R 生徒指導・進路指導R 海外人間科学研修R	教育行政学R 日本文化論R 現代社会と階層R 労働と人間R 行政学R 行政法R 哲学R 倫理学R 西洋史R 地理学R 東洋史R 日本史R 地誌学R
	心理学コース	心理学実験法 実験心理学	心理測定論 心理学近現代史	感情心理学(感情・人格心理学Ⅱ) 知覚心理学(知覚・認知心理学Ⅱ)	生涯発達心理学 神経心理学(神経・生理心理学Ⅱ)
健康心理学コース	健康心理アセスメント 福祉心理学	健康心理カウンセリング 健康教育指導法	教育・学校心理学 健康・医療心理学	心理演習 心理実習Ⅰ・Ⅱ	生命倫理と法
ビジネス心理学コース	産業・組織心理学 消費行動心理学	ビジネス心理学 ビジネス心理学実習	ビジネスコーチング心理学 産業カウンセリングS	ビジネスと法 ビジネスコミュニケーション技術論	

心理学科

専門教育科目	学科共通	心理学研究法 心理統計法Ⅰ・Ⅱ 心理学実験Ⅰ・Ⅱ 心理学的支援法 健康心理学概論 生理心理学(神経・生理心理学Ⅰ) 人格心理学(感情・人格心理学Ⅰ) 社会心理学(社会・集団・家族心理学Ⅰ) 学習心理学(学習・言語心理学Ⅰ)	認知心理学(知覚・認知心理学Ⅰ) 発達心理学 公認心理師の職業 心理調査法S ストレスマネジメント スポーツ心理学S 家族心理学(社会・集団・家族心理学Ⅱ) 市場調査論 キャリア発達心理学	対人関係の心理学 青年心理学S スポーツカウンセリングS 言語心理学(学習・言語心理学Ⅱ) 障害者・障害児心理学 心理的アセスメント キャリア開発実習 福祉カウンセリングS 司法・犯罪心理学	文献購読 海外人間科学研修S 人体の構造と機能及び疾病 精神疾患とその治療Ⅰ・Ⅱ 精神保健学Ⅰ・ⅡS 医療福祉論S 法学Ⅰ・Ⅱ(国際法を含む)S 経済学Ⅰ・Ⅱ(国際経済学を含む)S 政治学Ⅰ・Ⅱ(国際政治学を含む)S	哲学S 倫理学S 行政学S 行政法S 現代社会と階層S 日本文化論S 関係行政論
	心理学コース	心理学実験法 実験心理学	心理測定論 心理学近現代史	感情心理学(感情・人格心理学Ⅱ) 知覚心理学(知覚・認知心理学Ⅱ)	生涯発達心理学 神経心理学(神経・生理心理学Ⅱ)	
	健康心理学コース	健康心理アセスメント 福祉心理学	健康心理カウンセリング 健康教育指導法	教育・学校心理学 健康・医療心理学	心理演習 心理実習Ⅰ・Ⅱ	生命倫理と法
	ビジネス心理学コース	産業・組織心理学 消費行動心理学	ビジネス心理学 ビジネス心理学実習	ビジネスコーチング心理学 産業カウンセリングS	ビジネスと法 ビジネスコミュニケーション技術論	

文学部 (2019年度入学生履修科目)

教育科目 共通教育科目 外国語科目 体育科目	宗教学 哲学 倫理学 文学 歴史学 論理学 音楽	美術 心理学 言語学 法学 政治学 経済学 日本国憲法	社会学 文化人類学 地理学 教育学 国際学 科学思想史 数学	物理学 化学 生態学 生物学 生理学 宇宙地球科学 総合講座 I～X	情報基礎 情報活用 情報A～E
	英語 I～IV *2 フランス語 I～IV ドイツ語 I～IV コリア語 I～IV 日本語 I～IV *1 中国語 I～IV *3	トピックで学ぶ英語A～D フランス語で学ぶフランス語A～C トピックで学ぶドイツ語A～C トピックで学ぶ中国語A～C トピックで学ぶロシア語A～C	フランス語で学ぶフランス語 I～III ドイツ語で学ぶドイツ語 I～III 中国語で学ぶ中国語 I～III コリア語で学ぶロシア語 I～III 日本語 V(1)(2) *1	運動と健康 I・II スポーツと人間 I・II スポーツ・レクリエーション I・II	

*1) 留学生・帰国生のみ履修可 *2) 日本語日本文学、中国語中国文学のみ履修可 *3) 日本語日本文学、英米語英米文学、外国語学科のみ履修可

専門教育科目 学部共通 日本語日本文学 英米語英米文学 中国語中国文学 外国語学科	多文化理解概論 多文化理解演習 I・II アジア文化研究 I・II ヨーロッパ文化研究 I・II 比較文化論 アジア事情 I・II ヨーロッパ事情 I・II 英米事情 I・II 現代文化論 国際関係論 I・II	国際教育論 言語学概論 アジアの言語 I・II ヨーロッパの言語 I・II 言語と文化 I・II 言語と社会 I・II 対照言語学 I・II 記号と意味 言語系総合講座 言語と心理 I・II	文学概論 映画論 児童文学 I・II 文学と宗教 演劇論 I・II 比較文学 I・II 社会と文学 I・II ヨーロッパの文学 I・II キャリアデザイン論 キャリアリテラシー I～IV	日本語の技能総合演習 I・II 情報処理と言語 情報処理と文化 編集出版の基礎 編集出版の展開 日本語教育学 I～V 日本語教育概論 I・II 日本語教育法 I～III 日本語教育教材研究 I・II 日本語教育事情	音声教育法 文章教育法 日本語教育特講 I・II 日本語教育実習 I～III 日本語教育実習 IV-(1)(2) 外国語実地演習 I～VII
	研究基礎演習 I・II 日本語学基礎演習 I・II 日本古典文学基礎講義 I・II 日本近代文学演習 I・II 日本文化研究 日本語学概論 I・II 日本近代文学批評と理論	日本近代文学史講義 日本古典文学演習 I・II 漢文学概論(N) 卒業研究 I-(1),(2) 卒業研究 II-(1),(2) 日本語学演習 I・II-(1),(2) 日本語学講義 I・II-(1),(2)	日本文学講義 I～IV-(1),(2) 日本文学講義と創作 I・II 日本文学史 I・II-(1),(2) 漢文学講義 I・II(N) 国語科教育学 I・II 日本語史 I・II 日本語学特講 I・II	日本文学演習 I・II-(1),(2) 日本文学特講 I～IV 漢文学演習 I・II 日本の言語と文化 I・II 書道実技 I・II 外国語実地研修 I～V 書道 I～III-(1),(2)	書写・書道教育研究 I・II 書道史 I・II 書論・鑑賞
	英語研究基礎演習 I・II Communicative English I・II(E) Reading I～IV 英語音声学 英語演習 I～IV 英語文法実習 Academic Writing 卒業研究 I・II-(1),(2) 英語教育入門	英米文化入門 Overseas Study Preparation Seminar I～III 英語教育学 I・II 応用英語学 I～III 英語教育特論 応用英語学特講 I・II 英米文化 I・II(E) 英米文化演習 I・II	英米文化特論 英米文化特講 I・II(E) 英米文化特殊研究 I・II 英米文学 I・II 英米文学講義 I・II 英米文学特講 I～III 英米文学特殊研究 I・II 英語学 I・II 英語学演習 I・II	英文法論 英語学特講 意味論 音韻論 外国語技能資格A・B 英米語実地研修 I～V	
	中国語文法・講義 I～IV 中国語会話・作文 I～IV 研究基礎演習 中国古典基礎演習 中国歴史・地理基礎 I・II 中国学概論 卒業研究 I・II-(1),(2) 中国語文演習 中国語学概論 I・II	中国語学講義 I～IV 中国語学演習 I～IV 中国語翻訳・通訳基礎 I・II 中国語ビジネス基礎 I・II 中国語学研究 I～IV 中国語総合研究 I(翻訳・通訳) 中国語総合研究 II(ビジネス) 中国語総合研究 III(プレゼンテーション) 中国古典学概論 I・II	中国古典学講義 I～IV 中国古典学演習 I～VII 文言文演習 I～V 中国現代社会論概論 中国現代社会論講義 I～III 中国現代文化論概論 中国現代文化論講義 I～III 中国現代文化論演習 I～V	中国地域研究 I～IV 中国語コミュニケーション I～IV 中国語演習 I(リーディング) 中国語演習 II(ライティング) 中国語演習 III(検定試験初級支援 I) 中国語演習 IV(検定試験初級支援 II) 中国語演習 V(検定試験中級支援 I) 中国語演習 VI(検定試験中級支援 II) 漢文学概論(C)	漢文学講義 I・II(C) 中国研究特講 I・II 中国語実地研修 I～VII 中国社会学実地研究 I・II 外国語技能資格A～D 中国語科教育学
	Introduction to Global Studies Study Abroad Preparation 研究基礎演習 I・II Oral Communication I・II eLearning I～III Pronunciation Clinic 英語ライティング演習 言語コミュニケーション基礎論 Presentation & Debate English for Academic Purposes Reading I～IV	English for Specific Purposes I～III Pro-Seminar Problem-solving Workshop Seminar I・II-(1),(2) English for International Communication A・B World Englishes World History Business Communication Global Issues and Current Events Issues in ICT Special Topics in Global Studies A・B	Communicative English I・II(G) 英米文化 I・II(G) Workshop for Project A～D Tour Guide English Translation for Business North America Studies I・II 英米文化特講 I・II(G) Special Topics in Career English 異文化コミュニケーション論 多文化共生論 東アジア文化論	ヨーロッパ文化論 東アジア共生論 国際人権論 日欧交流史 東アジア交流史 Asian Studies I・II European Studies I・II Gender Studies Environmental Issues Special Topics in Area Studies 日本文化基礎 I・II	Japanese Culture and Tradition 日本語教育実践 I・II Current Issues in Japanese Society インターンシップ 外国語技能資格A～D Creative Writing Academic Writing 海外実地研修 I～VI

情報学部 (2019年度入学生履修科目)

共通教育科目	I	哲学 倫理学 日本国憲法* 音楽 文学 美術 人間関係論 心理学 スポーツ科学 スポーツ・健康演習*	II	社会学入門 経営学入門 経済学入門 法学入門 宗教学入門 情報倫理とモラル 数学入門 技術と人間 生命科学 現代社会のエネルギー論	外国語科目	英語 I (必修)	英語 I A・I B	学部共通科目	選択必修 デザイン論 サブカルチャー論 メディアリテラシー 情報と社会 情報通信ネットワーク 情報処理概論 情報学序論 社会システムモデリング 現代社会と著作権
	英語 II (必修)	英語 II A・II B		英語 III (選択)		情報英語A~D	日本語必修		

*) 教職課程必修科目

*) 外国人留学生及び帰国生

情報システム学科

専門教育科目	必修	基礎演習A・B* 文庫演習*	基礎プログラミング プロジェクト演習A~E	ゼミナール I・II 卒業研究 I・II		
	システム開発領域科目	オフィスソフトウェア入門 ビジュアル数学 データベース アルゴリズムとデータ構造 データと統計的見方 マクロプログラミング 線形代数学 微分積分 デバッグ入門	オブジェクト指向プログラミング Webプログラミング* システム分析* インターネット こどもとメディア 情報システムとインタラクション データベース応用* 情報数学序論 数と図形の世界	ハードウェア* ゲームプログラミング 組み込み機器(IoT)プログラミング 医療情報システム オープンソースソフトウェア オペレーティングシステム 行政情報システム データマイニング グラフと組合せ論	確率論 記号論理 代数学 システム設計* プロジェクトマネジメント* クラウドサービス開発演習 スマートフォン・アプリケーション制作 Webマイニング システム開発事例研究	Webプログラミング応用 テキストマイニング ネットワーク運用管理 ネットラジショナルデザイン 解析学概論 幾何学 IoTとセキュリティ 機械学習 ソフトウェアの構成とテスト*
	情報デザイン領域科目	Webページ制作 デジタルクリエイション 作曲法 デジタルデザイン ゲーム企画論 社会情報論 情報社会と法* 情報セキュリティ* コンテンツプランニング	コンピュータ・グラフィックス概論 デザイン史と色彩論 ゲームクリエイション デジタルコミック制作 コンテンツの世界観構築 コンピュータ・グラフィックス制作 画像処理 ライトノベルの創作と編集 電子出版とクロスメディア	空間デザイン~建築とインテリア ゲームエンジン ヒューマンインタフェース 映像・アニメーション表現 Webデザイン エディトリアルデザイン サウンドデザイン コンテンツマーケティング キャラクターモデリング	こどものためのコンテンツデザイン マンガ表現* アニメーション文化論* 認知科学 サウンドエフェクトデザイン フィジカルコンピューティング 社会と教育 地理情報システム 拡張現実	メディアコンテンツプログラミング UXデザイン ウェアラブルコンピューティング アニメーション制作 メディア・デザイン論* ファッション・インテリア研究*
	選択科目	情報システム特論A~D	海外研修A・B*	ベトナムの言語・文化・産業*	インターンシップ*	キャリア研究B

情報社会学科

専門教育科目	必修	情報社会と法* データベース入門 データ分析総合演習	情報処理実践演習A・B 文章演習* 基礎演習A・B*	人間愛と情報社会 総合演習A・C 情報技術総合演習	アルゴリズムとデータ構造入門 ハードウェア* コミュニケーション戦略	プロジェクトマネジメント* ゼミナール I・II 卒業研究 I・II
	戦略領域科目	社会心理学 統計学入門 情報社会における計量社会学入門 国際ビジネス環境の理解 ビジネスデータ処理演習	情報社会における問題の発見と解決 図書館情報資源概論 調査集計法A・B マーケティング マーケティング・リサーチ	情報社会の分析と理解 情報資源組織論 コミュニケーション戦略特講A・B 情報資源組織演習 情報社会のリテラシー	情報社会のビジネスモデル 情報社会のサービス企画 マーケティング・リサーチ演習 現代社会の消費者行動 社会調査演習 I・II	ビッグデータ解析の社会への応用 データモデリング データマイニング ビジネス発想法 情報と企業のイノベーション
	フロント領域科目	情報サービス産業の理解 人工知能入門 成功のプランニング 人工知能の社会への応用 Webプログラミング* オペレーションズ・リサーチ	インターネットと情報セキュリティ 企業活動と情報システム 図書館情報技術論 情報サービス論 データベース応用* システム分析*	プロジェクトマネジメント特講A・B プログラミング I・II 情報サービス演習 経営の分析と計画 システム設計* 知的財産法	情報化要求の分析とソリューションの提案 システム開発技法 情報システムの品質と信頼性 情報デザイン設計 経済性の科学 情報社会における都市計画	ソフトウェアの構成とテスト* ビジネス法 不確実性とリスクのマネジメント
	選択科目	ロジカルシンキング 海外研修A・B* 生涯学習論 図書館概論	図書館サービス概論 図書・図書館史 インタラクティブメディア概論* クリエイティブ演習*	図書館制度・経営論 プレゼンテーション技法 ベトナムの言語・文化・産業* 学外実習	キャリア研究C インターンシップ* 図書館サービス特論 情報処理実践演習C	児童サービス論 メディア・ビジネス論

メディア表現学科

専門教育科目	必修	社会学概論 文章演習 I (コミュニケーション)	文章演習 II (時事教養) 基礎演習A・B*	メディア社会学 プレゼミナールA~C	マス・コミュニケーション論 コミュニケーション・プランニング論	ゼミナール I・II 卒業研究 I・II
	副専攻	放送論 映像プロデュース論 出版論 広告概論	アニメーション制作B (CGアニメーション) 記号論 テレコマーシャル論 映像表現論	新聞論 広報・PR論 メディア効果論 コミュニケーションメディア論	映画史 アニメーション文化論 言語コミュニケーション論 ジャーナリズム史	パーソナルデータ倫理・法制 ユニバーサルデザイン論 ドキュメンタリー論 出版文化論 小説・評論演習
	メディア表現領域科目	テレビ企画構想演習 映画分析演習 情報表現デザイン コミュニケーション論基礎 コンピュータ基礎 コンピュータ概論 テレビ構成演習 映像技術演習 ラジオ制作演習 出版演習 広告表現 I・II マーケティング・コミュニケーション論 インタラクティブメディア概論* アニメーション制作A (アニメーション基礎)	クリエイティブ演習* 著作権ビジネス論 コンピュータ応用 映像表現 I・II 映像ポストアプロダクション演習 ショート・ムービー制作 ジャーナリズム論 インタビュー・取材演習 記事制作A・B 広告企画演習 コピーライティング SNS文化論 CG&ゲーム制作 (ゲーム企画) サウンドプロデュース	写真技法 演技・パフォーマンス演習 社会調査論 リサーチデータのリテラシー コンテンツ制作と心の科学 文庫講義 テレビ番組制作 (スタジオ) CM制作 ミュージックビデオ制作 広告産業論 マーケティング・リサーチ論 デジタルメディア論 モバイルコンテンツ論 Webデザイン	アニメーション制作C (アート表現) マンガ表現* 音声表現演習 サウンドデザイン (DTM音楽制作) コンテンツ発想法 メディア調査研究法A (量的調査研究の技法) メディア調査研究法B (多変量解析の技法) メディア調査研究法C (総合演習) 演出演習 ブランド論 商品・企画研究 イベント企画演習 社会調査の統計学 ファッション・インテリア研究*	情報学特講演習A~C インターネットビジネス論 ドキュメンタリー論 出版文化論 小説・評論演習 ソーシャル・メディア・コミュニケーション 情報メディア論 メディアの内容分析 メディア・デザイン論* 異文化コミュニケーション論
	選択科目	情報社会と法* 情報セキュリティ*	海外研修A・B* ベトナムの言語・文化・産業*	キャリア研究A ハードウェア	インターンシップ*	

*が印が付いている科目は、他学科の開講科目一覧表にも同一名称の科目がありますが、自学科の科目として履修できません。

国際学部 (2019年度入学生履修科目)

共通教育科目	I	キャリア形成基礎	哲学 倫理学 文化人類学 日本国憲法 論理学 音楽 文学 美術 芸術 人間関係論	社会学入門 経営学入門 経済学入門 法学入門 政治学入門 宗教学入門 情報社会論 情報倫理とモラル メディア論	言語科目	必修	CALL 101~104 EIC 101~104 EIC 201・301	日本語A~E*	基礎スキル科目	必修	コンピュータ基礎演習
	II	日本語表現基礎 数学基礎 自然科学基礎 近現代史基礎 地理学基礎	心理学 スポーツ科学 スポーツ・健康演習 総合科目A・B	数値思考の活かし方 技術と人間 生態系と人間 生命科学 現代社会のエネルギー論 現代社会のジェンダー論 現代社会の栄養論		選択・必修	日本語表現法Ⅰ・Ⅱ 日本語表記の常識	日本事情			
						選択・必修	CALL A~C EIC A~C ESP A~F ドイツ語Ⅰ~Ⅲ スペイン語Ⅰ~Ⅲ	フランス語Ⅰ~Ⅲ 中国語Ⅰ~Ⅲ ロシア語Ⅰ~Ⅲ 世界の言語 卒論演習*			

*) 外国人留学生

専門教育科目	必修	国際学入門			
	選択必修	I	II	III	IV
		地域研究A(ヨーロッパ) 地域研究B(中南米) 地域研究C(東アジア) 地域研究D(アフリカ) 地域研究E(アメリカ) 地域研究F(南アジア) 地域研究G(東南アジア) 地域研究H(オセアニア) 地域研究特論 海外研修A(アジア研修) 海外研修B(RM研修) 海外研修C(HM研修) ボランティア実地演習	現代日本の諸問題 日本の伝統文化 日本の政治経済 日本の地理と歴史 日本の企業と社会	キャリア形成A・B 社会人の基礎力演習 インターンシップ	国際学研究A~C

国際理解学科

専門教育科目	学科共通必修	国際理解論 新入生ゼミナール	基礎ゼミナール 専門ゼミナールⅠ~Ⅳ			
	学科選択必修	I	II	III	IV	
		国際理解とコミュニケーション (国際コミュニケーション論) 国際理解と政治(現代国際政治論)	国際理解と文化(異文化理解論) 国際理解と法(現代国際法)	国際理解と経済(現代世界経済論) 国際理解と環境(地球環境論)	応用演習 短期留学英語演習	
	国際コミュニケーション領域選択	ジェンダーと国際社会 英語コミュニケーション論 異文化理解演習 イスラム入門 キリスト教入門 キリスト教文化と社会	仏教・ヒンドゥ教入門 英語表現A・B 英語学概論 英語とメディア 環境コミュニケーション論 通訳入門	翻訳入門 英語音声学 英語文学A・B 西洋思想と国際社会 東洋思想と国際社会 社会言語学	比較文学 現代思想 国際化・情報化時代の社会学 交流文化論A・B 英語オーラル・コミュニケーション論 文化政策論	コミュニケーションのための英文法 日本ポップカルチャー論 インタープリテーションⅠ(理論) インタープリテーションⅡ(応用演習) 美術史 特殊講義A~C
	国際協力領域選択	日本経済論 国際機構論 NPO・ボランティアの理論 法と行政A(法治国家の理念と仕組み) 法と行政B(外国人と行政) 開発教育論 外国史A・B	地理学 日本史 ソーシャルビジネス論 金融論 国際人権法 紛争と国際協力 アジア太平洋経済論	国際金融論 市民の環境貢献 安全保障論 国際協力論 開発と国際協力 紛争と国際協力 憲法	資源と国際協力 環境と国際協力 観光と国際協力 平和学 開発経済学 国際化・情報化時代の社会学 環境経済学	国際環境法 農村社会開発論 現代中国論 統計調査の基礎 国際協力実地演習 特殊講義D~F

国際観光学科

専門教育科目	学科共通必修	国際観光論 新入生ゼミナール	基礎ゼミナール 専門ゼミナールⅠ~Ⅳ			
	学科選択必修	I	II	III	IV	
		国際観光とビジネス (ビジネス・マネジメント論) 国際観光とマーケティング (マーケティング論)	国際観光と起業(起業論) 国際観光と会計(財務・会計論)	国際観光とホスピタリティ (ホスピタリティ・マネジメント論) 国際観光とデザイン(観光デザイン論)	応用演習 短期留学英語演習	
	観光ビジネス領域選択	観光ビジネス論 観光サービス 観光マーケティング論 流通論 英語表現C プロジェクトマネジメント 金融論 消費社会学論	観光心理学 ビジネス倫理 トラベルビジネス論 旅行法規 トラベル実務 消費者行動論 広告論 産業組織論	ホスピタリティ人材開発 エアラインビジネス論 国際金融論 エアラインサービス論 統計調査の基礎 交通事業論 ホテル事業論 ホテルサービス論	ホテルレストラン会計 テーマパーク事業論 スポーツビジネス論 レジャー・スポーツ演習 ブライダルマネジメント 観光ビジネスの経済 観光企業の競争戦略 観光ビジネスプロジェクト演習Ⅰ(理論)	観光ビジネスプロジェクト演習Ⅱ (応用演習) 専門インターンシップ事前研修 専門インターンシップⅠ~Ⅳ 特殊講義G~I
	観光デザイン領域選択	NPO・ボランティアの理論 景観と風景のまちづくり 統計調査の基礎 英語表現C 地域開発とミュージアム 地域調査演習 観光と食文化	観光資源論 エコツーリズム論 観光社会学 地域のサステイナブル・デザイン論 インタープリテーションⅠ(理論) インタープリテーションⅡ(応用演習) 飲食店企画論	現代都市論 観光と国際協力 地域プロジェクト演習Ⅰ(理論) 地域プロジェクト演習Ⅱ(応用演習) 生涯学習論 博物館展示論 博物館教育論	博物館情報・メディア論 博物館資料保存論 交流文化論A・B 文化政策論 アート・マネジメント論 美術史 博物館実習	専門インターンシップ事前研修 専門インターンシップⅠ~Ⅳ 特殊講義J~L

健康栄養学部 (2019年度入学生履修科目)

<p>教養教育科目</p> <p>一般教養 音楽 文学 個人と社会 生活と広告 法学入門</p>	<p>経営学入門 消費者行動論 ヒトと動植物 生命倫理 日本国憲法</p>	<p>専門基礎 食生活論 基礎生物化学 生活と化学 栄養情報 統計学概論</p>	<p>外国語 英会話Ⅰ・Ⅱ 英語Ⅰ・Ⅱ 中国語Ⅰ・Ⅱ フランス語Ⅰ・Ⅱ ドイツ語Ⅰ・Ⅱ</p>	<p>体育・情報処理 スポーツ・健康実習A・B 情報処理A～C</p>
<p>専門教育科目</p> <p>ココロを育む科目 心理学概論 臨床心理学概論 人間関係論</p>	<p>健康心理学 発達心理学 コミュニケーション論</p>	<p>健康心理学 代替医療論 サプリメントと健康</p>	<p>心理アセスメント 臨床栄養学 栄養教育各論Ⅰ・Ⅱ 栄養教育論実習Ⅰ・Ⅱ 医療概論 臨床栄養学総論 臨床栄養学各論Ⅰ・Ⅱ 臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱ 公衆栄養学Ⅰ・Ⅱ 公衆栄養学実習 給食経営管理論Ⅰ・Ⅱ 給食経営管理実習 総合演習Ⅰ・Ⅱ 臨地実習Ⅰ～Ⅲ</p>	<p>英語コミュニケーション論 アロマテラピーと健康 アロマテラピーコーディネーター</p>
<p>カラダを育む科目 必修 健康管理概論 公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ 生化学Ⅰ・Ⅱ 生化学実験Ⅰ・Ⅱ 解剖生理学Ⅰ・Ⅱ 解剖生理学実験Ⅰ・Ⅱ 運動生理学 病理学 微生物学 食品学総論 食品学各論 食品学総論実験</p>	<p>食品学各論実験 食品衛生学 食品衛生学実験 調理学 調理学実習Ⅰ・Ⅱ 調理科学実験 基礎栄養学 基礎栄養学実験 応用栄養学Ⅰ・Ⅱ 応用栄養学実習 栄養アセスメント論 栄養教育総論</p>	<p>栄養教育各論Ⅰ・Ⅱ 栄養教育論実習Ⅰ・Ⅱ 医療概論 臨床栄養学総論 臨床栄養学各論Ⅰ・Ⅱ 臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱ 公衆栄養学Ⅰ・Ⅱ 公衆栄養学実習 給食経営管理論Ⅰ・Ⅱ 給食経営管理実習 総合演習Ⅰ・Ⅱ 臨地実習Ⅰ～Ⅲ</p>	<p>選択 総合演習Ⅲ 臨地実習Ⅳ</p>	<p>学校教育相談(カウンセリングを含む) 栄養教育実習</p>
<p>栄養学 a 学校栄養指導論Ⅰ・Ⅱ</p>	<p>b 教育課程論 生徒指導論</p>	<p>教職実践演習(栄養学) 教育方法の理論と実践</p>	<p>学校教育相談(カウンセリングを含む) 栄養教育実習</p>	
<p>健康栄養 c メニュー開発論 特定保健指導計画</p>	<p>d 無酸素性・有酸素性エクササイズの実験と実際 身体トレーニングのプログラムデザイン スポーツ栄養管理</p>	<p>e 食の安全性 食品開発論 バイオテクノロジー 食品の官能評価</p>	<p>食品の流通と消費 フードコーディネーター論 フードスペシャリスト論</p>	
<p>臨床栄養 f 栄養法別対応論 臨床栄養ケアプラン 臨床栄養指導 福祉栄養学実習Ⅲ</p>	<p>g 福祉システム論 小児栄養 食物アレルギーへの対応</p>	<p>高齢者栄養 介護学概論</p>	<p>栄養ケア・マネジメント論 福祉栄養学実習</p>	
<p>ゼミナール 健康栄養演習 卒業研究</p>				
<p>キャリアアップ キャリアアップ演習 教職科目</p>	<p>キャリアアップ演習A～F 教職概論*</p>	<p>教育原理*</p>	<p>教育心理学*</p>	<p>特別支援教育概論 道徳教育・特別活動*</p>
				<p>総合的な学習の時間の指導法*</p>

*教職科目に同じ

経営学部 (2019年度入学生履修科目)

<p>共通教育科目</p> <p>I キャリア形成基礎</p> <p>II 日本語表現基礎 数学基礎 自然科学基礎 近現代史基礎 地理学基礎</p>	<p>III 哲学 倫理学 文化人類学 日本国憲法 論理学 音楽 文学 美術 人間関係論 心理学 スポーツ科学 スポーツ・健康演習 総合科目A・B</p>	<p>IV 社会学入門 経営学入門 経済学入門 法学入門 政治学入門 宗教学入門 情報社会論 情報倫理とモラル メディア論 数値思考の活かし方 技術と人間 生態系と人間 生命科学 現代社会のエネルギー論 現代社会のジェンダー論 現代社会の栄養論</p>	<p>外国語科目</p> <p>必修 I 英語ⅠA・ⅠB II 英語ⅡA・ⅡB III 英語ⅢA・ⅢB 日本語A～E*</p> <p>選択必修 応用英語A～D</p> <p>選択 ドイツ語Ⅰ～Ⅲ フランス語Ⅰ～Ⅲ スペイン語Ⅰ～Ⅲ 中国語Ⅰ～Ⅲ ロシア語Ⅰ～Ⅲ</p>
--	---	--	--

*外国人留学生のみ

<p>必修</p>	<p>知へのナビゲーション アカデミック・リテラシー</p>	<p>社会人基礎力演習 知の探究</p>	<p>ゼミナールⅠ 人間と経営学</p>	<p>基礎簿記演習</p>
<p>選択必修Ⅰ</p>	<p>経営管理論 経営戦略論 経営組織論</p>	<p>人間尊重と経営 マーケティング 経済学の基礎</p>	<p>企業会計 公共経営入門 公共経済入門</p>	<p>ビジネスと法A</p>
<p>選択必修Ⅱ</p>	<p>データ処理Ⅰ</p>	<p>プレゼンテーション</p>	<p>統計の見方</p>	<p>問題解決技法入門</p>
<p>選択必修Ⅲ</p>	<p>ビジネスソリューション演習</p>	<p>キャリア開発研究</p>	<p>ゼミナールⅡ</p>	
<p>選択</p>	<p>企業倫理 組織デザイン論 環境と経営 国際地域論A(アジア) 国際地域論B(アメリカ) 国際地域論C(ヨーロッパ) 起業論 産業心理学 人的資源管理論 人材開発論 組織行動論 e-ビジネス ビジネスモデル設計演習 マーケティング戦略 消費者行動論 マーケティング・リサーチ マーケティング・リサーチ演習 マーケティング戦略事例研究 流通論 英語文献研究 中小企業経営論</p>	<p>キャリアコンサルティング 日本経済論 企業と市場の経済(ミクロ経済) 国と国の経済(マクロ経済) ファイナンス ファイナンスとコーポレートガバナンス 経済データ分析 財務会計論 原簿計算Ⅰ・Ⅱ 中級簿記 財務諸表分析演習 連結会計 アカウンティング演習A・B 管理会計論 監査論 行政学 公共経営論 公共思想論 NPO・ボランティアの理論 公共経済学</p>	<p>行政評価 公会計 地域経営論 非営利組織論 情報公共論 社会福祉論 福祉医療マネジメント論 公共経営演習A～D 公共経営実地演習 社会心理学 政策科学 政策科学演習 経営基礎数学 統計の分析と利用 統計データの扱い方 多変量の統計データ解析 問題発見技法 スケジューリング 生産システム ネットワークモデル分析 シミュレーションモデル分析A・B</p>	<p>最適化モデル分析 問題解決技法演習 意思決定科学 ロジスティクス コンピュータ基礎演習 情報発信ツール活用演習 データベース作成 プログラミング データ処理Ⅱ 情報化戦略 情報技術演習A・B ビジネスと法B・C 労働法 行政法 経営学特論A・B 職業・キャリア指導 海外研修 インターンシップ 卒業論文</p>

[5] 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関する情報

大学等	学部・研究科等		修業年限	必要修得単位数	科目区分ごとの修得単位数		取得可能な学位及び専攻名称	
					必修	選択		
文教大学	教育学部	学校教育課程	4年	130単位	80単位	50単位	学士 (教育学)	
					特別支援教育専修	86単位		44単位
		心理教育課程			児童心理教育コース	38単位		92単位
					幼児心理教育コース	88単位		42単位
	人間科学部	人間科学科	4年	124単位	32単位	92単位	学士 (人間科学)	
		臨床心理学科			28単位	96単位		
		心理学科			42単位	82単位		
	文学部	日本語日文学科	4年	128単位	42単位	86単位	学士 (文学)	
		英米語英米文学科			40単位	88単位		
		中国語中国文学科			38単位	90単位		
		外国語学科			56単位	72単位		
	情報学部	情報システム学科	4年	124単位	36単位	88単位	学士 (情報学)	
情報社会学科		48単位			76単位			
メディア表現学科		36単位			88単位			
国際学部	国際理解学科 国際観光学科	4年	124単位	32単位	92単位	学士 (国際学)		
健康栄養学部	管理栄養学科	4年	130単位	93単位	37単位	学士(栄養学)		
経営学部	経営学科	4年	124単位	26単位	98単位	学士(経営学)		
(大学院)	教育学研究科	学校教育専攻修士課程	2年	30単位	14単位	16単位	修士(学校教育)	
	人間科学研究科	臨床心理学専攻修士課程	2年	43単位	25単位	18単位	修士(心理学)	
		臨床心理学専攻博士(後期)課程	3年	16単位	12単位	4単位	博士(心理学)	
		人間科学専攻修士課程	2年	30単位	6単位	24単位	修士(人間科学)	
	言語文化研究科	言語文化専攻修士課程	2年	30単位	0単位	30単位	修士(文学)	
		言語文化専攻博士(後期)課程	3年	16単位	0単位	16単位	博士(文学)	
	情報学研究科	情報学専攻修士課程	2年	30単位	8単位	22単位	修士(情報学)	
	国際学研究科	国際学専攻修士課程	2年	30単位	6単位	24単位	修士(国際学)	
	(専攻科)	教育専攻科	1年	30単位	0単位	30単位	—	
		(外国人留学生別科)	1年	38単位	8単位	30単位	—	

授業科目のシラバスは、文教大学ホームページで公開しています。

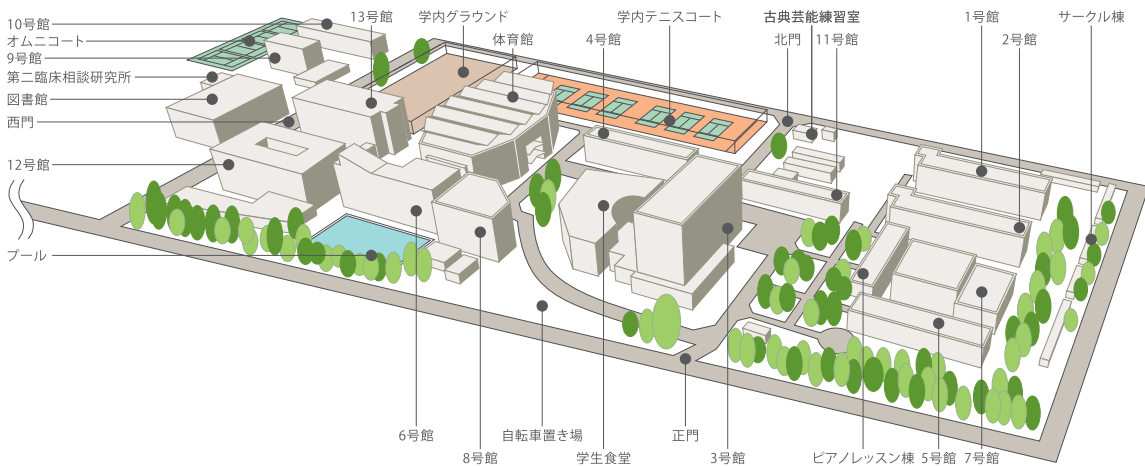
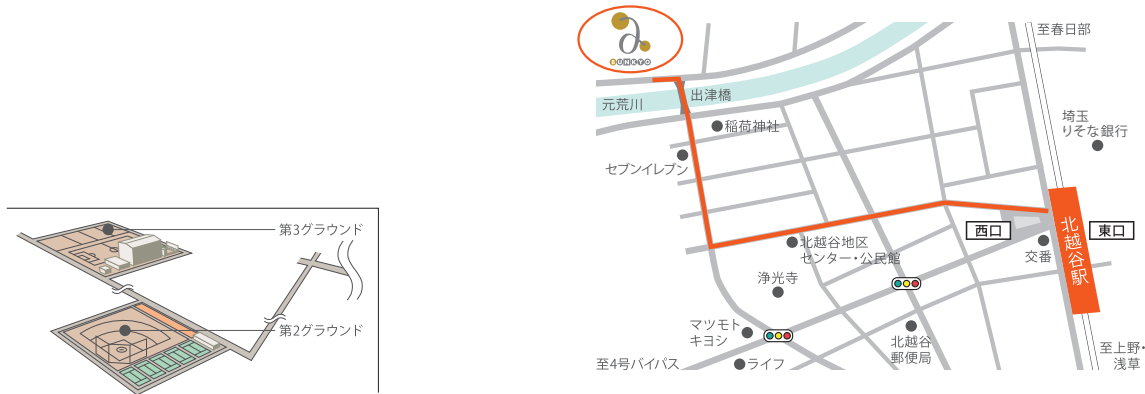
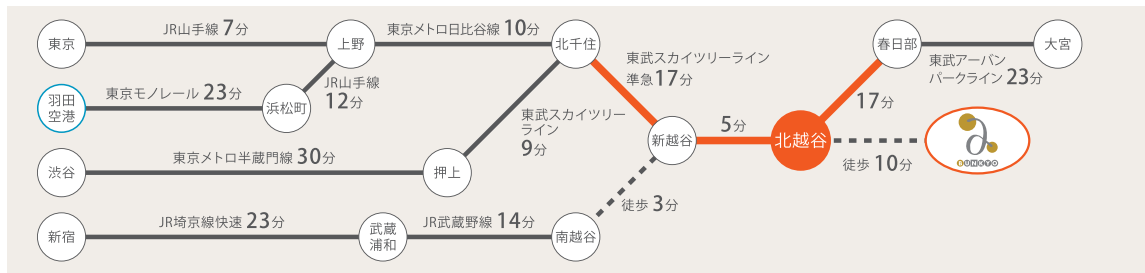
<https://www.bunkyo.ac.jp>

Home > 大学案内 > シラバス照会を参照して下さい。

[6] 学習環境に関する情報

越谷 キャンパス	所在地	埼玉県越谷市南荻島3337
	主な交通手段	東武スカイツリーライン「北越谷」駅下車
	設置学校等	○大学(教育学部/人間科学部/文学部) ○大学院研究科(教育学研究科/人間科学研究科/言語文化研究科) ○専攻科(教育専攻科) ○外国人留学生別科

キャンパスの概要



運動施設の概要	<ul style="list-style-type: none"> ▶体育館(メインアリーナ1,160㎡/サブアリーナ442㎡/トレーニングルーム172㎡) ▶学内テニスコート(全天候型10面3,383㎡) ▶学内グラウンド(クレー3,304㎡) ▶第2グラウンド(テニスコート5面3,792㎡/野球場2面9,826㎡) ▶第3グラウンド(第2体育館384㎡/弓道場37㎡/人工芝グラウンド18,402㎡)
---------	--

課外活動の状況

文化会団体

- 文化会本部
- 吹奏楽部
- 室内合奏団
- モダンフォークソングクラブ
- 音楽友の会
- 作詞作曲研究会
- 管弦楽団
- JAZZ 研究会
- 箏曲部
- 子どもといっしょ Wonder Kids
- 文藝會
- 美術部
- 書道部
- 劇団 NoN-Spoil
- ボランティア部 C・フラフープ
- 学習ボランティア部 なずなの会
- 漫画研究会
- 国際交流ボランティアサークル わっち
- 寺子屋
- 華道部
- サブカルチャー研究部
- 合唱団コールリンデ
- Maggie (大道芸)

体育会団体

- 体育会本部
- 女子バレーボール部
- 女子バドミントン部
- 女子バスケットボール部
- 女子ソフトテニス部
- 女子硬式庭球部
- 女子ソフトボール部
- 女子ハンドボール部
- 女子サッカー部
- 男子バレーボール部
- 男子バドミントン部
- 男子バスケットボール部
- 男子ソフトテニス部
- 男子硬式庭球部
- 男子ソフトボール部
- 男子ハンドボール部
- 野球部
- サッカー部
- アメリカンフットボール部
- ラグビー部
- 卓球部
- ラクロス部
- 陸上競技部
- 水泳部
- 創作ダンス部
- 競技ダンス部
- 剣道部
- 弓道部
- 空手道部

その他

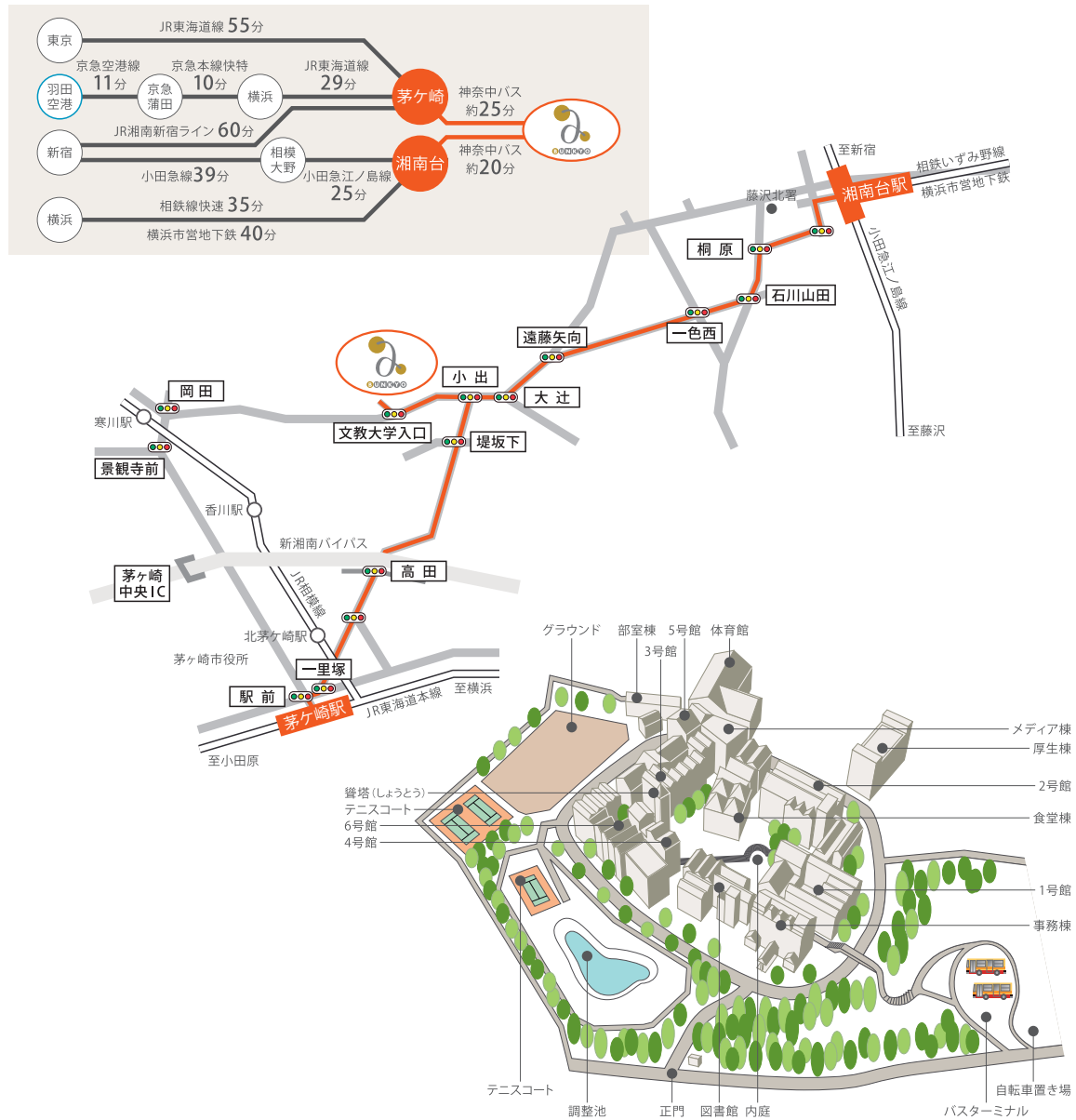
- 学友会総務部
- 藍蓼祭実行本部
- 留学生会

届出団体

- ACTスポーツクラブ(テニス)
- F.C.NUTS(サッカー)
- バドワイザーテニスクラブ(テニス)
- 文教AIRS(アルティメット)
- RED CROSS(野球・ソフトボール)
- F.C.Liberty(フットサル)
- ヘルベチカ(バスケットボール)
- アーリータイムズ -時期尚早- (軟式野球)
- サイクリストツツーリングクラブ -B.C.T.C.- (サイクリング)
- ハモハモ(アカペラ)
- 造形クラブ Do (陶芸・立体造形)
- いけっち(サッカー)
- G'z(バスケットボール)
- B-KIDS (バスケットボール)
- FLIP(フットサル)
- LEGENDS(軟式野球)
- ローターアクトクラブ(ボランティア)
- 野外教育研究会あべこべ(野外活動)
- SPREADS(ダンス)
- 和太鼓集団打組『出津龍』(和太鼓)
- デジヴ(写真撮影・展示)
- さちこの会(地域イベント研究・企画)
- Jet's ハイボール同好会(バレーボール)
- プランタンテニスクラブ(テニス)
- LARKS(野球・ソフトボール)
- SHUTTLES(バドミントン)
- Rookies(野球)
- Leggings(フットサル)
- ひろよ(バレーボール)
- 文教ツーリストクラブ(旅行・日本文化研究)
- 教師の卵サークルWE(教採対策)
- 茶道倶楽部(茶道)
- Rire(テニス)
- Pict+(アニメ・イラスト・漫画制作)
- SNOW's(スキー・スノーボード)
- お笑いサークルびいんBack(お笑い)
- おさんぽの会(散歩)
- のとまる(セクシャルマイノリティサークル)
- Wings With(バドミントン)
- ピプロBunkyo(ビプリオバトル)
- チアリーディング応援サークルLuckers(チアリーディング)
- シリウス(天文)
- ポケモンサークル〜ポケルス〜(サブカルチャー研究)
- 合唱団てくてく(合唱)
- かめれおん(コスプレ)
- めぐり(郷土研究)
- レモンスカッシュ(スカッシュ)
- 人狼&TRPGサークル「いあ」(サブカルチャー研究)
- 文教大学クイズ研究会(BQC)(クイズ研究)
- ESS(洋画、洋楽)
- カワセミ釣会(釣り)
- トリックスターズ(手品)
- 文教大学ボランティアサークル「あるけ」(ボランティア)
- 九州・沖縄文化研究会(郷土研究)
- ポケカサークル Tera's Hause(サブカルチャー研究)
- Wadaci(ファッション研究)
- Lefty(ハンドボール)
- ボウリング(ボウリング)

湘南 キャンパス	所在地	神奈川県茅ヶ崎市行谷1100
	主な交通手段	小田急江ノ島線「湘南台」駅下車 西口より神奈中バス「文教大学」下車 JR 東海道線「茅ヶ崎」駅下車 北口より神奈中バス「文教大学」下車
	設置学校等	○大学 (情報学部/国際学部/健康栄養学部/経営学部) ○大学院研究科 (情報学研究科/国際学研究科)

キャンパスの概要



運動施設の概要

- ▶体育館 (大アリーナ952㎡/小アリーナ272㎡) ▶部室棟 (トレーニングルーム43㎡)
- ▶学内テニスコート (全天候型3面) ▶学内グラウンド (クレー8,032㎡)
- ▶厚生棟屋上 (弓道場435㎡)

課外活動の状況

文化会団体

- 文化会本部
- 映画製作研究部
- 演劇部 劇団また旅
- 音楽友の会
- 作詞作曲研究会
- 茶道部
- アカペラサークル CyAN
- 吹奏楽部
- 写真部
- 調理サークル 飯
- null2x
- FOG PARTY
- 放送部
- 創作部
- アナログゲーム研究部

体育会団体

- 体育会本部
- 和太鼓部 楓
- 剣道部
- 硬式テニス部
- ライフセービング部
- ソフトテニス部
- ダンス部 BUZZ
- 軟式野球部
- 男子ソフトボール部
- バドミントン部
- バレーボール部
- 陸上競技部
- 弓道部
- 武蔵・殺陣剣舞会

その他

- 学友会
- 聳塔祭実行委員会

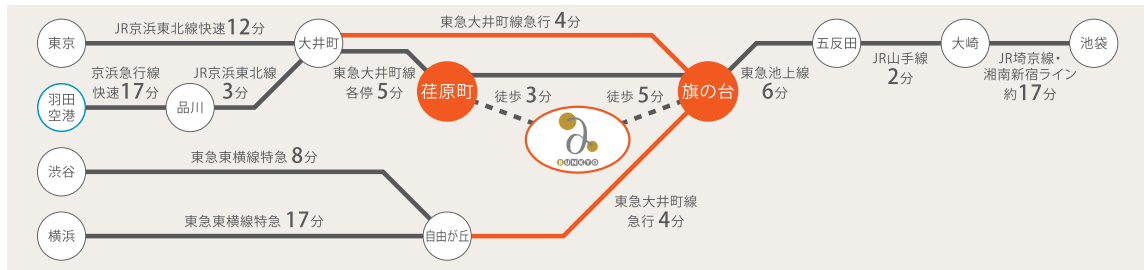
届出団体

- Beat Generation (サッカー)
- BIT (バスケットボール)
- Full Throttle (テニス)
- HOP (ボランティア)
- MEW (イベント)
- S☆G☆A (テニス)
- Seeds (フットサル)
- SURF & SNOW (イベント)
- 観光研究会 avion (観光研究)
- 湘南アニメーション研究所 (アニメーション制作)
- 茅ヶ崎地区BBS会 (青年ボランティア)
- 文教の森プロジェクト (森林整備)
- 文教大学 鉄道研究会 (鉄道研究)
- ポケモンサークル (ゲーム研究)
- 留学生会 (留学生交流)
- 湘南プランタン (テニス)
- 浪花×MINT (イベント)
- KoP (サバイバルゲーム)
- アニメ特撮交流観賞会 (アニメーション鑑賞)
- COCOS (テニス)
- JoinUS! (スポーツ交流)
- 情報社会研究会 (自己啓発)
- TABLE FOR TWO (ボランティア)
- PLAY OF GAME (ゲーム研究)
- Rachien Family (イベント)
- HoT (ハンドボール)
- Shaft (バドミントン)
- Turtle Caravan (映像作品・写真撮影)
- こども応援丸 文教支部 (学習支援)
- Vansy (マイナースポーツ)
- Calme (ソフトテニス)
- ホビーデザイン企画制作会 (ボードゲーム)



旗の台 キャンパス	所在地	東京都品川区旗の台3-2-17
	主な交通手段	東急大井町線・池上線「旗の台」駅下車
	設置学校等	○文教大学付属高等学校 ○文教大学付属中学校 ○文教大学付属幼稚園

キャンパスの概要



運動施設の概要	<ul style="list-style-type: none"> ▶体育館(アリーナ1,030㎡/温水プール617㎡/トレーニングルーム98㎡) ▶屋内運動場(講堂563㎡) ▶柔道場(北棟3F 198㎡) ▶中高外庭運動場(人工芝他1,477㎡) ▶グラウンド(人工芝他1,743㎡) ▶幼稚園園庭(人工芝他643㎡)
---------	--

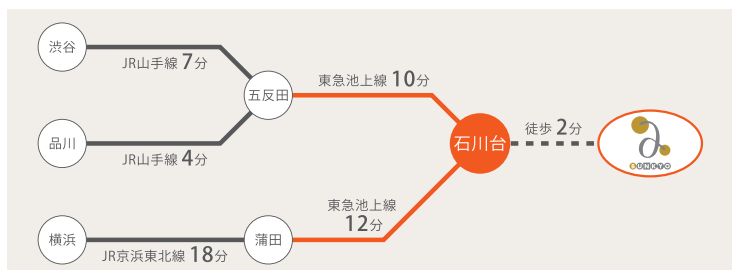
課外活動の状況

文教大学付属中学校・高等学校	白百合会(生徒会)活動として、体育・学術・芸術・芸能・同好会の5ブロックに分かれて活動しているほか、地域のゴミ拾い・上野公園迷子係等のボランティア活動にも力を入れています。旗の台体育館(アリーナ・屋内プール・グラウンド等)・外庭のほか、多摩川河川敷や駒沢オリンピック公園総合運動場等校外の施設も利用して活動しています。
文教大学付属幼稚園	文教大学付属幼稚園での課外活動は、任意参加で、①スポーツクラブ(年中、年長対象)②モダンバレエ(全園児対象)③水泳クラブ(年中、年長対象)④文教幼児教室(年中、年長対象)を行っています。

石川台 キャンパス

所在地	東京都大田区東雪谷2-3-12
主な交通手段	東急池上線「石川台」駅下車
設置学校等	○文教大学付属小学校

キャンパスの概要



運動施設の概要

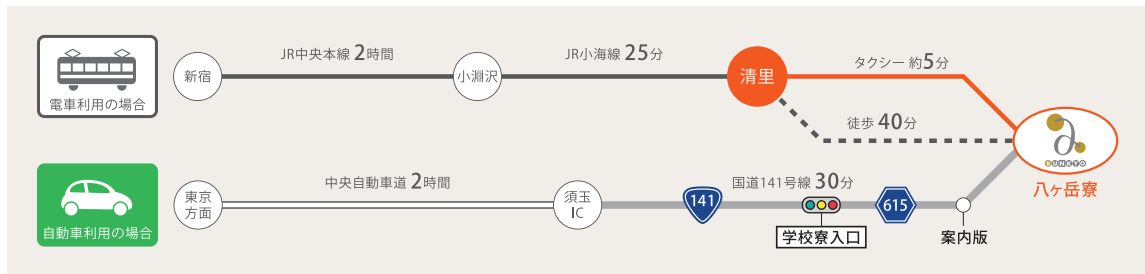
▶屋内運動場 (講堂375㎡) ▶第一運動場 (人工芝等1,602㎡) ▶第二運動場 (全天候型862㎡)

課外活動の状況

5月…北アルプス自然教室 (5年) / 八ヶ岳自然教室 (3・4年の縦割り集団で実施)
 7月…オーストラリア短期留学 (4・5・6年希望者)
 9月…富士山麓と尾瀬、富浦で順に実施する富士、尾瀬、富浦自然学校 (全校縦割り集団で実施)
 2月…スキー教室 (5・6年)

八ヶ岳寮	所在地	山梨県北杜市高根町清里3545
	主な交通手段	JR 小海線「清里」駅下車

八ヶ岳寮の概要



施設の概要	▶研修室(20人用3室 合計111㎡) ▶宿泊室(10畳10室 合計302㎡) ▶宿泊室(8畳3室 合計72㎡) ▶食堂(収容数100人159㎡) ▶建物面積1,728㎡ ▶敷地面積26,464㎡
-------	--

[7] 学生等納付金に関する情報

文教大学

2019年度学納金一覧

学部・学科・課程		入学金	授業料	教育充実費	実験実習費			
教育学部	学校教育課程	1年次	280,000円	837,000円	270,000円	-		
		2年次	-	849,000円				
		3年次	-	845,000円				
		4年次	-	855,000円				
	心理教育課程	1年次	280,000円	742,000円				
		2年次	-	754,000円				
		3年次	-	750,000円				
		4年次	-	760,000円				
人間科学部	人間科学科	1年次	280,000円	742,000円	270,000円	-		
		2年次	-	754,000円				
		3年次	-	750,000円				
		4年次	-	760,000円				
	臨床心理学科	1年次	280,000円	742,000円				
		2年次	-	754,000円				
		3年次	-	750,000円				
		4年次	-	760,000円				
	心理学科	1年次	280,000円	742,000円				
		2年次	-	754,000円				
		3年次	-	750,000円				
		4年次	-	760,000円				
文学部	日本語 日本文学科	1年次	280,000円	742,000円	270,000円	-		
		2年次	-	754,000円				
		3年次	-	750,000円				
		4年次	-	760,000円				
	英米語 英米文学科	1年次	280,000円	742,000円				
		2年次	-	754,000円				
		3年次	-	750,000円				
		4年次	-	760,000円				
	中国語 中国文学科	1年次	280,000円	742,000円				
		2年次	-	754,000円				
		3年次	-	750,000円				
		4年次	-	760,000円				
	外国語学科	1年次	280,000円	742,000円			270,000円	160,000円
		2年次	-	740,000円				
		3年次	-	750,000円				
	情報学部	情報システム学科	1年次	280,000円			742,000円	270,000円
2年次			-	754,000円				
3年次			-	750,000円				
4年次			-	760,000円				
情報社会学科		1年次	280,000円	742,000円				
		2年次	-	754,000円				
		3年次	-	750,000円				
		4年次	-	760,000円				
メディア表現学科		1年次	280,000円	742,000円				
		2年次	-	754,000円				
		3年次	-	750,000円				
		4年次	-	760,000円				
国際学部	国際理解学科	1年次	280,000円	742,000円	270,000円	-		
		2年次	-	754,000円				
		3年次	-	750,000円				
		4年次	-	760,000円				
	国際観光学科	1年次	280,000円	742,000円				
		2年次	-	754,000円				
		3年次	-	750,000円				
		4年次	-	760,000円				
健康栄養学部	管理栄養学科	1年次	280,000円	812,000円	270,000円	130,000円		
		2年次	-	824,000円				
		3年次	-	820,000円				
		4年次	-	830,000円				
経営学部	経営学科	1年次	280,000円	742,000円	270,000円	-		
		2年次	-	754,000円				
		3年次	-	750,000円				
		4年次	-	760,000円				

※授業料は、分納を認めております。※別科生及び別科修了生は、入学金180,000円。※付属高校生(推薦・対象学力入試)は、入学金半額免除。※編入生及び再入学生の学納金は、以下のとおりとする。●入学金は、再入学を許可された年度と同額とする。●授業料、教育充実費及び実験実習費は、入学を許可された学年と同額とする。※実験実習費は在籍5年目以降は徴収しない。(ただし、4年間の在学期間を満たしていること)

その他の費用徴収（免許状等の取得に必要な費用）

※各費用（課程履修費、教育実習費等）の納入時期は、当該費用が必要となる年次に納入。

教育学部

学校教育課程

卒業要件で取得することができる教育職員免許状（正免）のほかに、必要な単位の修得によって取得することができる教育職員免許状（副免〔タテ副免・ヨコ副免〕）があります。

〈正免〉

所属専修（国語・社会・数学・理科・音楽・美術・体育・家庭・英語）

◇小学校教諭一種免許状及び中学校教諭二種免許状の取得

所属専修（特別支援教育）

◇小学校教諭一種免許状及び特別支援学校教諭一種免許状〔知的障害者・肢体不自由者・病弱者に関する領域〕の取得

〈副免〉

タテ副免

正免に加えて、所属専修教科の中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状の取得

ヨコ副免

正免及びタテ副免に加えて、所属専修教科以外の中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状の取得

※ヨコ副免は、所属する専修の卒業に必要な科目の時間割を組んだ後、空いた時間で取得に必要な指定科目を履修していくため、在学中に免許状取得に必要な科目の全てを履修することができない場合があります。

正免及び副免の取得に係る費用は、次のとおりです。

免許種類【正免】	課程履修費	介護等体験費用
小学校一種 中学校二種*1(所属専修教科) 特別支援学校一種*2	—*3	15,000円*4

*1) 国語専修、社会専修、数学専修、理科専修、音楽専修、美術専修、体育専修、家庭専修及び英語専修の学生が取得できる免許です。*2) 特別支援学校一種免許状（知的・肢体不自由・病弱）は、特別支援教育専修の学生が取得できる免許です。*3) 正免に係る課程履修費は、必要ありません。*4) 国語専修、社会専修、数学専修、理科専修、音楽専修、美術専修、体育専修、家庭専修及び英語専修の学生が必要となる費用です。特別支援教育専修の学生は、必要ありません。

免許種類【副免】	課程履修費	介護等体験費用
タテ副免	20,000円	—
ヨコ副免	20,000円	
タテ副免及びヨコ副免	40,000円	

※介護等体験費用は、正免取得のために納入するので必要ありません。

心理教育課程

教職課程を履修する場合の免許状取得に必要な科目の課程履修費、教育実習に係る諸費用は、次のとおりです。

〈幼児心理教育コース〉

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
幼稚園一種	20,000円	30,000円	—
幼稚園一種 小学校一種	110,000円	60,000円*1	15,000円*2

*1) 幼稚園一種及び小学校一種の免許を取得する場合、幼稚園及び小学校の2校で教育実習を行います。教育実習費は、1校種につき、30,000円です。*2) 小学校一種免許取得者のみ納入が必要となる費用です。

〈幼児心理教育コース〉

免許種類	課程履修費	教育実習費
幼稚園一種	20,000円	30,000円
幼稚園一種 小学校一種	110,000円	60,000円*1

*1) 幼稚園一種及び小学校一種の免許を取得する場合、幼稚園及び小学校の2校で教育実習を行います。教育実習費は、1校種につき、30,000円です。

保育士資格取得に必要な科目の課程履修費・保育実習に係る諸費用は、次のとおりです。

〈幼児心理教育コース〉

免許種類	課程履修費	保育実習Ⅰ 施設実習費	保育実習Ⅱ 保育所実習費
保育士資格	20,000円	20,000円	30,000円

人間科学部

教職課程を履修する場合の免許状取得に必要な科目の課程履修費・教育実習に係る諸費用は、次のとおりです。

人間科学科／臨床心理学科／心理学科

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用	福祉実習費
中学校一種(社会) 高等学校一種(公民)	20,000円	25,000円	15,000円	—
中学校一種(社会) 高等学校一種(公民・福祉)			—	19,000円
小学校一種	110,000円	30,000円	15,000円	—
中学校一種(社会) 高等学校一種(公民) 特別支援学校一種	60,000円	50,000円	—	—

※高等学校(福祉)及び特別支援学校一種の免許取得の場合は、介護等体験費用は必要ありません。

社会福祉士国家試験受験資格、精神保健福祉士国家試験受験資格を取得しようとする場合の諸費用は、次のとおりです。

資格種類	福祉実習費
社会福祉士 精神保健福祉士	40,000円

※「社会福祉士国家試験受験資格」取得を希望される方で児童相談所での実習を追加で希望される場合、別途18,000円の費用が必要となります。

文学部

教職課程を履修する場合の免許状取得に必要な科目の課程履修費・教育実習に係る諸費用は、次のとおりです。

日本語日本文学科

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
中学校一種(国語) 高等学校一種(国語)	20,000円	25,000円	15,000円
高等学校一種(書道)			—*1
中学校一種(国語) 高等学校一種(国語) 高等学校一種(書道)	40,000円	25,000円	15,000円
中学校一種(国語) 高等学校一種(国語) 中学校二種(英語)			—
小学校一種	110,000円	30,000円	—

*1) 高等学校教諭免許のみの取得の場合は、介護等体験費用は必要ありません。

英米語英米文学科

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
中学校一種(英語) 高等学校一種(英語)	20,000円	25,000円	15,000円
小学校一種	110,000円	30,000円	

中国語中国文学科

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
中学校一種(中国語) 高等学校一種(中国語)	20,000円	25,000円	15,000円
中学校一種(国語) 高等学校一種(国語)			—*1
中学校一種(中国語) 高等学校一種(中国語) 中学校二種(国語)	40,000円	25,000円	15,000円
中学校一種(中国語) 高等学校一種(中国語) 中学校二種(英語)			
小学校一種	110,000円	30,000円	

*1) 高等学校教諭免許のみの取得の場合は、介護等体験費用は必要ありません。

外国語学科

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
中学校一種(英語) 高等学校一種(英語)	20,000円	25,000円	15,000円

日本語教員養成コースを履修する場合の諸費用は、次のとおりです。

資格名	登録費	日本語教育実習費
日本語教員養成コース 「1級」または「2級」	10,000円	20,000円

情報学部

教職課程を履修する場合の免許状取得に必要な科目の課程履修費・教育実習に係る諸費用は、次のとおりです。

情報システム学科

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
高等学校一種(情報)	20,000円	20,000円	—*2
中学校一種(数学)*1 高等学校一種(数学)*1		25,000円	15,000円
高等学校一種(情報) 中学校一種(数学) 高等学校一種(数学)			

情報社会学科

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
高等学校一種(情報)	20,000円	20,000円	—*2

メディア表現学科

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
高等学校一種(情報)	20,000円	20,000円	—*2

*1) 情報社会学科、メディア表現学科の学生が中学校・高等学校一種(数学)の免許状を追加取得する場合は、他学科受講として別途に当該課程履修費が必要になります。また、中学校の教員免許状の取得のため、実習期間が長くなることにより、教育実習費は25,000円となります。*2) 高等学校教諭免許のみの取得の場合は、介護等体験費用は必要ありません。

国際学部

教職課程を履修する場合の免許状取得に必要な科目の課程履修費・教育実習に係る諸費用は、次のとおりです。

国際理解学科

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
中学校一種(英語) 高等学校一種(英語)	20,000円	25,000円	15,000円
中学校一種(社会) 高等学校一種(公民)			

健康栄養学部

教職課程を履修する場合の免許状取得に必要な科目の課程履修費・教育実習に係る諸費用は、次のとおりです。

管理栄養学科

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
栄養教諭一種	6,000円	15,000円	—

経営学部

教職課程を履修する場合の免許状取得に必要な科目の課程履修費・教育実習に係る諸費用は、次のとおりです。

経営学科

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
高等学校一種(商業)	20,000円	20,000円	—*1

*1) 高等学校教諭免許のみの取得の場合は、介護等体験費用は必要ありません。

その他

教員免許状授与の一括申請について

一括申請とは、大学が免許状取得有資格者を取りまとめて、大学が所在する都道府県の教育委員会へ免許状の授与申請をすることです。一括申請諸費用は、一免許状につき次のとおりです。

対象学生	申請先	一括申請諸費用
越谷キャンパスの学生	埼玉県教育委員会	3,500円
湘南キャンパスの学生	神奈川県教育委員会	

※栄養教諭一種の免許状は、大学による一括申請を実施していません。

学校図書館司書教諭課程

教育学部、人間科学部、文学部、言語文化研究科、教育学研究科及び教育専攻科の学生が学校図書館司書教諭課程を履修する場合の課程履修費は、次のとおりです。

免許種類	課程履修費
学校図書館司書教諭	10,000円

図書館司書課程

人間科学部及び文学部の学生が図書館司書課程を履修する場合の課程履修費は、次のとおりです。

免許種類	課程履修費
図書館司書	28,000円

文教大学大学院・専攻科

2019年度学納金一覧

研究科等	入学金	授業料	教育充実費	
人間科学研究科 (博士後期課程)	1年次	280,000円	612,000円	100,000円
	2年次	—	612,000円	
	3年次	—	600,000円	
人間科学研究科 (修士課程)	1年次	280,000円	612,000円	
	2年次	—	612,000円	
言語文化研究科 (博士後期課程)	1年次	280,000円	612,000円	
	2年次	—	612,000円	
	3年次	—	600,000円	
言語文化研究科 (修士課程)	1年次	280,000円	612,000円	
	2年次	—	612,000円	
情報学研究科	1年次	280,000円	612,000円	
	2年次	—	612,000円	
国際学研究科	1年次	280,000円	612,000円	
	2年次	—	612,000円	
教育学研究科	1年次	280,000円	612,000円	
	2年次	—	612,000円	
専攻科 教育専攻科	—	250,000円	622,000円	

※授業料は分納を認めています。※文教大学卒業生の入学金は、大学院では半額免除、専攻科では全額免除。
 ※教育学研究科に現職教員が在籍する場合の金額は別に定める。
 ※博士後期課程について、当該課程の修了に必要な所定の単位を修得している者が、標準修業年限を超えて在学する場合の授業料は300,000円。(半期150,000円)

その他の費用徴収

免許状上進について

言語文化研究科及び教育学研究科の学生が、専修免許状を取得する場合、その免許状の種類・教科と同じ一種免許状を所有していなければなりません。二種免許状所有者の場合、言語文化研究科の学生は文学部で、教育学研究科の学生は教育学部で科目を履修することで、専修免許状を取得することができます。文学部又は教育学部の科目を履修する場合の費用は、次のとおりです。

学部科目聴講費用
1単位につき、3,500円

博士論文審査料

博士論文の提出時には、以下のとおり論文審査料を納めなければなりません。

種別	授業料	論文審査料
課程博士	本大学院博士後期課程学生 (在学中に論文を提出した場合)	免除
論文博士	本大学院の博士後期課程に3年以上在籍し、所要の授業科目を16単位以上修得し、かつ、博士論文の作成等に対する指導を受けた後退学した者	100,000円
	上記以外の者	200,000円

減免制度

文教大学大学院私費外国人留学生の学納金減免制度

対象	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院の正規課程に在学し、在留資格「留学」を有する私費外国人留学生（国費留学生及び政府派遣外国人留学生を除く）であること。 ・人物、学業ともに優れ、かつ、経済的理由により修学が困難と認められる者とする。ただし、次の各号のいずれかに該当する者は対象から除外する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 本学を通じて採用された学外の奨学金で、当該年度の授業料減免額以上の給付を受けている者 ② 文教大学大学院学則に基づく標準修業年限を超えて在籍している者 ③ 当該年度に休学（半期休学含む）している者 ④ 研究・学業成績、学習態度又は生活態度が不良と認められる者
採用人数	計23人（2019年度実績）
減免額	授業料年額の30%を限度とした額
申請手続等	<p>【申請書類】 ① 授業料減免申請書 ② その他指示された書類</p> <p>【申請時期】 6月頃</p> <p>【申請場所】 国際交流センター国際交流室（越谷オフィス・湘南オフィス）</p>

文教大学私費外国人留学生の学納金減免制度

対象	<ul style="list-style-type: none"> ・学部（部）の正規課程に在学し、在留資格「留学」を有する私費外国人留学生（国費留学生及び政府派遣外国人留学生を除く）であること。 ・人物、学業ともに優れ、かつ、経済的理由により修学が困難と認められる者とする。ただし、次の各号のいずれかに該当する者は対象から除外する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 2018年度までの標準修得単位数を満たしていない者 ② 文教大学私費外国人留学生に対する奨学金の給付を受けている者 ③ 本学を通じて採用された学外の奨学金で、当該年度の授業料減免額以上の給付を受けている者 ④ 留年した者。ただし、病気その他やむを得ない事由により留年した者は除く。 ⑤ 当該年度に休学（半期休学含む）している者
採用人数	計28人（2019年度実績）
減免額	授業料年額の30%を限度とした額
申請手続等	<p>【申請書類】 ① 授業料減免申請書 ② その他指示された書類</p> <p>【申請時期】 6月頃</p> <p>【申請場所】 国際交流センター国際交流室（越谷オフィス・湘南オフィス）</p>

付属学校

学納金一覧

	授業料		入学金		その他の費用徴収		
	金額	納入時期	金額	納入時期	金額	納入時期	
付属高等学校	420,000円	5月28日	280,000円	2月12日	170,000円	5月28日	
		8月28日 11月28日		～ 2月22日			
【その他の費用の内訳】 維持費（170,000円）							
付属中学校	420,000円	5月28日	280,000円	2月1日	170,000円	5月28日	
		8月28日 11月28日		～ 2月10日			
【その他の費用の内訳】 維持費（170,000円）							
付属小学校	1～3年生	444,000円	毎月納入 37,000円	第1回	11月11日	140,000円	4月29日
					11月12日		
	4～6年生	408,000円	毎月納入 34,000円	第2回	11月25日 11月26日		
【その他の費用の内訳】 維持費（140,000円）							
付属幼稚園	348,000円	毎月納入 29,000円	3年保育	150,000円	11月6日	80,000円	4月29日
			2年保育	120,000円			
			【その他の費用の内訳】 維持費（冷暖房費を含む）（60,000円）、教材費（20,000円）				

[8] 学生等支援と奨学金に関する情報

学生等支援組織

文教大学

	組織名	機能
就職支援	キャリア支援課	就職や進学に関する個別相談、学生が描く目標を実現するための具体的なプログラム作成、スケジュールに沿った着実な就職活動サポート
進学支援		
履修支援	教務課・学生課(越谷キャンパス) 教育支援課(湘南キャンパス)	授業支援、試験運営、証明書発行、各種実習対応、学籍管理、課外活動支援、奨学金対応、拾得物管理、アルバイト紹介
生活支援(住居、アルバイト等)		
経済支援		
学生生活全般の相談	学生支援室	学生生活全般の相談
保健・衛生・メンタルヘルス等	保健センター(医務室・相談室)	医務室: 病気やけがの応急処置、日常の健康管理に関する相談 相談室: 専門のカウンセラーによる悩みや不安等の相談

文教大学附属高等学校

	組織名	機能
進学支援	進路指導部	進路指導、進学情報提供
学習支援	学習指導部	シラバス作成、講習
保健・衛生・メンタルヘルス等	保健室・教育相談室	生徒の心身のケア、人間関係作り支援

文教大学附属中学校

	組織名	機能
学習支援	学習指導部	シラバス作成、講習
保健・衛生・メンタルヘルス等	保健室・教育相談室	生徒の心身のケア、人間関係作り支援

文教大学附属小学校

	組織名	機能
進学支援	進路指導委員会(高学年部会)	個別の面談による聞き取りと、それをもとにした委員会の話し合いと調整
保健・衛生・メンタルヘルス等	養護教諭を中心に全教員で連携	「からだから」の月一回の発行、学期ごとの発育測定等

文教大学附属幼稚園

	機能
進学支援	国立・私立小学校受験に向けた担任及び園長による保護者の要望に応じたアドバイス、文教幼児教室担当講師による特別講演の実施
保健・衛生・メンタルヘルス等	特別支援を必要とする園児への園・保護者・品川区教育委員会との連携による適切な対応

奨学金

文教大学

文教大学奨学金

対 象	勉学の意欲を持ちながら、経済的な理由で修学に支障をきたしている学生(1~4年生)
出願資格	以下を全て満たしていること ① 勉学の意欲を持ち、成績基準を満たしている者(ただし、1年生は成績基準なし) ② 学費の支払いが困難な者
採用人数	計222人(2019年度実績)
金 額	授業料の全額又は一部(2019年度実績)
申込手続等	【必要書類】 ① 文教大学奨学金願書 ② 所得関係書類 【出願時期】 4月頃 【出願場所】 越谷キャンパス:学生課窓口 湘南キャンパス:教育支援課窓口

文教大学緊急特別奨学金

対 象	大学1~4年生
出願資格	下記の要件を全て満たす者 ① 修学の意思があるが、家計急変*により最終延納期限までに学納金が納入できない者 ② 日本学生支援機構等の奨学金を貸与中の者又は同機構の緊急採用(1種)応急採用(2種)の奨学金いずれかを希望する者 ③ 文教大学奨学金の受給者は、給付額が授業料の半額以下の者(春学期)又は給付額が授業料の全額以外の者(秋学期) ④ 標準修得単位数を満たしている者
採用人数	0人(2019年度実績)
金 額	授業料の半額(半期分)を上限とする。 ただし、採用は在学中に一度限り。

*対象となる家計急変の事由
 ●主たる家計支持者が死亡 ●主たる家計支持者が失職・退職 ●主たる家計支持者が経営不振
 ●主たる家計支持者が破産 ●主たる家計支持者が倒産 ●主たる家計支持者が離別
 ●主たる家計支持者が病気 ●主たる家計支持者の自宅住居が全壊(焼)・半壊(焼)

文教大学学業成績優秀者奨励金

対 象	本学の学部在籍し、本学において2018年度の成績評価を受けた学生(ただし、研究生・委託生・聴講生・専攻科生及び科目等履修生は含まない。)で、2018年度までに当該学年の標準修得単位数以上を修得し、成績評価においてGPAの値が最上位の者が対象となります。 ※最上位の者が全国入試特待生に該当した場合は、当該特待生を除いた最上位の者を対象とします。 ※GPAの値が同じ者が複数いた場合は、2018年度の修得単位数が多い者を対象とします。また、GPA及び修得単位数とも同じだった場合は、複数を最上位者とします。
採用人数	50人〔越谷:29人/湘南:21人〕(2019年度実績) ※各学科・課程の2~4年生から、最上位の者1人(学校教育課程は、各学年の最上位から2人)
金 額	奨学金の給付額は、年間授業料の15%以内を上限とし、毎年度、学生委員会で給付額を決定します。

文教大学私費外国人留学生に対する奨学金

対 象	文教大学私費外国人留学生(2~4年生) ※国費留学生及び政府派遣留学生は除く。 ※当該年度に、他団体から給付される奨学金を受けている者又は受ける予定の者は、原則として除く。
出願資格	出願者の中から成績が優秀かつ、修学のために経済的援助が必要と認められる者
付帯事項	奨学生に採用された学生は、積極的に大学の行事(ボランティア等)に参加すること。違反した場合は、次年度の奨学金出願資格を失います。
採用人数	19人〔越谷:9人/湘南:10人〕(2019年度実績)
金 額	月額30,000円
申込手続等	【必要書類】 ① 申請書(奨学金希望の理由、将来の希望等を記入します。) ② その他必要とされる書類 【出願時期】 4月中旬~下旬 【出願場所】 越谷キャンパス:国際交流センター国際交流室(越谷オフィス) 湘南キャンパス:国際交流センター国際交流室(湘南オフィス)

文教大学外国人留学生別科奨学金

対 象	文教大学外国人留学生別科生
出願資格	下記の条件を全て満たした者で、クラス担任が推薦する者 ① 修了が見込まれ、本学の学部、大学院のいずれかに進学を希望する者 ② 学習態度が良く、学業優秀な者 ③ 学校行事参加等での積極性が認められる者
採用人数	2人(2019年度実績)
金 額	授業料の全額または一部に相当する金額
申込手続等	【必要書類】 奨学金申請書 【出願時期】 1月頃 【出願場所】 越谷キャンパス:国際交流センター国際交流室(越谷オフィス)

文教大学私費外国人留学生特待生制度

対 象	外国人留学生入学試験合格者の中から選考 ※ただし、留学生指定校推薦入学試験・留学生編入学試験・留学生別科推薦入学試験の合格者を除く。
対象学部	文学部・情報学部・国際学部・経営学部
採用人数	1人(2019年度実績)
金 額	入学金免除と月額30,000円(入学年度1年間限り) ※留学生特待生に採用された場合、当該年度は本学奨学金には出願できません。

文教大学大学院

文教大学大学院奨学金

対 象	大学院全研究科学生 春募集:2年生以上のみ 秋募集:1年生のみ
出願資格	大学院全研究科在学生のうち、人物、学力共に優秀で、健康であり、学資の支弁が困難であると認められる者 ※ただし当該年度に他の給付される奨学金の受給を受けている者又は受ける予定の者は、原則として除く。
採用人数	27人(2019年度実績) 春募集18人〔越谷:14人/湘南:4人〕 秋募集9人〔越谷:7人/湘南:2人〕
金 額	授業料の全額又は一部に相当する金額
申込手続等	【必要書類】 ① 奨学金願書 ② 本人及び配偶者の収入を証明する書類 ③ 成績を証明する書類 ④ その他、募集説明会において指示された書類 【出願時期】 春募集:4月 秋募集:10月 【出願場所】 越谷キャンパス:学生課窓口 湘南キャンパス:教育支援課窓口

文教大学大学院私費外国人留学生奨学金

対 象	文教大学大学院私費外国人留学生 ※国費留学生及び政府派遣留学生は除く。 ※当該年度に他団体から給付される奨学金を受けている者又は受ける予定の者は、原則として除く。
出願資格	出願者の中から成績が優秀で、かつ修学のために経済的援助が必要と認められる者
付帯事項	奨学生に採用された学生は、積極的に大学の行事(ボランティア等)に参加することが義務付けられています。違反した場合は、次年度の奨学金出願資格を失います。
採用人数	22人〔越谷:12人/湘南:10人〕(2019年度実績)
金 額	授業料の一部
申込手続等	【必要書類】 ① 申請書 ② その他、必要とされる書類 【出願時期】 9月 【出願場所】 越谷キャンパス:国際交流センター国際交流室(越谷オフィス) 湘南キャンパス:国際交流センター国際交流室(湘南オフィス)

その他の奨学金

独立行政法人日本学生支援機構法に基づいて施行されている奨学金のほか、地方公共団体(都道府県市区町村)・民間育英団体その他の奨学金があります。募集時期、奨学金の月額、給付・貸与種別は、多岐にわたります。

チャレンジ育英制度

企画奨励	
出願資格	下記の「Ⅰ」及び「Ⅱ」の事項に該当する企画を対象とする。(ただし、クラブ・サークルの活動は除く) Ⅰ. 下記の全ての事項に当てはまること。 ① 本学(文教大学(専攻科・別科含む)・文教大学大学院)の学生または本学の学生で構成する団体が実施する活動。 ② 育英金を援助することにより、更に高いレベルの結果が期待できる活動。 ③ 学生又は団体が自ら発案した、自主的な活動であること。 ④ 4年生の出願については、卒業論文等と関連のないもの。 ⑤ 大学が実施する他の支援制度等に採用されていないこと。 ⑥ 原則として下記「活動時期」の期間内に完結し、結果を報告できる活動であること。 Ⅱ. 上記Ⅰの条件を満たし、かつ以下のいずれかに当てはまること。 ① 獨創性溢れる、ユニークな企画であること。 ② 活動の結果が地域並びに社会への還元を期待できること。 ③ 文教大学の名を世に広めることができる。文教大学のブランド向上に寄与できること。 ④ その他、選考委員会が承認した活動。 《注意》 ●過去に採用された企画と類似する企画の場合、企画の“発展性”が必要。また、出願者が違う場合であっても、同一グループとみなすことがあります。 ●1人が複数の企画に出願することができません。ただし、共同実施者として参加することは可能です。 ●活動に関する事前打ち合わせ等の飲食費は活動予算及び収支報告の対象外となります。(実際の活動に伴う食材費は除く) ●当該年度に休学している者又は休学・退学する予定の者は出願できません。
給付件数	10件以内(2019年度実績:4件)
給付額	個人、団体を問わず1件当たり20万円以内
活動時期及び活動報告	出願できる活動は、下記の期間に実施される活動とする。活動期間は出願年度の4月1日～1月31日とし、活動終了後、速やかに報告書を提出しなければならない。
申込手続等	【必要書類】 ① チャレンジ育英制度応募用紙 ② 企画書(任意の書式) ③ 共同実施者名簿(該当者のみ提出) ④ 活動予算計画書 ⑤ 誓約書 ⑥ その他添付書類 【出願時期】 5月 【出願場所】 越谷キャンパス:学生課窓口 湘南キャンパス:教育支援課窓口 【活動終了後に提出するもの】 ① 活動結果報告書 ② 収支報告書 ③ 計画を遂行したことが分かる資料等

論文奨励	
出願資格	<p>本学等(文教大学(専攻科・別科含む)・文教大学大学院)の学生であること。</p> <p>※ただし、当該年度に休学している者又は休学・退学する予定の者は出願できません。</p>
給付件数及び育英金の給付額	<p>13件(2019年度実績)</p> <p>① 最優秀賞:10万円(0件)</p> <p>② 優秀賞:5万円(1件)</p> <p>③ 佳作:2万円(3件)</p> <p>④ 努力賞:5千円(9件)</p>
課題テーマ(2019年度)	<p>〈越谷キャンパスの学生〉 下記①～④の課題から1つを選択し、5,000字程度で論述してください。</p> <p>① 文教大学への提言 ② ボランティア活動の意義 ③ 就職試験に物申す ④ AI(人工知能)の導入について</p> <p>※複数の課題に出願することはできません。</p> <p>〈湘南キャンパスの学生〉 下記①～②の課題から1つを選択し、5,000字程度で論述してください。</p> <p>① 文教大学の課題とその解決方法 (例:通学マナーの改善、喫煙マナーの改善など)</p> <p>② 外部でのコンテストで落選した論文を修正したもの (本学在学中に応募したものに限り)</p> <p>③ シンギュラリティ:2045年頃私たちはどのように生きるのか ④ オリンピック・パラリンピックにおけるおもてなしのあり方 ⑤ 私たちは何のために生きるのか ⑥ “黒っぽい入学式”について</p> <p>※複数の課題に出願することはできません。</p> <p>【両キャンパス学生に共通する事項】 ※未発表の論文に限ります。 ※卒業年次生については、研究論文(卒業論文)と類似のものは認めません。</p>
申込手続等	<p>【出願書類】</p> <p>① チャレンジ育英制度応募用紙 ② 論文(印刷されたもの) ③ 論文(USBメモリー等に記録したもの) ④ 誓約書</p> <p>【出願時期】 9月</p> <p>【出願場所】 越谷キャンパス:学生課窓口 湘南キャンパス:教育支援課窓口</p>

[1] 文教大学学園

ガバナンス

2019年度の文教大学学園の役員は、理事16名（うち非常勤理事5名）、監事2名（いずれも非常勤）で構成しています。2019年度に開催した理事会（全14回）のうち役員の出席は、校務もしくは病気療養によるもの以外はなく、1年間を通じて高い理事会出席率（94.6%）を維持しています。また、やむを得ない理由で理事本人が理事会に出席できない場合には、「意思表示書」を以って議案ごとに「賛否」を明確にするようにしています。「学校法人文教大学学園寄附行為」に則り、全ての役員には理事会開催7日前までにあらかじめ議題と資料を配付し、万一、本人が直接出席できない場合でも、できる限り全ての役員が、より明確に各議案に反映できるように配慮した運営を行っています。

また、新任の理事、監事及び評議員に、関連法規や学園に関する様々な情報等について説明を行う「新任理事・評議員オリエンテーション」を2019年度も実施し、理事、監事及び評議員の役割や学園を取り巻く環境、学園が置かれている状況等について理解を深めてもらいました。

さらに、2020年4月から施行の私立学校法の一部改正により、本学園寄附行為を変更いたしました。2019年12月21日開催の2019年度第10回理事会（臨時第2回）及び第2回評議員会（臨時第1回）にて、本学園寄附行為の変更を審議・決定し、2020年3月に文部科学省から認可されました。今回の私立学校法改正の趣旨を踏まえた「学校法人のガバナンス体制の強化」を図るべく、変更後の本学園寄附行為に則して、理事会運営の見直しや各種学内手続きの整備等を進めています。

情報公開

文教大学学園は、2011年4月1日から「学校法人文教大学学園情報公開規程」を制定・施行しました。これは、学園が公教育の担い手として、学校法人の運営や教育研究の諸事業等の社会的説明責任を果たす必要があることに鑑み、体制を整えて事業を展開していくために、学園が保有する情報の公開等について必要な手続を定めたものです。2020年4月から施行の私立学校法の一部改正を受けて、新たに「学校法人文教大学学園役員の俸給・報酬等に関する規程・取扱細則」を公開するために、2019年度第14回理事会（臨時第3回）にて内容の変更を審議・決定いたしました。

また、事業計画書及び事業報告書については、例年に引き続き記載内容、形式の充実を図っています。事業計画書は当該年度における学園の事業や大学・各付属学校の教育目標、教育研究活動計画を中心とする内容とし、学園・大学のホームページ等で公表しています。事業報告書は、策定した事業計画に対する報告を中心とする内容とし事業計画書との連動を確保していくことに加え、教育研究・管理運営の概要や財務状況等について詳細に記載することで、説明履行責任の主軸としています。

学校法人運営の透明性の向上を目指し、主に学園・大学のホームページ、事業計画書及び事業報告書を通じて、教育研究活動に関する情報や財務情報をこれからも積極的に公表してまいります。

施設設備整備

学園では、時代に適合した教育・研究環境の整備を図るため、各キャンパスにおいて整備事業を進めるとともに、老朽施設についても教育・研究活動に支障をきたすことのないよう、計画的な修繕工事を行っています。また、省エネルギーキャンパスを目指し、省エネ型設備への更新工事を計画的に行っています。一方、校舎の耐震化を図り、学生・生徒・教職員等の安全を確保することは、施設整備方針上の最優先課題であるとの認識のもと、学園経営戦略「第1次中期計画（2009-2012）」及びこれに続く「第2次中期経営計画（2013-2016）」において、石川台キャンパス及び旗の台キャンパスの耐震化事業を完了するとともに、越谷キャンパスや湘南キャンパスにおいても非構造部材の耐震化を行ってきました。今後は、校舎耐震化が未了となっている越谷キャンパスの校舎耐震化事業を推進し、学生・教職員等の安全確保に取り組んでいきます。

[2]文教大学・大学院

ガバナンス

〈大学審議会・大学院委員会〉

大学の意思決定に係る審議機構として、学長、副学長、学部長、学部選出委員、大学事務局長及び両キャンパス事務局長による大学審議会を設置しています。大学審議会は、大学の教育研究の基本方針に関する事項のほか、学則、大学組織、教員人事に関わる重要事項等を審議し、大学の意思を決定します。2019年度は、11回の審議会を開催しました。

大学院に関わる事項については、学長、副学長、研究科長、学部長、専攻長、大学事務局長及び両キャンパス事務局長による大学院委員会を同様に設置しています。大学院委員会は、2019年度に6回開催しました。

委員会：

学部横断的な事項に取り組むための教学運営上の組織として、次のとおりキャンパスごとに委員会を設置しています。

〈学生委員会〉

学生の厚生補導、学外活動の指導援助、学生の福利厚生に関すること。

〈教務委員会〉

各学部に通ずる教育課程の重要事項に関すること。

〈就職委員会〉

学生の就職及び進路指導に関すること。

〈ハラスメント防止委員会〉

ハラスメント防止及び解決に関すること。

〈学長戦略会議〉

上記委員会の委員長（ハラスメント防止委員長を除く）と点検・評価委員長、国際交流センター長、学長、副学長、図書館長、大学事務局長及びキャンパス事務局長により、学長戦略会議を設置しており、学長の補佐機関として教学に関する企画及び立案、連絡調整等を行っています。学長戦略会議は、2019年度に11回開催しました。

自己点検・評価

学長直轄の委員会として点検・評価委員会が設置されており、担当の学長補佐を委員長に、各学部からの選出委員、キャンパス事務局及び法人事務局から選出された委員で構成されています。2019年度は11回の委員会を開催し、主に内部質保証推進体制について検討しました。

情報公開の推進

大学ホームページで、受験生を始めとした学外の方々が本学の教育情報を簡単に調べることができるように情報の公表に努めています。

また、日本私立学校振興・共済事業団が運用する大学ポートレート(私学版)にも、本学の教育情報の公表をしています。

施設設備整備

施設設備の整備においては、学生の安全・安心を第一義とした各キャンパスの安全性を高める環境整備と教育効果を高める環境整備を二本の柱とし、事業を推進しています。2019年度の具体的な整備事業については、大学の項目に記載しています。

学校法人の目的は、学校を運営して教育・研究を遂行することにあります。教育活動は人材の育成を目的とし、研究活動はその成果を学内に留めることなく、社会に還元することを目的とします。学校法人は、このような特性を踏まえ、永続的に教育研究活動を行えるよう必要な校地、校舎等の基本財産の維持や長期にわたって収入と支出の均衡の状況について確認できるよう、学校法人会計基準に基づき、次の3つの財務諸表を主体として会計処理を行っています。

なお、平成27年度から、財務諸表の内容がより一般的に分かりやすく、社会から一層求められている説明責任を的確に果たすことができるものとして、また、学校法人の適切な経営判断に一層資するものとなるよう学校法人会計基準が改正されました。

学校法人会計と
企業会計の違いについて

企業会計が営利目的の事業活動とその成果(財政状態)について、収益力を高めること及び利害関係者に開示することを目的としているのに対し、学校法人会計は一般企業よりも高い公共性から、学校経営における教育研究活動の健全性や永続性を開示することを目的としています。

財務諸表	説明
資金収支計算書	当該会計年度に行った教育研究等の諸活動に対応する全ての資金の収入及び支出の内容と、支払資金(現金及びいつでも引き出すことができる預貯金)の収入及び支出の顛末を明らかにするものです。これらを「教育活動による資金収支」「施設整備等活動による資金収支」「その他の活動による資金収支」の3つに区分けた活動区分資金収支計算書をあわせて作成することにより、活動区分ごとの資金の流れが分かります。(予算科目の説明:【収入の部】及び【支出の部】)
事業活動収支計算書	当該会計年度の事業活動収入及び事業活動支出の内容を明らかにし、事業活動収支の均衡状態が保たれているかどうかを示すもので、学校法人の負債とならない収入と、借入金返済及び施設・設備購入等の資本的支出に充てる額を除いた支出を計上します。これによって、経営状態が健全であるかどうかを判断することができます。また、「教育活動収支」「教育活動外収支」「特別収支」の3つの区分に分けることで、経常的(教育活動及び教育活動外収支)・臨時的(特別収支)な収支バランスの状況を的確に把握することができます。(予算科目の説明:【事業活動収入の部】及び【事業活動支出の部】)
貸借対照表	一定時点(3月末現在)における資産、負債及び純資産の内容並びに残高を示し、学校法人としての財政状況(ストック)を明らかにするものです。

資金収支計算書

収入の部	
科目	説明
学生生徒等納付金収入	授業料、入学金、教育充実費(維持管理費)等、学生生徒等が納入する学費
手数料収入	主に入学検定料等の受験料
寄付金収入	個人や企業からの金銭による寄付金
補助金収入	教育や研究に対しての国や地方公共団体からの助成金
資産売却収入	主に保有する有価証券の満期償還や資産を売却したことでの収入
付随事業・収益事業収入	公開講座の受講料や外部機関からの受託研究資金
受取利息・配当金収入	主に預金、債券等を運用して得た利息又は配当金
雑収入	退職金財団等からの交付金や前年度以前に計上した収入又は支出の修正による資金収入等
借入金等収入	日本私立学校振興・共済事業団又は銀行等からの借入金
前受金収入	主に新入生の入学手続き時に受け取る学納金
その他の収入	当年度に入金される「前期末未収入金収入」等

支出の部	
科目	説明
人件費支出	教職員の給与及び退職金並びに日本私立学校振興・共済事業団、退職金財団等の掛金
教育研究経費支出	教育研究、奨学金及び学生生活を支援するために要する費用
管理経費支出	学生の募集活動や事務管理費等の教育に直接関係のない費用
借入金等利息支出	借入金に伴う利息
借入金等返済支出	借入金元本部分の返済
施設関係支出	土地、建物、構築物等の固定資産取得のための支出
設備関係支出	機器備品、図書、車両等の固定資産取得のための支出
資産運用支出	将来の固定資産を取得するための準備金や特定事業目的のための基金等への繰入支出
その他の支出	当年度に支払われる「前期末未払金支払支出」等

事業活動収支計算書

※事業活動収支計算書特有の科目を掲載。

事業活動収入の部		
科目	説明	区分
寄付金	資金収支計算書の寄付金に加え、現物寄付を計上	教育活動特別
資産売却差額	保有していた資産の額(帳簿価額)以上で売却した時の差額分	特別

事業活動支出の部		
科目	説明	区分
人件費(退職給与引当金繰入額)	資金収支計算書では人件費支出の中に退職金支出が含まれていますが、事業活動収支計算書では教職員人件費のほか退職給与引当金繰入額という科目があります。これは当該年度末に在職する教職員全員の退職金から、一定額を引当金として確保するため、前年度末の引当金計上額との差額(不足額)を追加的に繰り入れるものです。	教育活動
教育研究経費(減価償却額)	資金収支計算書に掲載されている科目以外に、減価償却額が計上されています。減価償却とは、時間の経過により老朽化することで価値が減少する固定資産(校舎・機器備品)について、資産としての価値を減少させるための手続をいいます。実際に資金を伴う支出がある訳ではありませんが、取得した建物等の資産を活用して教育・研究を行っている実態から、使用期間に応じて取得価額を合理的に配分して毎年費用化します。	教育活動
管理経費(減価償却額)		
資産処分差額	保有していた資産の額(帳簿価額)を下回って売却した時の差額分	特別

基本金組入前当年度収支差額	事業活動収入と事業活動支出の差額で、基本金組入額控除前の金額。これにより、基本金組入前の純粋な収支を把握することができ、単年度における収支バランスを確認することができます。	—
基本金組入額合計	学校法人の諸活動に必要な資産を継続的に維持するために事業活動収支差額から組入れるもので、土地や建物等の施設関係資産の取得額(第1号基本金)、奨学金への繰入額(第3号基本金)、1ヶ月分の運転資金相当額(第4号基本金)等で構成されます。このうち、基本金組入対象となるのは、自己資金で買った相当額となります。	—
当年度収支差額	基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額合計を控除した後の差額。収支差額がプラスであれば、資本的支出(基本金組入額)と経費支出の全てが事業活動収入で賄われたこととなります。この収支差額の累計が翌年度繰越収支差額です。	—

[1] 財産目録

(単位:千円)

区 分	2019年度 (2020年3月31日現在)		2018年度 (2019年3月31日現在)	
一 基本財産				
1 土地	282,189.49 ㎡	12,159,393	282,189.49 ㎡	12,159,393
校舎敷地	208,177.04 ㎡	10,354,102	208,177.04 ㎡	10,354,102
図書館敷地	3,146.61 ㎡	75,245	3,146.61 ㎡	75,245
体育館敷地	4,279.73 ㎡	99,143	4,279.73 ㎡	99,143
運動場敷地	66,586.11 ㎡	1,630,904	66,586.11 ㎡	1,630,904
2 建物	109,019.98 ㎡	12,059,183	109,019.98 ㎡	12,629,972
①校舎	90,036.67 ㎡	9,816,367	90,036.67 ㎡	10,294,005
②図書館	8,185.47 ㎡	675,598	8,185.47 ㎡	701,155
③講堂・体育館	8,666.68 ㎡	1,338,948	8,666.68 ㎡	1,396,429
④寄宿舍	1,695.10 ㎡	198,782	1,695.10 ㎡	207,130
⑤その他	436.06 ㎡	29,488	436.06 ㎡	31,253
⑥建設仮勘定		5,489,587		402,851
3 図書	582,713 冊	2,682,487	585,193 冊	2,694,589
4 教具・校具・備品	24,845 点	624,856	23,297 点	694,172
5 その他		1,003,237		1,106,264
基本財産計		34,018,743		29,687,241
二 運用財産				
1 現金預金		16,020,506		14,501,098
2 特定資産		2,516,347		2,515,275
3 有価証券		40,095		40,110
4 差入保証金		599		559
5 長期貸付金		0		0
6 短期貸付金		0		84
7 未収入金		376,157		190,706
8 前払金		85,768		87,334
9 その他		1,752		878
運用財産計		19,041,224		17,336,044
三 負債				
1 固定負債		7,925,521		3,431,874
①長期借入金		4,500,000		0
市中銀行		(4,500,000)		(0)
②長期未払金		88,399		85,453
③退職給与引当金		3,337,121		3,346,421
2 流動負債		4,381,508		3,971,075
①短期借入金		400,000		250
市中銀行		(400,000)		(250)
②未払金		1,166,626		1,059,592
③前受金		2,588,444		2,708,207
④預り金		226,439		203,026
負債総額		12,307,029		7,402,948
四 基本財産＋運用財産		53,059,966		47,023,284
五 純資産(四－三)		40,752,937		39,620,336
$\frac{\text{総負債(三)－前受金}}{\text{総資産(四)}} \times 100$		18.0 %		10.0 %

※千円未満の端数については、四捨五入しているため、合計等の額が計算上一致しない場合があります。

[2] 収支計算書

資金収支計算書

(単位:千円)

収入の部				前年度比	
	2019年度 予算	2019年度 決算	差異	2018年度 決算	増減
学生生徒等納付金収入	10,906,662	10,841,971	64,691	11,017,656	△ 175,684
手数料収入	461,764	491,256	△ 29,492	494,364	△ 3,107
寄付金収入	30,296	18,589	11,707	11,231	7,358
補助金収入 (国庫補助金収入) (地方公共団体補助金収入)	1,067,327 (474,050) (593,277)	1,198,769 (550,212) (648,556)	△ 131,442 (△ 76,162) (△ 55,279)	952,428 (317,536) (634,892)	246,341 (232,676) (13,665)
資産売却収入	76,016	27,133	48,883	26,868	266
付随事業・収益事業収入	151,747	134,399	17,348	137,911	△ 3,512
受取利息・配当金収入	10,774	14,366	△ 3,592	11,841	2,525
雑収入	361,009	389,485	△ 28,476	204,295	185,190
借入金等収入	5,200,200	5,200,000	200	0	5,200,000
前受金収入	2,941,133	2,588,422	352,711	2,708,110	△ 119,688
その他の収入	214,331	217,897	△ 3,566	468,874	△ 250,977
資金収入調整勘定	△ 3,037,189	△ 3,084,343	47,154	△ 3,132,849	48,506
当年度収入合計	18,384,070	18,037,945	346,125	12,900,729	5,137,217
前年度繰越支払資金	14,501,098	14,501,098	0	12,934,240	1,566,858
収入の部合計	32,885,168	32,539,044	346,124	25,834,969	6,704,075

入学定員の厳格化により前年度と比較して約200名弱の学生生徒数が減少したことで、予算編成時の算出から減少しました。

2021年4月開設の東京あだちキャンパス建設にあたり、省エネ対策を組み入れた校舎であることから、国の補助金を獲得しました。

主に退職者が増加したことにより退職金財団等交付金収入が増加しました。

東京あだちキャンパス建設資金の一部に利用する市中銀行借入金です。

支出の部				前年度比	
	2019年度 予算	2019年度 決算	差異	2018年度 決算	増減
人件費支出	7,723,920	7,715,424	8,496	7,380,769	334,655
教育研究経費支出	2,639,304	2,405,337	233,967	2,452,342	△ 47,005
管理経費支出	934,446	841,012	93,434	798,601	42,412
借入金等利息支出	10,355	10,339	16	0	10,339
借入金等返済支出	400,000	300,250	99,750	0	300,250
施設関係支出	5,403,975	5,117,609	286,366	346,339	4,771,270
設備関係支出	290,040	197,365	92,675	140,936	56,429
資産運用支出	81,223	40,050	41,173	33,672	6,378
その他の支出	1,149,626	1,148,037	1,589	1,252,410	△ 104,374
予備費	50,000	0	50,000	0	0
資金支出調整勘定	△ 1,450,397	△ 1,256,885	△ 193,512	△ 1,071,199	△ 185,686
当年度支出合計	17,232,492	16,518,538	713,954	11,333,870	5,184,667
翌年度繰越支払資金	15,652,676	16,020,506	△ 367,830	14,501,098	1,519,408
支出の部合計	32,885,168	32,539,044	346,124	25,834,969	6,704,075
当年度収支差額	1,151,578	1,519,408	△ 367,830	1,566,858	△ 47,451

主に越谷校舎諸設備に係る修繕費が当初の見込みより下回ったために減少しました。

東京あだちキャンパス建設資金借入金の返済支出です。

主に越谷校舎13号館大型空調更新工事、湘南校舎エレベーター更新工事による建物支出及び東京あだちキャンパス建設による建設仮勘定支出となります。

湘南校舎スタジオ機器リース等の新規リース物件を取得しました。

※千円未満の端数については、四捨五入しているため、合計等の額が計算上一致しない場合があります。

活動区分資金収支計算書

(単位:千円)

科 目	2019年度 予 算	2019年度 決 算	差 異	前年度比	
				2018年度決算	増 減
教育活動による資金収支					
学生生徒等納付金収入	10,906,662	10,841,971	64,691	11,017,656	△ 175,684
手数料収入	461,764	491,256	△ 29,492	494,364	△ 3,107
特別寄付金収入	1,257	615	642	3,448	△ 2,833
一般寄付金収入	9,236	7,722	1,514	7,783	△ 61
経常費等補助金収入	1,067,327	1,072,237	△ 4,910	917,501	154,737
付随事業収入	151,747	134,399	17,348	137,911	△ 3,512
雑収入	361,009	386,043	△ 25,034	204,243	181,799
教育活動資金収入計	12,959,002	12,934,244	24,758	12,782,905	151,339
人件費支出	7,723,920	7,715,424	8,496	7,380,769	334,655
教育研究経費支出	2,639,304	2,405,337	233,967	2,452,342	△ 47,005
管理経費支出	912,846	819,396	93,450	797,476	21,921
教育活動資金支出計	11,276,070	10,940,158	335,912	10,630,587	309,571
差引	1,682,932	1,994,086	△ 311,154	2,152,319	△ 158,232
調整勘定等	418,922	△ 49,885	468,807	△ 101,110	51,225
教育活動資金収支差額	2,101,854	1,944,201	157,653	2,051,209	△ 107,008
施設整備等活動による資金収支					
施設設備寄付金収入	19,803	10,251	9,522	0	10,251
施設設備補助金収入	0	126,531	△ 126,531	34,927	91,604
施設設備売却収入	0	1	△ 1	176	△ 175
施設整備等活動資金収入計	19,803	136,784	△ 116,981	35,103	101,680
施設関係支出	5,403,975	5,117,609	286,366	346,339	4,771,270
設備関係支出	290,040	197,365	92,675	140,936	56,429
施設整備等活動資金支出計	5,694,015	5,314,974	379,041	487,276	4,827,698
差引	△ 5,674,212	△ 5,178,190	△ 496,022	△ 452,172	△ 4,726,018
調整勘定等	△ 20,674	△ 144,665	123,991	△ 44,731	△ 99,934
施設整備等活動資金収支差額	△ 5,694,886	△ 5,322,855	△ 372,031	△ 496,904	△ 4,825,952
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	△ 3,593,032	△ 3,378,654	△ 214,378	1,554,305	△ 4,932,959
その他の活動による資金収支					
借入金等収入	5,200,200	5,200,000	200	0	5,200,000
有価証券売却収入	76,016	27,132	48,884	26,692	441
前田学術研究奨学資金引当特定資産取崩収入	3,000	3,945	△ 945	0	3,945
貸付金回収収入	84	84	0	83	1
預り金受入収入	20,351	23,375	△ 3,024	11,295	12,080
差入保証金戻入収入	190	190	0	426	△ 236
預託金回収収入	0	9	△ 9	0	9
小計	5,299,841	5,254,736	45,105	38,496	5,216,240
受取利息・配当金収入	10,774	14,366	△ 3,592	11,841	2,525
過年度修正収入	0	3,442	△ 3,442	51	3,391
その他の活動資金収入計	5,310,615	5,272,544	38,071	50,388	5,222,156
借入金等返済支出	400,000	300,250	99,750	0	300,250
有価証券購入支出	76,016	25,289	50,727	25,144	145
前田学術研究奨学資金引当特定資産繰入支出	5,017	14,531	△ 9,514	8,077	6,454
差入保証金支出	190	230	△ 40	451	△ 221
貯蔵品購入支出	2,700	2,700	0	2,700	0
小計	483,923	343,000	140,923	36,372	306,628
借入金等利息支出	10,355	10,339	16	0	10,339
借入手数料支出	21,600	21,600	0	0	21,600
過年度修正支出	0	16	△ 16	1,125	△ 1,109
その他の活動資金支出計	515,878	374,954	140,924	37,497	337,458
差引	4,794,737	4,897,590	△ 102,853	12,892	4,884,698
調整勘定等	△ 127	472	△ 599	△ 339	811
その他の活動資金収支差額	4,794,610	4,898,062	△ 103,452	12,553	4,885,509
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	1,151,578	1,519,408	△ 367,830	1,566,858	△ 47,450
前年度繰越支払資金	14,501,098	14,501,098	0	12,934,240	1,566,858
翌年度繰越支払資金	15,652,676	16,020,506	△ 367,830	14,501,098	1,519,408

*千円未満の端数については、四捨五入しているため、合計等の額が計算上一致しない場合があります。

事業活動収支計算書

(単位:千円)

科目	2019年度 予算	2019年度 決算	差異	前年度比	
				2018年度決算	増減
事業活動収入の部					
学生生徒等納付金	10,906,662	10,841,971	64,691	11,017,656	△ 175,684
手数料	461,764	491,256	△ 29,492	494,364	△ 3,107
寄付金	30,296	12,318	17,978	16,089	△ 3,771
経常費等補助金	1,066,382	1,072,237	△ 5,855	917,501	154,737
付随事業収入	151,747	134,399	17,348	137,911	△ 3,512
雑収入	361,009	394,490	△ 33,481	204,780	189,710
教育活動収入計	12,977,860	12,946,672	31,188	12,788,300	158,373
事業活動支出の部					
人件費	7,749,186	7,714,337	34,849	7,406,117	308,219
教育研究経費	3,493,642	3,278,230	215,412	3,383,747	△ 105,517
管理経費	992,597	903,526	89,071	878,156	25,370
徴収不能額等	500	449	51	0	449
教育活動支出計	12,235,925	11,896,542	339,383	11,668,020	228,522
教育活動収支差額	741,935	1,050,131	△ 308,196	1,120,280	△ 70,149
事業活動収入の部					
受取利息・配当金	10,774	14,358	△ 3,584	11,841	2,517
その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
教育活動外収入計	10,774	14,358	△ 3,584	11,841	2,517
事業活動支出の部					
借入金等利息	10,355	10,339	16	0	10,339
借入手数料	21,600	21,600	0	0	21,600
その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
教育活動外支出計	31,955	31,939	16	0	31,939
教育活動外収支差額	△ 21,181	△ 17,581	△ 3,600	11,841	△ 29,422
経常収支差額	720,754	1,032,550	△ 311,796	1,132,121	△ 99,571
事業活動収入の部					
資産売却差額	0	1,910	△ 1,910	1,846	64
その他の特別収入	945	150,084	△ 149,139	37,442	112,642
特別収入計	945	151,994	△ 151,049	39,288	112,706
事業活動支出の部					
資産処分差額	23,293	51,927	△ 28,634	16,877	35,050
その他の特別支出	0	16	△ 16	1,125	△ 1,109
特別支出計	23,293	51,943	△ 28,650	18,002	33,941
特別収支差額	△ 22,348	100,051	△ 122,399	21,286	78,765
基本金組入前当年度収支差額	648,406	1,132,601	△ 484,195	1,153,407	△ 20,806
基本金組入額合計	△ 884,354	△ 364,102	△ 520,252	△ 254,103	△ 109,998
当年度収支差額	△ 235,948	768,499	△ 1,004,447	899,304	△ 130,805
前年度繰越収支差額	△ 6,322,654	△ 6,322,654	0	△ 7,221,958	899,304
基本金取崩額	0	0	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△ 6,558,602	△ 5,554,155	△ 1,004,447	△ 6,322,654	768,499
(参考)					
事業活動収入計	12,989,579	13,113,024	△ 123,445	12,839,428	273,596
事業活動支出計	12,341,173	11,980,423	360,750	11,686,022	294,402

※千円未満の端数については、四捨五入しているため、合計等の額が計算上一致しない場合があります。

教育活動収支

(経常的な収支のうち、教育活動による収支状況)

経常費補助金や退職者に対する交付金が増加し、修繕費や広報費等経費の削減により、教育研究経費及び管理経費が減少したため、収支差額は収入超過となりました。

教育活動外収支

(経常的な収支のうち、財務活動による収支状況)

主に保有有価証券の利金や配当金を収入として計上しています。外部借入金の利用により、利息や手数料の支出が発生したため、収支差額は支出超過となりました。

特別収支

(資産売却や処分等の臨時的な収支状況)

東京あだちキャンパス開設による補助金及び寄付金収入により収入超過となりました。

当年度収支差額

経常収支差額及び特別収支差額ともに収入超過となったため、基本金組入前当年度収支差額は収入超過となりました。また、基本金組入額も予算に比して減少したため、当年度収支差額においても収入超過となりました。

翌年度繰越収支差額

累積収支差額である翌年度繰越収支差額の支出超過が減少しました。

貸借対照表

(単位:千円)

資産の部			
科 目	2019年度	2018年度	増 減
固定資産	36,575,796	32,243,207	4,332,590
有形固定資産	33,739,360	29,409,435	4,329,925
土地	12,159,393	12,159,393	0
建物	12,059,183	12,629,972	△ 570,789
構築物	723,855	828,459	△ 104,603
教育研究用機器備品	548,220	605,951	△ 57,731
管理用機器備品	76,636	88,220	△ 11,585
図書	2,682,487	2,694,589	△ 12,102
建設仮勘定	5,489,587	402,851	5,086,736
特定資産	2,516,347	2,515,275	1,072
その他の固定資産	320,089	318,497	1,593
ソフトウェア	109,755	108,179	1,577
有価証券	40,095	40,110	△ 15
その他	170,239	170,208	31
流動資産	16,484,170	14,780,078	1,704,092
現金預金	16,020,506	14,501,098	1,519,408
その他	463,664	278,979	184,685
資産の部合計	53,059,966	47,023,284	6,036,682

東京あだちキャンパスに向けた建設資金を建設仮勘定として計上しています。

負債の部			
科 目	2019年度	2018年度	増 減
固定負債	7,925,521	3,431,874	4,493,647
長期借入金	4,500,000	0	4,500,000
長期未払金	88,399	85,453	2,947
退職給与引当金	3,337,121	3,346,421	△ 9,300
流動負債	4,381,508	3,971,075	410,434
短期借入金	400,000	250	399,750
未払金	1,166,626	1,059,592	107,035
前受金	2,588,444	2,708,207	△ 119,763
預り金	226,439	203,026	23,412
負債の部合計	12,307,029	7,402,948	4,904,081

東京あだちキャンパス建設資金の一部に利用している市中銀行の借入金です。

将来の教職員の退職金支給に備えるため、退職金債務をあらかじめ負債として認識しています。

2020年度入学生の入学金や授業料等です。

純資産の部			
科 目	2019年度	2018年度	増 減
基本金	46,307,092	45,942,990	364,102
第1号基本金	45,107,960	44,743,859	364,102
第3号基本金	398,132	398,132	0
第4号基本金	801,000	801,000	0
繰越収支差額	△ 5,554,155	△ 6,322,654	768,499
翌年度繰越収支差額	△ 5,554,155	△ 6,322,654	768,499
純資産の部合計	40,752,937	39,620,336	1,132,601
負債及び純資産の部合計	53,059,966	47,023,284	6,036,682

新たな固定資産の取得等により増加しました。

奨学基金や研究資金等として継続的に保持し、かつ運用する資産の額となります。

恒常的に保持すべき資金として、1カ月分の運転資金を算定しています。

純資産は前年度末から約10億円増加しました。

※千円未満の端数については、四捨五入しているため、合計等の額が計算上一致しない場合があります。

[1] 収支計算書の推移

当該年度を含む過去5年間の財政の推移を掲載しています。

資金収支計算書

(単位:百万円)

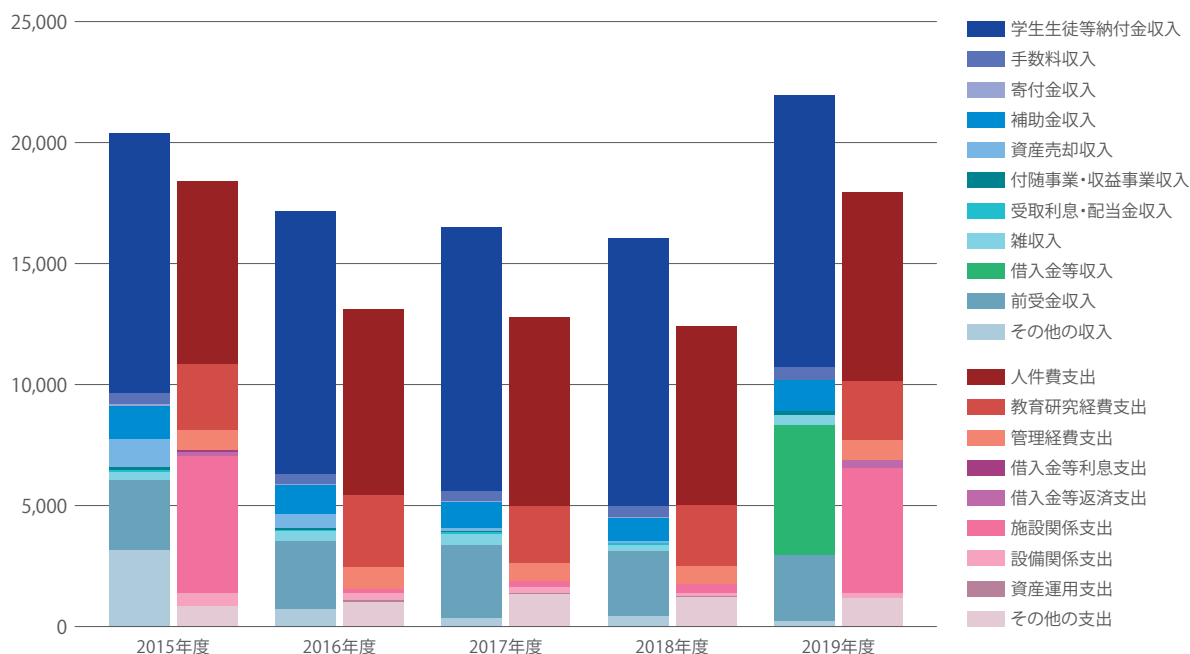
収入の部	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
学生生徒等納付金収入	10,684	10,796	10,877	11,018	10,842
手数料収入	480	476	435	494	491
寄付金収入	32	31	31	11	19
補助金収入	1,425	1,160	1,090	952	1,199
資産売却収入	1,180	600	80	27	27
付随事業・収益事業収入	139	141	137	138	134
受取利息・配当金収入	26	9	7	12	14
雑収入	330	394	488	204	389
借入金等収入	0	0	0	0	5,200
前受金収入	2,894	2,825	2,941	2,708	2,588
その他の収入	3,194	743	423	469	218
資金収入調整勘定	△ 3,652	△ 3,293	△ 3,281	△ 3,133	△ 3,084
前年度繰越支払資金	9,840	9,223	11,319	12,934	14,501
収入の部合計	26,571	23,106	24,545	25,835	32,539

支出の部	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
人件費支出	7,558	7,679	7,826	7,381	7,715
教育研究経費支出	2,735	2,948	2,285	2,452	2,405
管理経費支出	904	918	818	799	841
借入金等利息支出	1	0	0	0	10
借入金等返済支出	169	0	0	0	300
施設関係支出	5,685	192	184	346	5,118
設備関係支出	501	323	272	141	197
資産運用支出	0	1	74	34	40
その他の支出	913	1,072	1,342	1,252	1,148
資金支出調整勘定	△ 1,118	△ 1,345	△ 1,190	△ 1,071	△ 1,257
翌年度繰越支払資金	9,224	11,319	12,934	14,501	16,021
支出の部合計	26,571	23,106	24,545	25,835	32,539

※百万円未満の端数については、四捨五入しているため、合計等の額が計算上一致しない場合があります。

資金収支の推移

(単位:百万円)



※調整勘定、前年度繰越支払資金及び翌年度繰越支払資金を除いて表示しています。

事業活動収支計算書

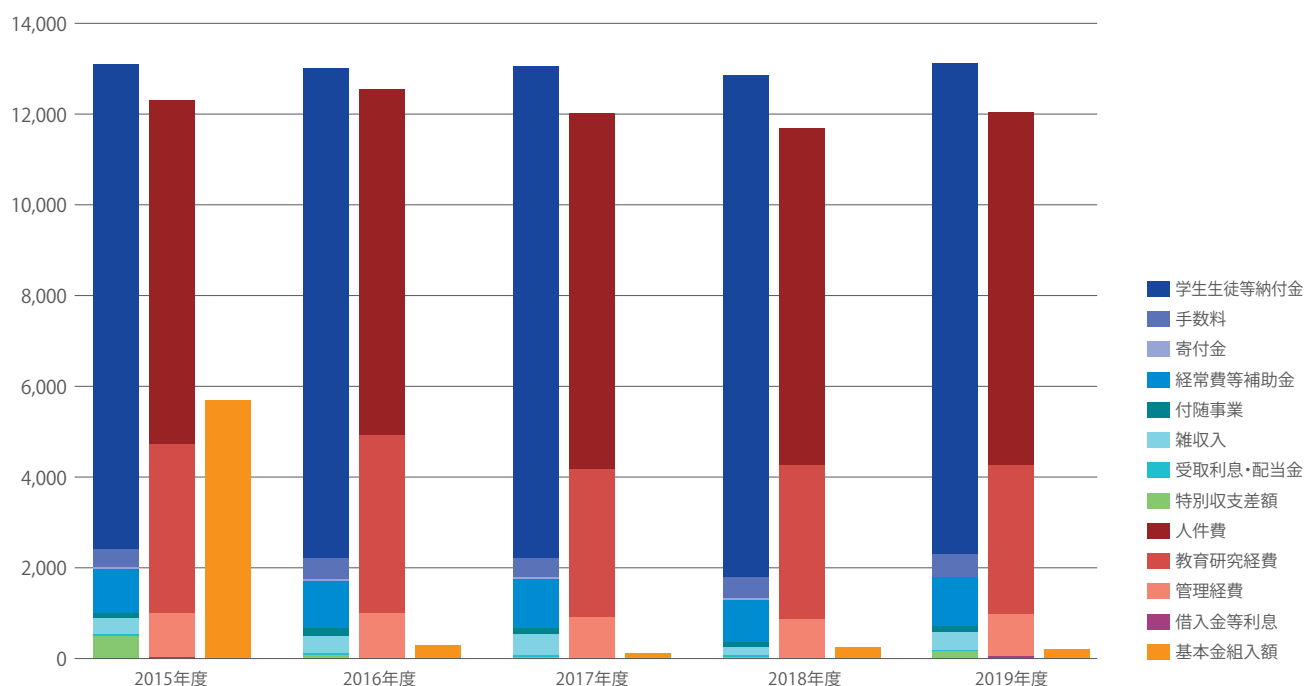
(単位:百万円)

教育活動・教育活動外収支		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
収入	学生生徒等納付金	10,684	10,796	10,877	11,018	10,842
	手数料	480	476	435	494	491
	寄付金	8	13	8	16	12
	経常費等補助金	948	1,058	1,090	918	1,072
	付随事業	139	141	137	138	134
	雑収入	338	419	488	205	394
	受取利息・配当金	23	9	7	12	14
支出	人件費	7,560	7,629	7,858	7,406	7,714
	教育研究経費	3,723	3,918	3,256	3,384	3,278
	管理経費	995	1,006	897	878	904
	借入金等利息	1	0	0	0	32
経常収支差額		341	360	1,029	1,132	1,033
特別収支		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
収入	資産売却差額	0	0	7	2	2
	その他の特別収入	524	137	38	37	150
支出	資産処分差額	35	62	19	17	52
	その他の特別支出	0	0	2	1	0
特別収支差額		489	74	25	21	100
その他の数値		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
基本金組入前当年度収支差額		830	435	1,054	1,153	1,133
基本金組入額(△)		△ 5,687	△ 278	△ 111	△ 254	△ 364
当年度収支差額		△ 4,857	157	943	899	768
前年度繰越収支差額		△ 3,630	△ 8,486	△ 8,165	△ 7,222	△ 6,323
基本金取崩額		0	165	0	0	0
翌年度繰越収支差額		△ 8,486	△ 8,165	△ 7,222	△ 6,323	△ 5,554
学生生徒数(単位:人)		10,362	10,510	10,531	10,637	10,473

※百万円未満の端数については、四捨五入しているため、合計等の額が計算上一致しない場合があります。

事業活動収支の推移

(単位:百万円)



※事業活動収支の特別収支は超過分の差額を収入として表示しています。
 ※2015年度の基本金組入額が上昇している要因は、東京あだちキャンパスの土地取得によるものです。

貸借対照表

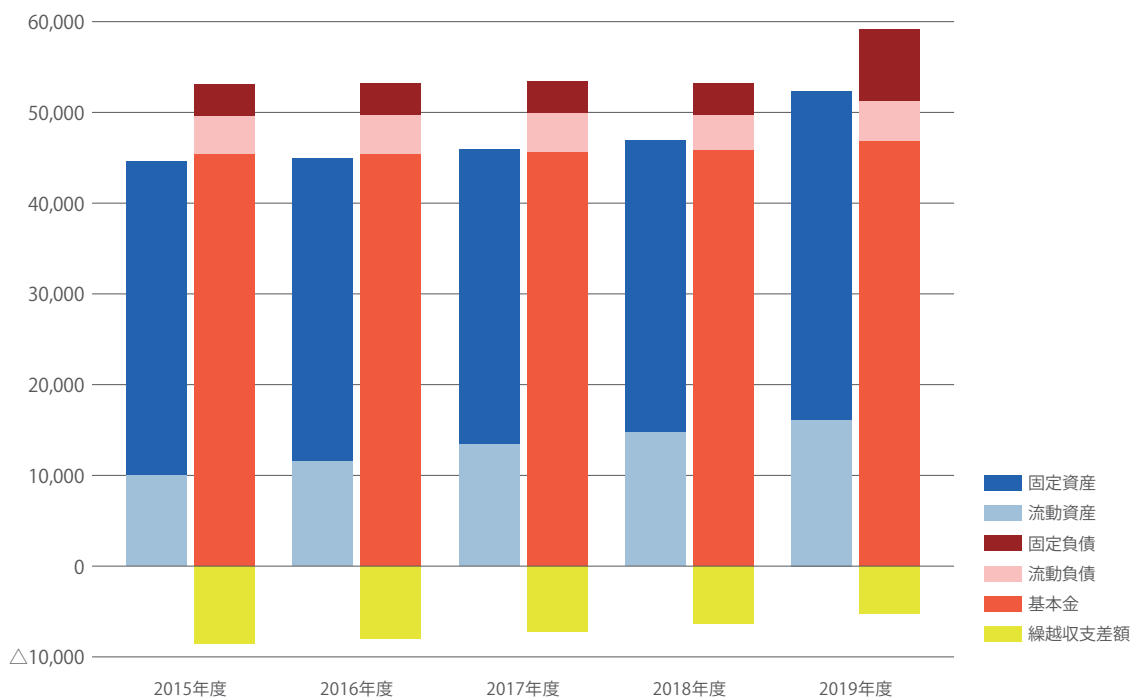
(単位:百万円)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
固定資産	34,548	33,367	32,768	32,243	36,576
有形固定資産	31,163	30,591	29,926	29,409	33,739
特定資産	2,506	2,507	2,507	2,515	2,516
その他の固定資産	879	269	335	318	320
流動資産	10,011	11,759	13,472	14,780	16,484
資産の部合計	44,558	45,126	46,240	47,023	53,060
固定負債	3,486	3,457	3,476	3,432	7,926
流動負債	4,094	4,256	4,296	3,971	4,382
負債の部合計	7,580	7,713	7,773	7,403	12,307
基本金	45,465	45,578	45,689	45,943	46,307
第1号基本金	44,266	44,379	44,490	44,744	45,108
第3号基本金	398	398	398	398	398
第4号基本金	801	801	801	801	801
繰越収支差額	△ 8,486	△ 8,165	△ 7,222	△ 6,323	△ 5,554
純資産の部合計	36,979	37,413	38,467	39,620	40,753
負債及び純資産の部合計	44,558	45,126	46,240	47,023	53,060

※百万円未満の端数については、四捨五入しているため、合計等の額が計算上一致しない場合があります。

貸借対照表の推移

(単位:百万円)



※「貸借対照表の推移」について、繰越収支差額をグラフの表示上マイナスの数値として表示しています。

[2] 財務比率の推移

当該年度を含む過去5年間の主な財務比率を掲載しています。

事業活動収支計算書の比率

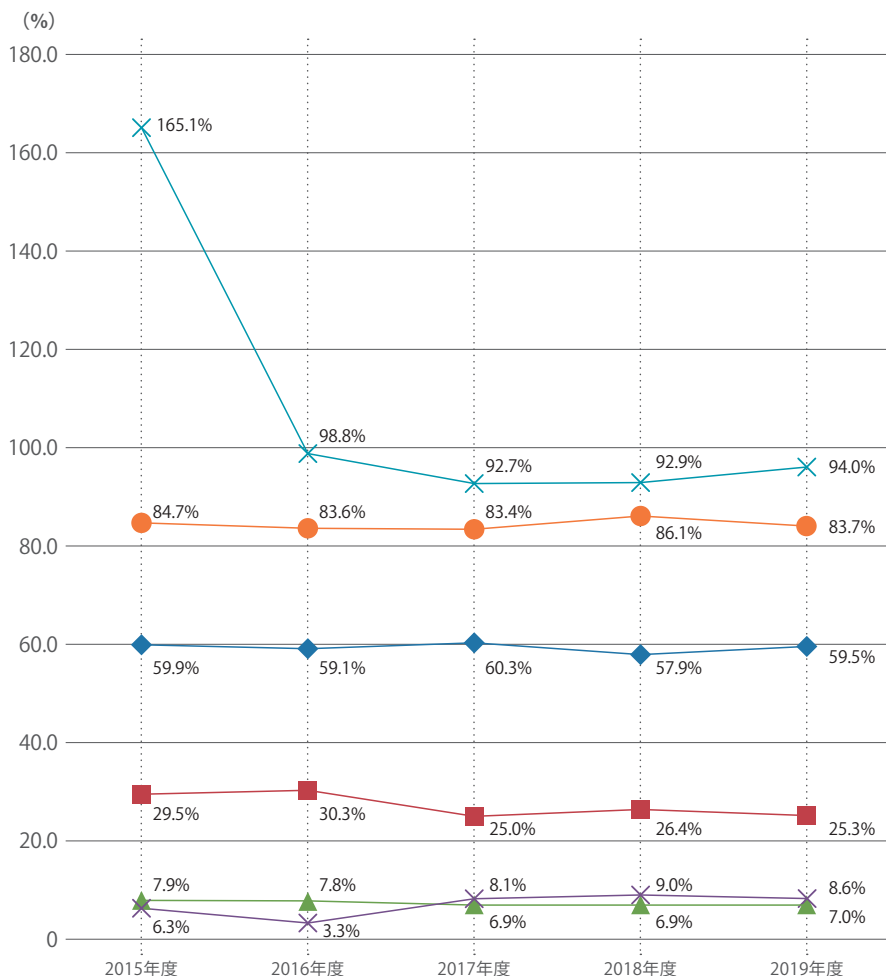
比率名	算出方法	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	評価指標*2	大学平均*3
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}^{*1}}$	59.9%	59.1%	60.3%	57.9%	59.5%	▼	53.8%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}^{*1}}$	29.5%	30.3%	25.0%	26.4%	25.3%	△	31.0%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}^{*1}}$	7.9%	7.8%	6.9%	6.9%	7.0%	▼	10.0%
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	6.3%	3.3%	8.1%	9.0%	8.6%	△	4.9%
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}$	165.1%	98.8%	92.7%	92.9%	94.0%	▼	106.7%
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}^{*1}}$	84.7%	83.6%	83.4%	86.1%	83.7%	～	75.3%

*1) 経常収入=教育活動収入計+教育活動外収入計

*2) 評価指標: (目安) △…高い値が良い ▼…低い方が良い ～…どちらともいえない

*3) 大学平均: 日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」より引用 (数値) 文他複数学部を設置する大学法人の2018年度の数値を表示

財務比率の推移(事業活動収支)



基本金組入後収支比率

比率が100%を超えると、赤字となり、100%未満であると黒字となります。基本金組入額に左右されるため、考慮する必要があります。

学生生徒等納付金比率

外部要因に影響されにくい重要な自己財源であるため、安定的に推移することが望まれます。

人件費比率

学校法人最大の支出要素であり、この比率が適正水準を超えると経営収支の悪化に繋がる要因となるため、適正な水準を保つ必要があります。

教育研究経費比率

教育研究活動の維持・充実のため不可欠である数値であるため、収支均衡を損なわない範囲で高い数値が望ましいものとなります。

管理経費比率

教育活動以外の目的で支出される経費であり、学校経営のための支出は止むを得ないものの、比率としては低い方が望ましいものとなります。

事業活動収支差額比率

この数値が高くなるほど自己資本は充実していることとなり、経営の財政面において余裕があるものとみなすことができます。

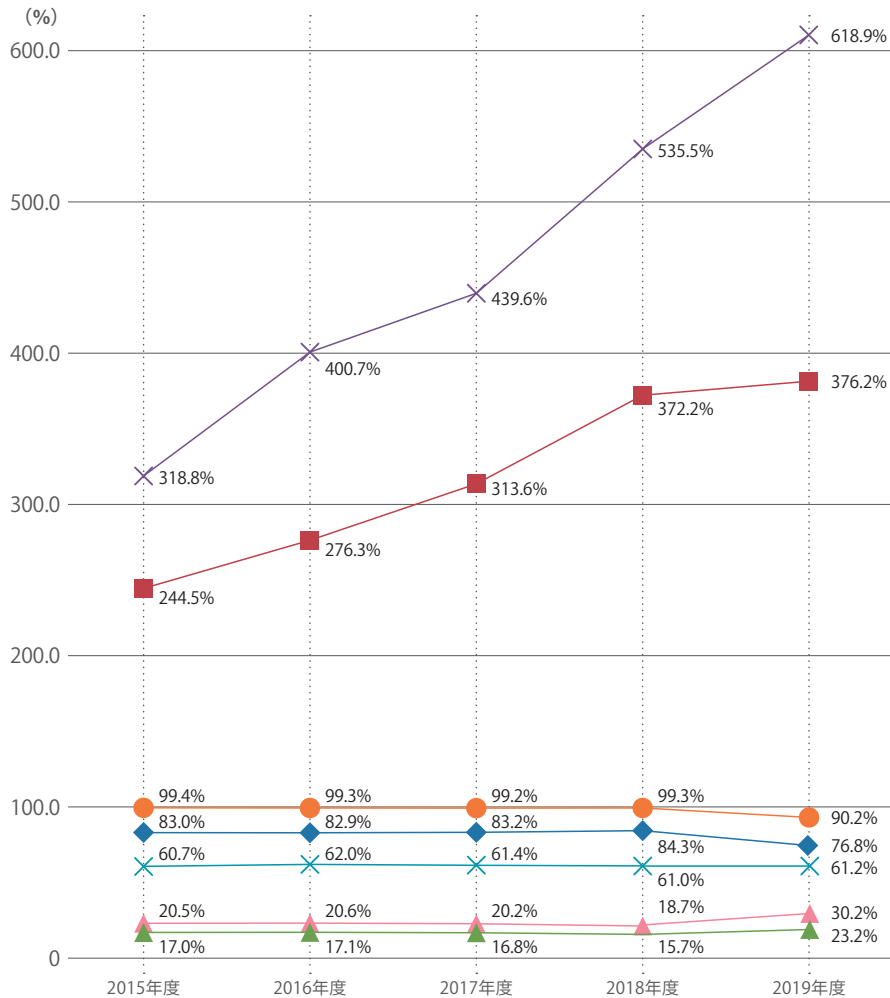
*2015年度の基本金組入後収支比率が上昇している要因は、東京あだちキャンパスの土地取得にかかる基本金組入額増加によるものです。

貸借対照表の比率

比率名	算出方法	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	評価指標*1	大学平均*2
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	83.0%	82.9%	83.2%	84.3%	76.8%	△	88.2%
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	244.5%	276.3%	313.6%	372.2%	376.2%	△	250.9%
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	17.0%	17.1%	16.8%	15.7%	23.2%	▼	11.8%
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	20.5%	20.6%	20.2%	18.7%	30.2%	▼	13.4%
前受金保有率	$\frac{\text{現預金}}{\text{前受金}}$	318.8%	400.7%	439.6%	535.5%	618.9%	△	335.8%
退職給与引当特定資産保有率	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	60.7%	62.0%	61.4%	61.0%	61.2%	△	73.0%
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	99.4%	99.3%	99.2%	99.3%	90.2%	△	98.0%

*1) 評価指標: (自安) △...高い値が良い ▼...低い方が良い
 *2) 大学平均: 日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」より引用 (数値) 文他複数学部を設置する大学法人の2018年度の数値より算出

財務比率の推移 (貸借対照表)



✕ 前受金保有率

翌年度の授業料や入学金が現金預金として適切に保有しているか図る比率であり、100%を越えることが一般的とされています。

■ 流動比率

1年以内の流動負債に対して、現金化が可能な流動資産がどの程度用意されているかの支払能力を判断する指標です。一般的に金融機関等では、200%を超えると優良であると判断されます。

● 基本金比率

基本金組入対象資産において、どの程度組み入れが完了しているか示す指標です。未組入額があることは、借入金や未払金をもって取得していることを示すため、100%に近いことが望ましいとされています。

◆ 純資産構成比率

学校法人の資金の調達源泉を分析する指標です。比率が高いほど財政的に安定しており、50%を下回ると他人資本が自己資本を上回っていることを示します。

✕ 退職給与引当特定資産保有率

将来的な支払債務である退職給与引当金に見合う資産を特定資産としてどの程度保有しているか判断するものです。

▲ 負債比率

他人資本が自己資本を上回っていないか分析する指標です。100%以下で低い方が望ましいとされます。

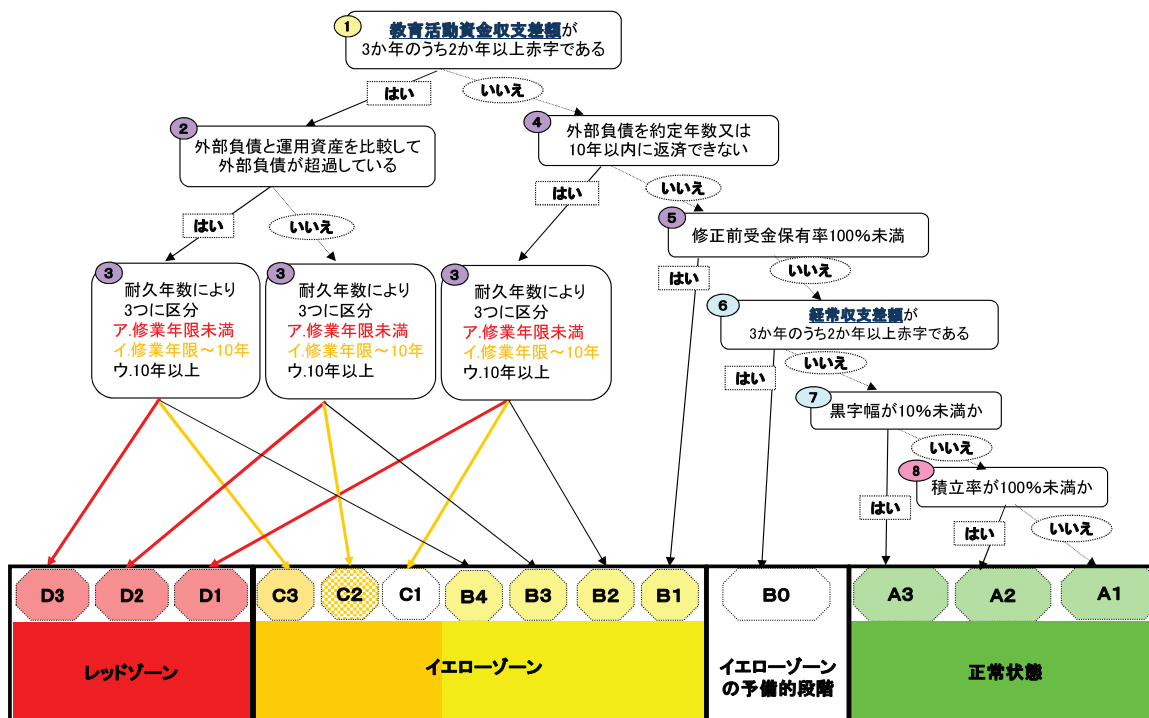
▲ 総負債比率

総資産に対する他人資本の比重を測る指標です。低いほど望ましく、100%を超えると債務超過であることを示します。

学園の経営状況

経営状況の分析にあたり、私立学校振興・共済事業団が提供する「定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分(法人全体)」を利用しております。(引用:https://www.shigaku.go.jp/files/s_center_shihyo27-1.pdf)

定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分(法人全体)



(金額単位:百万円)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
①教育活動資金収支差額 (3年中2年以上赤字か)	1,546 いいえ	1,465 いいえ	1,895 いいえ	2,051 いいえ	1,944 いいえ
④外部負債 (約定年数or10年以内返済できない)	1,137 いいえ	1,426 いいえ	1,316 いいえ	1,145 いいえ	6,155 いいえ
⑤修正前受金保有率 (100%未満)	427.5% いいえ	490.8% いいえ	526.2% いいえ	629.8% いいえ	717.7% いいえ
⑥経常収支差額 (3年中2年以上赤字か)	341 いいえ	360 いいえ	1,029 いいえ	1,132 いいえ	1,033 いいえ
⑦黒字幅(10%) (10%未満か)	2.7% はい	2.8% はい	8.5% はい	9.7% はい	8.7% はい
⑧積立率(100%) (100%未満か)	73.2% -	78.9% -	84.4% -	89.3% -	93.5% -
判定	A3	A3	A3	A3	A3

上記指標に基づいて、5年間の経営状況を置き換えると、判定区分は5年連続で「A3」の判定となります。

※「A3」 経営状況 : 正常領域

収支差額 : 黒字幅10%未満

ストック : 外部負債を約定通り返済でき、かつ、前受金<運用資産

長期的対応: 計画的な収支改善による黒字の増加

経営上の成果と課題

短期的成果としては、大規模キャッシュアウトを伴う新キャンパス建設にあたり、経済産業省の「省エネルギー投資促進に向けた支援補助金(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル(ZEB)実証事業)」を獲得し、環境に配慮した大型プロジェクトとしました。また、長期的な成果も含めた課題としては、大学および付属学校の安定した募集力を背景とした、一定水準以上の学生生徒等納付金収入の堅持が挙げられます。

今後の方針・対応方策

現在は経年で収支も堅調に推移し、経営状況は安定していますが、2020年度で節目を迎える「文教大学学園中期経営計画2017~2020」を総括したうえで、新たな学園経営計画を策定し、さらなる教育の質および組織のガバナンス強化、並びに財務管理を徹底し、堅実な学校運営の継続に注力していきます。

監 査 報 告 書

2020年5月26日

学校法人 文教大学学園
理 事 会 御中
評議員会 御中

学校法人 文教大学学園
監 事 佐藤 善吉
監 事 大内 康裕

私たちは、私立学校法第37条第3項及び学校法人文教大学学園寄附行為第27条の規定に基づき、学校法人文教大学学園の2019年度（2019年4月1日から2020年3月31日まで）の、業務及び財産の状況並びに理事の業務執行の状況について監査を行った。

私たちは監査にあたり、理事会及び評議員会その他必要と思われる会議に出席するほか、理事等から業務の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、監査室から業務監査の報告を受けるとともに、独立監査人である双葉監査法人と連携し、計算書類について検討を行うなど、必要と思われる監査手続きを実施した。

監査の結果、私たちは学校法人文教大学学園の業務に関する決定及び執行は適正であり、業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認める。

また、計算書類、すなわち資金収支計算書、事業活動収支計算書及び貸借対照表（固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む。）並びに財産目録は会計帳簿と合致し、学校法人文教大学学園の収支及び財産の状況を正しく示しているものと認める。

以 上

2019年度 文教大学学園事業報告書

2020年5月31日 発行

編集人 事業計画書・事業報告書策定プロジェクトチーム2019-2020
[法人事務局] 須賀 智哉・富田 祐未(総務課)
二藤 菜津美(財務経理課)・栗田 彩智美(管財課)
[経営企画局] 伊藤 諭・野作 公平・中島 茜(経営企画課)
[付属学校] 高田 恵里(附属中学校・高等学校事務室)

発行人 学校法人 文教大学学園

発行所 東京都品川区旗の台3-2-17 TEL:03-3783-5511(代)

制作/印刷 株式会社 クリエイティブ・マインド/株式会社 精美堂

